

教授

助教授

書記

第六條 校長ハ奏任トス文部大臣ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ監督ス

第七條 教授ハ奏任トス生徒ノ教授ヲ掌ル

助教授ハ判任トス教授ノ職務ヲ助ク

第八條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務會計ニ従事ス

第九條 高等師範學校及女子高等師範學校ニ舍監ヲ置ク他ノ學校ニ於テ舍監ヲ置クノ必要アルトキハ教官ヨリ兼任セシム

舍監ハ奏任トス校長ノ指揮ヲ承ケ生徒ノ取締ニ關スル事ヲ掌ル

第十條 高等師範學校及女子高等師範學校ニ第五條及第九條職員ノ外左ノ職員ヲ置ク

教諭

助教諭

訓導

第十一條 教諭ハ奏任トス附屬尋常中學校及附屬高等女學校ノ生徒ヲ教授シ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス
助教授ハ判任トス教諭ノ職務ヲ助ク

第十二條 訓導ハ判任トス附屬小學校生徒ノ授業ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ監督ス

第十三條 女子高等師範學校ニ保母ヲ置ク判任トス附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十五條 專任教官中其ノ學校所設ノ某學科ヲ擔任スヘキ者ヲ得サル場合ニ於テハ兼任教官ヲ置キ若クハ學校長ニ於テ

特ニ文部大臣ノ許可ヲ得テ臨時ニ講師ヲ囑託シ其ノ學科ノ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得

第十六條 文部大臣ハ高等師範學校女子高等師範學校中學校及東京工業學校教官ノ中ヨリ各其ノ附屬學校主事東京

教育博物館主事附屬幼稚園主事專門學部主事ヲ命シ其ノ事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第十七條 文部大臣ハ校務上ノ須要ニ依リ學校ニ商議委員會ヲ設クルコトアルヘシ其ノ委員ハ文部大臣之ヲ命ス

附 則

第十八條 本令ハ明治二十六年九月十一日ヨリ施行ス

尋常師範學校生徒定員表中改正ノ事

明治二十六年三月二十七日
文部省令第五號

明治二十五年七月文部省令第九號第一條尋常師範學校生徒定員表中東京府ノ生徒定員百四十名ヲ百六十名ト改メ神奈川縣ノ生徒定員百二十名ヲ百名ト改ム

尋常師範學校書記ノ人員改正ノ事

明治二十六年三月二十七日
文部省令第六號

明治二十五年七月文部省令第十四號第五條ヲ左ノ通改正ス

第五條 書記ノ人員ハ生徒定員百八十人未滿ノ學校ニ於テハ專任二人トシ同百八十人以上ノ學校ニ於テハ專任三人トス

尋常師範學校教員免許規則施行以前ノ檢定出願者ノ取扱方

明治二十六年三月三十日
文部省訓令第八號

明治二十五年文部省令第十三號尋常師範學校教員免許規則施行以前ニ出願ノ教員檢定志願者ハ同規則施行ノ後ニ於テモ仍從前ノ規定ニ依リ檢定ス

高等師範學校及女子高等師範學校生徒ノ缺員臨時補充ノ事

明治二十六年八月五日
文部省令第十一號

高等師範學校及女子高等師範學校ニ於テ生徒ノ缺員ヲ臨時補充スル必要アルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則第一條乃至第三條ノ規程ニ依ラス學力年齢當該學級ニ相當ノ資格アル者ヲ募集シ試験ノ上入學セシムルコトヲ得

北海道沖繩尋常師範學校ニ於ケル地方長官ノ特別處分ノ事

明治二十六年十月二十三日
文部省令第十四號

北海道及沖繩縣尋常師範學校ニ於テ明治二十四年文部省令第二十六號明治二十五年文部省令第六號第八號第十號第十一號第十二號第十四號第十五號ノ規定ニ依リ難キトキハ北海道廳長官沖繩縣知事ニ於テ文部大臣ノ許可ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

尋常師範學校生徒學費ノ支給方法ハ自今認可ヲ要セサル事

明治二十六年三月二十九日
文部省訓令第二號

北海道廳、府、縣

明治二十四年文部省訓令第七號中學費ノ支給方法ハ自今文部大臣ノ認可ヲ受クルヲ要セス處分ノ後報告スヘシ

高等師範學校生徒ニ尋常中學校卒業生ヲモ選舉スルヲ得ル事

明治二十七年二月三日
文部省令第二號

明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則ニ依リ募集スル生徒ハ尋常師範學校卒業生ノ外地方長官ニ於テ公立尋常中學校卒業生ヨリ選舉スルコトヲ得

小學校教員ニシテ高等師範學校入學者ヲ休職ト爲ス事

明治二十七年三月一日
文部省令第六號

明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則ニ依リ高等師範學校ニ入學ノ許可ヲ得タル者現ニ市町村立小學校正教員ノ職ニ在ルトキハ地方長官ニ於テ其ノ在學中休職ヲ命スヘシ

尋常師範學校教員免許檢定規程ヲ定ムル事

明治二十七年三月五日
文部省令第八號

尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許檢定ニ關シ規定スルコト左ノ如シ

第一條 尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許狀ハ自今等級ヲ付セス從テ二次以上ノ檢定ヲ行ハス

免許狀ハ從前授與シタルモノト將來授與スルモノトヲ問ハス其ノ效力ハ同一トス

免許狀様式ハ自今別ニ定ムル所ニ依ル

第二條 高等師範學校及女子高等師範學校卒業生ニハ檢定ヲ行ハスシテ教員免許狀ヲ授與ス

第三條 女子ニハ尋常師範學校女子部及高等女學校ノ教員免許狀ノ外之ヲ授與セス

第四條 左ニ掲クル者ニ限リ學力ノ試験ヲ須キスシテ檢定ヲ行フ

一、高等ノ官立學校ニ於テ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケタル卒業生

二、元古典講習科卒業生及理科大學簡易講習科優等卒業生

元體操傳習所卒業生ハ普通體操ニ關シ陸軍教導團卒業生ハ兵式體操ニ關シ第一項ニ依ルコトヲ得

第五條 左ニ掲クル者ニ限リ檢定委員ノ意見ニ依リ試験ヲ免除シ又ハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

一、大學撰科ヲ修メタル者及理科大學簡易講習科卒業生

二、高等中學校卒業生

三、教員タラント欲スル所ノ學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者
 四、教員タラント欲スル所ノ學校ノ學科程度ト同等以上ノ官立學校ニ於テ教員タル者及教員タリシ者
 第六條 尋常師範學校又ハ尋常中學校ノ教員免許狀ヲ有スル者ハ其ノ免許ノ學科目ニ關シテハ更ニ檢定ヲ要セスシテ高等女學校教員タルコトヲ得

第七條 學力ノ試驗ニ於テ一學科目ノ全部ニ合格セサルモ其ノ或部分ノ成績優等ナルトキハ其ノ部分ニ對シ證明書ヲ授與スルコトアルヘシ

前項ノ證明書ヲ有スル者ハ次回ノ檢定試驗ニ於テ前ニ出願セシ學科目ニ就キ更ニ檢定ヲ出願スルトキハ證明書ニ記載シタル部分ヲ省キ其ノ他ノ部分ニ就キ試驗ヲ行フ

第八條 本令第四條及第五條ニ掲クル者ハ何時ニテモ檢定ヲ出願スルコトヲ得但第五條ニ掲クル者ニ對シ試驗ヲ行フハ一般ノ檢定試験ト同一ノ時期ニ於テス

第九條 文部省直轄學校卒業生ハ當該學校長ノ申請ニ依リ檢定ヲ行フコトアルヘシ
 本令第五條第四ニ掲クル者ハ當該學校長ヲ經テ檢定ヲ出願スルコトヲ得

前二項及尋常師範學校教員免許規則第十一條二項ノ場合ニ於テハ當該學校長ハ本人ノ學力品行身體ニ關シ意見ヲ附シテ具申スヘシ

第十條 本令第二條ニ掲クル者ハ免許狀授與手数料ヲ納ムルヲ要ス

第十一條 明治十九年文部省令第二十一條及明治二十五年文部省令第十三號中ノ條項ニシテ本令ニ抵觸スルモノハ之ヲ廢ス

小學校教員檢定資格ニ關スル事

明治二十七年三月五日
 文部省令第九號

一、明治二十四年文部省令第十九號小學校教員檢定等ニ關スル規則第七條第一第三第四ニ掲クル者ハ第四條第一ノ資格ヲ具フルコトヲ要セスシテ正教員ノ檢定ヲ請フコトヲ得

一、小學校教員檢定等ニ關スル規則第十三條ハ尋常師範學校ニ於ケル小學校教員講習科ヲ終リタル者及高等女學校卒業生ニ適用ス

一、小學校教員檢定等ニ關スル規則ニ依リ乙種檢定ヲ受クル者其ノ試験ニ合格セサルモ一部ノ成績優等ナルトキハ其ノ部分ニ限り次回ノ檢定期ニ於テ試験ヲ缺クコトヲ得

尋常師範學校生徒募集規則中削除ノ事

明治二十七年三月十六日
 文部省令第十號

明治二十五年文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則第三條但書ヲ削除ス

高等師範學校規程ヲ定ムル事

明治二十七年四月六日
 文部省令第十一號

高等師範學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

高等師範學校規程

第一條 高等師範學校ノ學科ヲ分テ文科理科トス

第二條 文科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、英語、歴史、地理、哲學、經濟學、體操トス
 前項科目ノ外獨語及習字ヲ隨意科トス又獨語ヲ以テ英語ニ換フルコトヲ得

第三條 理科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、英語、數學、物理、化學、地學、植物、動物、生理、農業、手工、圖畫、體操トス但農業、手工ハ生徒ノ所長ニ依リ其一ヲ課ス

前項科目ノ外獨語ヲ隨意科トス又獨語ヲ以テ英語ニ換フルコトヲ得

第四條 高等師範學校ノ學科ハ尋常師範學校ノ課程ニ照ラシ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教授スルモノトス

第五條 修業年限ハ四箇年トス

第六條 第四年級生徒ハ附屬學校ニ於テ實地授業ニ從事セシムヘシ

第七條 入學試験ニ及第シタル者ハ一定ノ期間假ニ入學セシメ其ノ資性品行才能ヲ審察シ適當ト認ムル者ニ限り本入學ヲ許スヘシ

假入學ノ生徒ハ自費トス但本項ハ明治二十八年年度ヨリ施行スヘシ

第八條 本入學生徒在學中疾病ニ因ルノ外自己ノ便宜ニ因リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學費ヲ償還スヘシ
卒業ノ後正當ノ事由ナクシテ服務ノ義務ヲ盡ササル者亦前項ニ同シ

文部大臣ハ其ノ情狀ニ依リ前項償還スヘキ學費ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第九條 生徒在學中疾病ニ罹リ若ハ學業進マス又ハ品行修マサルカ爲ニ成業ニ適セスト認ムルトキハ學校長ヨリ退學ヲ命スヘシ

第一年級第二年級ノ生徒ニシテ學年試験ニ落第シタル者ハ前項ニ依ルヘシ

第十條 高等ナル學校ノ卒業生ニシテ尋常師範學校尋常中學校又ハ之ニ均キ程度ノ各種學校ノ教員タラントスルノ目的ヲ以テ教育學教授法ヲ專修セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ設ク

第十一條 研究生ノ在學期限ハ一箇年以下トス但必要ヲ認ムルトキハ延長ヲ許可スルコトヲ得

第十二條 尋常師範學校尋常中學校ノ教員ノ闕乏ヲ充タス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトヲ得

專修生ハ授業料ヲ徴收ス

第十三條 尋常師範學校尋常中學校ノ教員タルノ志望ヲ有スル者ニシテ文科又ハ理科中ノ一科目若ハ數科目ヲ撰ヒテ學修セントスル者ハ撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得

第十四條 撰科生ノ在學期限ハ二箇年以上四箇年以下トス

第十五條 明治十九年文部省令第十七號中男子師範學科ニ關スル規定ハ之ヲ廢ス

小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則中改正

明治二十七年八月十日
文部省令第二十一號

明治二十四年文部省令第二十號小學校長及教員ノ任用解職其他進退ニ關スル規則第五條第一項ノ次ニ左ノ三項ヲ加ヘ第六條第一項第三ヲ削リ同條第二項ノ末ニ休職者ノ「休職期限滿ツルトキ亦同シ」ノ十六字ヲ加フ

府縣知事ハ小學校正教員ニシテ高等師範學校、女子高等師範學校、工業教員養成所、尋常師範學校又ハ尋常師範學校ニ於ケル小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ休職ヲ命スルコトヲ得

豫備後備ノ軍籍ニ在ル小學校正教員戰時若クハ事變ニ際シ召集セラレタルトキハ當然休職ヲ命セラレタルモノトス
休職ノ期限ハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月トス

明治二十七年文部省令第六號ヲ廢ス

明治二十七年六月五日以後此ノ省令施行以前ニ召集セラレタル者ハ其ノ召集ノ日ヨリ休職ヲ命セラレタルモノトス

女子高等師範學校規程ヲ定ムル事

明治二十七年十月二日
文部省令第二十五號

女子高等師範學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

女子高等師範學校規程

第一條 女子高等師範學校ノ學科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、歴史、地理、數學、理科、家事、習字、圖畫、音樂
體操トス

前項學科目ノ外外國語ヲ隨意科トス

第二條 女子高等師範學校ノ學科ハ尋常師範學校女子部ノ課程ニ照ラシ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教授スルモノトス

第三條 修業年限ハ四箇年トス

第四條 第四年級生徒ハ附屬學校及幼稚園ニ於テ實地授業及保育ニ從事セシムヘシ

第五條 女子高等師範學校生徒ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ地方長官之ヲ薦舉シ學校長ニ於テ試験ノ上選拔スルモノトス
但臨時ニ缺員ヲ補充スルノ必要アルトキハ明治二十六年文部省令第十一號ニ依ルヘシ

一、身體健全品行方正ニシテ教員ニ適當ナリト認ムル者

二、尋常師範學校二箇年ノ課程ヲ終ヘタル者若ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者

三、年齢十六年以上二十一年未滿ノ者

第六條 入學試験ニ及第シタル者ハ一定ノ期間假ニ入學セシメ其ノ資性品行才能ヲ審察シ適當ト認ムル者ニ限り本入學ヲ許スヘシ

假入學ノ生徒ハ自費トス但本項ハ明治二十八年度ヨリ施行スヘシ

第七條 生徒在學中疾病ニ依ルノ外自己ノ便宜ニ依リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學費ヲ償還セシムヘシ
卒業ノ後正當ノ事由ナクシテ服務ノ義務ヲ盡ササル者亦前項ニ同シ

文部大臣ハ其ノ情狀ニ依リ前項償還スヘキ學費ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第八條 尋常師範學校女子部又ハ高等女學校教員タルノ志望ヲ有スル女子ニシテ女子高等師範學校學科中ノ一科目若ハ數科目ヲ撰ヒテ學修セントスル者ハ撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得

第九條 明治十九年文部省令第十七號ヲ廢ス

女子高等師範學校規程中改正ノ事

明治二十九年六月一日
文部省令第八號

明治二十七年文部省令第二十五號女子高等師範學校規程第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加シ舊第九條ヲ第十條ニ改ム

第九條 尋常師範學校女子部及高等女學校教員ノ缺乏ヲ充タス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトヲ得

尋常師範學校教員免許規則ヲ定ムル事

明治二十九年十二月二日
文部省令第十二號

尋常師範學校尋常中學校高等女學校教員免許規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常師範學校、尋常中學校、高等女學校教員免許規則

第一條 尋常師範學校、尋常中學校、高等女學校教員免許狀ハ文部省ノ檢定ニ合格シタル者ニ之ヲ授與ス但左ニ掲クル

者ニハ文部大臣ノ適當ト認ムル學科目ニ限り當該學校長ノ稟申ニ依リ教員免許狀ヲ授與ス

一、高等師範學校及女子高等師範學校卒業生

一、高等師範學校及女子高等師範學校專修科、撰科卒業生、高等師範學校附屬音樂學校師範部卒業生

一、東京美術學校特別課程卒業生

一、元東京音樂學校特別課程卒業生

一、元體操傳習所卒業生

第二條 檢定ハ試験ニ依リ之ヲ行フ但第十條ニ掲クル者ニシテ試験ヲ要セスト認メタルモノハ此限ニアラス

試験ヲ分チテ豫備試験、本試験ノ二種トシ豫備試験ハ地方ニ於テ之ヲ行ヒ本試験ハ東京ニ於テ之ヲ行フ但豫備試験ニ合格シタル者ニアラサレハ本試験ヲ受クルコトヲ得又學科ノ種類ニ依リ又ハ學科目ヲ限り試験ヲ施行スル場合ニ於テハ豫備試験ヲ省クコトアルヘシ

尋常師範學校、尋常中學校教員ニ係ルモノハ高等師範學校ノ學科程度ニ尋常師範學校女子部、高等女學校教員ニ係ルモノハ女子高等師範學校ノ學科程度ニ準シ總テ教授法ヲ併セテ試ムルモノトス

但學科ノ種類ニ依リテハ其程度ヲ斟酌スルコトアルヘシ

第三條 試験ハ毎年一回第九條ノ各學科目ヲ通シテ施行スルモノトシ時宜ニ依リテハ其學科目ヲ限リテ臨時ニ施行スルコトアルヘシ

第四條 試験施行ノ場所、期日、出願期限等ハ豫メ之ヲ告示ス

第五條 檢定ハ文部大臣ノ命シタル檢定委員之ヲ行フ

第六條 檢定ヲ出願スル者ハ左ノ資格ヲ具フルコトヲ要ス

一、年齢男子ハ二十年以上、女子ハ十八年以上

一、身體健全

一、品行方正

第七條 檢定ヲ出願スル者ハ族籍、氏名、住所、生年月及志願ノ學校、學科目ヲ記シタル願書(書式一號)ニ左ノ書類ヲ添ヘ

地方廳ヲ經テ文部省ヘ差出スヘシ地方長官ハ本人ノ品行ニ就キ意見ヲ附記スルコトヲ要ス

一、學業、業務、賞罰等ニ關スル履歷書(書式二號)及學業證書、免許狀ノ寫

二、呼吸器、神経系、皮膚、視官、聽官、言語其他身體ニ關スル官公立病院醫師ノ検査書(書式三號)但官公立病院ニ遠隔

ノ地ニアリテハ内務省ノ試験ニ依リ又ハ大學、高等學校、府縣立醫學校ヲ卒業シ免狀ヲ得タル醫師ノ検査書ヲ以テ

スルモ妨ナシ又實地體格ノ検査ヲ必要ト認メタル者ニ就テハ試験ノ際檢定委員之ヲ施行ス

第八條 檢定ヲ出願スル者ハ其一學校ニ限ルモノト二學校以上ニ涉ルモノトニ拘ラス出願學科一科目ニ付檢定手数料金

貳圓、二科目以上ハ一科目毎ニ金壹圓ヲ加ヘ納ムヘシ但第十條第一項ニ依リ檢定ヲ出願スル者ハ檢定手数料ヲ納ム

ルヲ要セス

第九條 檢定ハ左ノ學科目ニ就キ之ヲ行フ

尋常師範學校教員檢定學科目

修身 教育 國語 漢文

歷史 地誌 地文 數學

簿記 物理 化學 植物

動物 生理 礦物 習字

毛筆畫及用器畫 鉛筆畫及用器畫 音樂 普通體操

兵式體操 英語 獨語 佛語

農業 商業 手工

尋常中學校教員檢定學科目

倫理 國語 漢文 歷史

地誌 地文 數學 測量

簿記 物理 化學 植物

動物 生理 礦物 習字

毛筆畫及用器畫 鉛筆畫及用器畫 唱歌 普通體操

兵式體操 英語 獨語 佛語

農業 商業 工業

尋常師範學校女子部教員檢定學科目

修身 教育 國語 漢文

日本史 萬國史 地誌 地文

算術、代數、幾何 理科 家事
裁縫 習字 毛筆畫 鉛筆畫及用器畫
音樂 普通體操

高等女學校教員檢定學科目

修身 國語 漢文 日本史
萬國史 地誌 地理 算術、代數、幾何
理科 家事 裁縫 習字
毛筆畫 鉛筆畫 音樂 普通體操
教育 手藝 英語 獨語
佛語

修身ト倫理、音樂ト唱歌ハ同一ノ學科目ト看做ス

第十條 左ノ一ニ掲クル者ハ文部大臣ノ適當ト認メタル學科目ニ關シニ掲クル者ハ其免許ノ學科目ニ關シニ掲クル者ハ其教授シタル學科目ニ關シ試験ヲ須キスシテ檢定ヲ行ヒ免許スルコトアルヘシ

- 一、帝國大學分科大學卒業生 元東京大學卒業生
- 元工部大學校卒業生 帝國大學分科大學撰科修了生
- 帝國大學文科大學元古典講習科卒業生
- 帝國大學理科大學元簡易講習科卒業生
- 帝國大學農科大學乙科優等卒業生
- 高等學校卒業生 元高等中學校卒業生

札幌農學校卒業生 元駒場農學校卒業生

元高等農林學校卒業生 高等商業學校卒業生

元東京商業學校卒業生 東京工業學校卒業生

工業教員養成所卒業生 元東京職工學校卒業生

東京美術學校卒業生 高等師範學校附屬音樂學校卒業生

元東京音樂學校卒業生

二、教員タラント欲スル所ノ學校ノ學科程度ト同等以上ノ學校ノ教員免許狀ヲ有スル者

三、教員タラント欲スル所ノ學校ノ學科程度ト同等以上ノ官立學校ニ於テ一箇年以上教員タル者若クハ教員タリシ者陸軍教導團歩兵科卒業生ハ兵式體操ニ關シ前項一ニ準スルコトヲ得

第十一條 前條ニ掲クル者ハ隨時檢定ヲ出願スルコトヲ得但試験ヲ必要ト認メタル學科目ニ就テハ次ノ試験時期ニ於テ更ニ手数料ヲ納メスシテ直ニ本試験ヲ受クルコトヲ得シム

第十二條 第十條第一項一ニ掲クル者ハ當該學校長ヲ經テ檢定ヲ出願スルコトヲ得其三ニ掲クル者ニシテ文部省直轄學校ニ係ルモノ亦之ニ準ス

前項ノ場合ニ於テハ當該學校長ハ本人ノ學力、品行、身體ニ關シ意見ヲ付シテ具申スヘシ又第七條ニ依リ願書ニ添ヘテ差出スヘキ書類ハ履歷書ノ外之ヲ要セス

第十三條 本試験ニ於テ一學科目ノ全部ニ合格セサルモ其或部分ノ成績佳良ナルトキハ其部分ニ對シ證明書ヲ授與スルコトアルヘシ

前項ノ證明書ヲ有スル者ハ其後ノ試験時期ニ於テ前ニ出願セシ學科目ニ就キ更ニ檢定ヲ出願スルトキハ證明書ニ記載シタル部分ヲ省キ其他ノ部分ニ就キ試験ヲ行フ但證明書ハ三年間有効ノモノトス

第十四條 免許狀ヲ授與シタル者ノ免許ノ學科、族籍、氏名等ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第十五條 第十條第一項ニ依リ免許狀ヲ受クル者及免許狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名ヲ變更シタル等ノ爲其書換ヲ出願スル者ハ免許狀一通ニ付手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十六條 檢定手数料及前條ノ手数料ハ登記印紙ヲ用キ願書ニ貼付スヘシ其既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

第十七條 免許狀ヲ有スル者左ノ事項ノ一ニ當ルトキハ其免許狀ヲ褫奪ス

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ信用若クハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ

二、破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

三、荒蕪暴激其他總テ教員タルノ面目ヲ汚シタル行爲アルトキ

第十八條 地方長官ニ於テ前條ノ處分ヲ要スト認ムル者アルトキハ文部大臣ニ具申スヘシ

附 則

第十九條 明治十九年文部省令第二十一號明治二十五年文部省令第十三號明治二十七年文部省令第八號ハ之ヲ廢止ス

第二十條 本規則第九條檢定學科目中數學ノ試験ハ明治三十一年以後ニアリテハ算術、代數、幾何、三角法及解析幾何大意、微分積分大意マテヲ併セテ出願スルニアラサレハ檢定ヲ行ハス

高等師範學校規程中改正ノ事

明治三十年七月六日
文部省令第九號

明治二十七年文部省令第十一號高等師範學校規程第十二條第二項「徵收ス」ノ下ニ「但學資ヲ支給スル場合ニ於テハ此限ニアラス」ノ二十字ヲ加フ

尋常師範學校附屬小學校規程中改正ノ事

明治三十年九月二十二日
文部省令第十五號

明治二十四年文部省令第二十六號尋常師範學校附屬小學校規程第四條但書ヲ改正スルコト左ノ如シ
但單級ニ編制シタル兒童ノ授業料ハ之ヲ徵收セサルコトヲ得

師範學校附屬小學校ノ授業料ノ事

明治三十年十一月十一日
文部省訓令第十一號

北海道廳、府縣

明治三十一年四月以降師範學校附屬小學校ノ授業料ハ明治三十年勅令第四百七號ニ依リ定メタル金額ニ準據シ之ヲ定ムヘシ

師範教育令時代

(假ニ明治三十年十月師範教育令發布
ヨリ現在迄ヲ師範教育令時代ト移ス)

勅諭 師範教育令訓令

師範教育令ノ發布

明治三十年十月六日
勅令第三百四十六號

朕師範教育令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

師範教育令

- 第一條 高等師範學校ハ師範學校尋常中學校及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
女子高等師範學校ハ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
師範學校ハ小學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス前三項ニ記載シタル學校ニ於テハ順良信愛威重ノ徳性ヲ涵養スルコトヲ務ムヘシ
- 第二條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ東京ニ各一校ヲ設置シ師範學校ハ北海道及及各府縣ニ各一校若ハ數校ヲ設置ス
- 第三條 高等師範學校及女子高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬シ師範學校ハ地方長官ノ管理ニ屬ス
- 第四條 師範學校ノ經費 北海道及沖繩縣ヲ除クハ府縣稅又ハ地方稅ノ負擔トス
- 第五條 師範學校ノ設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第六條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第七條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校生徒ノ學資ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ學校ヨリ之ヲ支給スヘシ
- 前項ノ外文部大臣ノ定ムル所ニ依リ私費生ヲ置クコトヲ得
- 第八條 高等師範學校女子高等師範學校及師範學校ノ學科及其ノ程度並教科書ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第九條 師範學校ニ豫備科小學校教員講習科及幼稚園保姆講習科ヲ置クコトヲ得

附 則

第十條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

明治十九年勅令第十三號師範學校令ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第十一條 他ノ法令中尋常師範學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然師範學校ト改正セラレタルモノト看做ス

(備 考)

第四條ノ北海道及沖繩縣ノ特例ハ明治三十四年法律第三號北海道地方費並明治四十二年勅令第三十一號公布ニ依リ當然廢止トナル

師範學校生徒定員ヲ定ム

明治三十年十月九日
勅令第三百四十七號

師範學校生徒定員

第一條 師範學校ハ道府縣管内學齡兒童數三分ノ二ニ對シ一學級七十名ノ割合ヲ以テ算出スル全學級數ノ二十分ノ一以上ニ相當スル卒業生ヲ出スニ足ルヘキ生徒ヲ毎年募集スヘシ

第二條 男女生徒員數ノ割合ハ地方長官之ヲ定メ文部大臣ニ開申スヘシ

第三條 地方ノ情況ニ依リ女生徒ヲ置カサルトキハ其ノ事由ヲ具シテ文部大臣ノ認可ヲ經ヘシ

附 則

第四條 本令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

設備ノ都合ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テハ地方長官ハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ前項期限ヨリ一箇年以内生徒定員ニ關スル從前ノ規程ヲ適用スルコトヲ得

高等師範學校生徒募集規則改正

明治三十年七月二十一日
省 令 第 十 號

明治十九年文部省令第十八號高等師範學校生徒募集規則ヲ改定スルコト左ノ如シ

高等師範學校生徒募集規則

第一條 高等師範學校本科生及官費專修生ハ尋常師範學校官公立尋常中學校及文部大臣ニ於テ徵兵令第十三條ニ依リ中學校ノ學科程度以上ト認メタル私立尋常中學校ノ卒業生ニシテ身體健全品行方正ナル者ニ就キ地方長官之ヲ薦舉シ高等師範學校長其ノ中ヨリ試験ノ上選拔スルモノトス

第二條 高等師範學校本科生及官費專修生ハ毎年一回之ヲ募集シ其ノ期日及員數ハ其ノ都度高等師範學校長ヨリ地方長官ニ通知スルモノトス

第三條 第一條ニ依リ募集スルモノ、外高等師範學校長ハ身體健全品行方正ニシテ學力年齡當該學級ニ相當スル者ヲ募集シ試験ノ上入學セシムルコトヲ得

第四條 新募生ハ四箇月以内假ニ入學セシメ其ノ資品行等ヲ審察シ適當ト認ムル者ニ限り本入學ヲ許可スルモノトス

附 則

第五條 研究生私費專修生及撰科生ノ募集ニ關スル規程ハ高等師範學校長之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

高等師範學校卒業生服務規則改正

明治三十年七月二十一日
省 令 第 十 一 號

明治十九年文部省令第十九號高等師範學校卒業生服務規則ヲ改定スルコト左ノ如シ

高等師範學校卒業生服務規則

第一條 高等師範學校本科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ十箇年トシ其ノ間教育ニ關スル職務ニ従事スル義務ヲ有スルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年間ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス

第二條 高等師範學校官費專修科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ七箇年トシ其ノ間教育ニ關スル職務ニ従事スル義務ヲ有スルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年間ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス

第三條 第一條第二條ノ義務ヲ終リタル者ハ其ノ經歷書ヲ具シテ文部大臣ニ届出ツヘシ

第四條 第一條第二條ノ義務ヲ盡スコト能ハサル事故アル者ハ其ノ理由ヲ具シテ義務ノ免除ヲ文部大臣ニ請願スルコトヲ得

第五條 第一條第二條ノ卒業生ハ其ノ服務年限中毎年末服務ノ情況ヲ文部省ニ報告スヘシ

第六條 第一條第二條ノ卒業生ニシテ左ノ一項ニ該當スル者アルトキハ文部大臣ノ命ニ依リ在學中給與シタル學費ノ全部若クハ幾部ヲ償還セシム

一、第一條第二條ノ義務ヲ盡サ、ル者但第四條ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得タル者ハ學費ノ全部若クハ幾部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

二、服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者

第七條 服務年限中ノ卒業生ニシテ自費ヲ以テ分科大学、高等師範學校研究科專修科及撰科ニ入學志願ノ者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ

指定義務ヲ終ラサル者ニシテ前項ノ場合ニ該當スルトキハ入學中ノ年限ハ指定服務年限中ヨリ除算スルモノトス

附 則

第八條 明治十九年文部省令第六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

參照 明治十九年四月二日文部省令第六號ハ師範學校ヲ卒業シ教職ニ従事スル者服務ノ情況報告方ノ件ナリ
 明治三十一年省令第十八號ヲ以テ第三條及第五條ヲ削除ス

女子高等師範學校卒業生服務規則ヲ定ム

明治三十年七月二十一日
 省令第十 二 號

女子高等師範學校卒業生服務規則

女子高等師範學校卒業生服務規則

第一條 女子高等師範學校卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年トシ其ノ間教職ニ従事スル義務アルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス

第二條 第一條ノ義務ヲ終リタル者ハ其ノ經歷書ヲ具シテ文部大臣ニ届出スヘシ

第三條 第一條ノ義務ヲ盡スコト能ハサル事故アル者ハ其ノ理由ヲ具シテ義務ノ免除ヲ文部大臣ニ請願スルコトヲ得

第四條 卒業生ハ其ノ服務年限中毎年末服務ノ情況ヲ文部省ニ報告スヘシ

第五條 卒業生ニシテ左ノ一項ニ該當スル者アルトキハ文部大臣ノ命ニ依リ在學中給與シタル學費ノ全部若クハ幾部ヲ償還セシム

一、第一條ノ義務ヲ盡サ、ル者但第三條ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ得タル者ハ其ノ學費ノ全部若クハ幾部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

二、服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者

第六條 服務年限中ノ卒業生ニシテ自費ヲ以テ專修科及撰科ニ入學志願ノ者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ

指定義務ヲ終ラサル者ニシテ前項ノ場合ニ該當スルトキハ入學中ノ年限ハ指定服務年限中ヨリ除算スルモノトス
 (備考)

明治三十一年省令第十八號ヲ以テ第三條及第五條ヲ削除ス

尋常師範學校ノ學科及其程度改正 明治三十年八月二日 省令第十三號

明治二十五年文部省令第八號尋常師範學校ノ學科及其程度第五條ヲ改正スルコト左ノ如シ

第五條 學級ハ生徒ノ員數種類等ニ應シテ之ヲ編制シ一學級生徒數ノ最多限ヲ凡四十人トス

參照 文部省令第八號尋常小學校ノ學科及其程度(明治二十五年七月十一日)抄録

第五條 學級ハ生徒ノ員數種類等ニ應シテ之ヲ編制スヘシ但一學級ノ生徒數ハ凡二十人以上三十人以下タルヘシ

師範學校職員人員ノ件改正 明治三十年十月十一日 省令第十九號

明治二十五年文部省令第十四號師範學校教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員ヲ改正スルコト左ノ如シ但明治三十一年四月

一日ヨリ施行ス

師範學校教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員

第一條 教諭助教諭ハ左ノ割合ニ依リテ配置スヘシ

一、生徒四學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ教諭助教諭各專任一人トス但教諭ヲ以テ本文ノ人員ニ充ツルコトハ妨ケナシ

二、生徒五學級以上七學級以下ノ學校ニ於テハ本項第一款ノ割合ニ依リテ定ムヘキ總人員ヨリ教諭若クハ助教諭一人ヲ減シ以上一學級ヲ加フル毎ニ七學級ノ場合ノ定員ニ對シ教諭一人ツ、ヲ増ス

外國語、農業、商業及手工ノ中一科目ヲ課スル毎ニ其ノ科目ノ學級數八學級以下ナルトキハ教諭若クハ助教諭專任一人、九學級以上ナルトキハ同二人ノ割合ヲ以テ前項ノ人員ヲ増スヘシ

第一項ノ教諭助教諭中女教員ノ人員ハ少クトモ女生徒ノ學級數ニ等シキヲ要ス

第二條 舍監ノ人員ハ男子ハ三人以上女子ハ二人以上トス但女子舍監ノ人員ハ適當ノ者ヲ得サル場合ニ於テハ一人ニ減スルコトヲ得

舍監ハ少クトモ一人ハ教諭ヨリ兼任スルモノトス

女生徒ヲ置カサル學校ニ於テハ女子舍監ヲ置カス

第三條 訓導ノ人員ハ附屬小學校ノ學級數ト同數タルヘシ

(明治三十二年三月二十二日第三條改正「訓導」ヲ「本科」正教員タル訓導ト改メ尙左ノ一項ヲ追加ス)

前項人員ノ外專科正教員タル訓導ヲ置クコトヲ得

第四條 書記ノ人員ハ生徒定員百八十人未滿ノ學校ニ於テハ專任二人以上トシ同百八十人以上ノ學校ニ於テハ專任三人以上トス

第五條 豫備科、小學校教員講習科又ハ保姆講習科ヲ置クトキハ第一條ノ外適宜教諭助教諭ヲ増スヘシ

第六條 特別ノ事情アルトキハ第一條ノ教諭助教諭ノ人員ヲ増スコトヲ得又助教諭ヲ以テ教諭ニ代フルコトヲ得

第七條 教諭助教諭又ハ訓導タルニ適當ノ候補者ヲ得ルコト能ハサルトキハ豫メ期限ヲ定メ雇教員ヲ以テ第一條ノ教諭助教諭又ハ第三條ノ訓導ニ代フルコトヲ得

第八條 第六條後段及第七條ノ場合ニハ地方長官ハ其事由ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第九條 前諸條ニ定メタル人員ノ外地方長官ハ臨時ノ須要ニ依リ雇員ヲ使用スルコトヲ得

明治三十一年省令第十八號ヲ以テ第八條ヲ削除ス

尋常師範學校ノ學科及其ノ程度改正 明治三十年十月十一日 省令第二十一號

明治二十五年文部省令第八號尋常師範學校ノ學科及其程度第十條第二教育ノ部「實地授業ニ就キテハ各學科目ノ教員常

ニ巡視シテ其適否ヲ批評シ又時々自ら教授シテ之カ模範ヲ示スヘシトアルヲ改正スルコト左ノ如シ
實地授業ニ就キテハ附屬小學校ニ於テ順次師範生徒ヲシテ兒童ヲ教授セシメ各學科目ノ教員附屬小學校主事又ハ受持
訓導ハ授業ニ當ラサル生徒ヲ率キテ之ニ立會ヒ其授業ヲ監督シテ適否ヲ批評シ又時々自ら教授シテ之カ模範ヲ示スヘ
シ

師範學校私費生規則ヲ定ム

明治三十年十月十一日
省令第二十一號

師範學校私費生規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

師範學校私費生規則

- 第一條 師範學校ニ於テ私費生ヲ置カントスルトキハ地方長官ハ其ノ員數ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第二條 私費生ハ文部省令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルモノ、外總テ公費生ト同シキモノトス
- 第三條 私費生ニ關シ必要ナル規則ハ地方長官之ヲ定ム

附 則

第四條 此省令ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

女子高等師範學校生徒募集規則ヲ定ム

明治三十年十月十二日
省令第三十二號

女子高等師範學校生徒募集規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

女子高等師範學校生徒募集規則

- 第一條 女子高等師範學校本科生及官費專修生ハ師範學校女子部、修業年限六箇年ノ官公立高等女學校卒業生及之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ身體健全品行方正ナル者ニ就キ地方長官之ヲ薦舉シ女子高等師範學校長其ノ中ヨリ試験ノ

上選拔スルモノトス但本科生ハ年齡十七年以上二十二年未滿ニシテ夫ヲ有セサル者ニ限ル

第二條 女子高等師範學校本科生ハ毎年一回官費專修生ハ臨時之ヲ募集ス其ノ期日及員數ハ其ノ都度女子高等師範學校長ヨリ地方長官ニ通知スルモノトス

第三條 第一條ニ依リ募集スルモノ、外女子高等師範學校長ハ身體健全品行方正ニシテ學力年齡當該學級ニ相當スル者ヲ募集シ試験ノ上入學セシムルコトヲ得

第四條 新募生ハ四箇月以内假ニ入學セシメ其ノ資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムル者ニ限り本入學ヲ許可スルモノトス但假入學ノ生徒ハ自費トス

第五條 研究生私費專修生及撰科生ノ募集ニ關スル規程ハ女子高等師範學校長之ヲ定メ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

附 則

第六條 明治二十六年文部省令第十一號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

女子高等師範學校卒業生服務規則中改正

明治三十年十月十二日
省令第二十三號

明治三十年文部省令第十二號女子高等師範學校卒業生服務規則中改正スルコト左ノ如シ
第一條中「卒業生」ノ上ニ「本科」ノ二字ヲ加ヘ左ノ一項ヲ追加ス

女子高等師範學校官費專修科卒業生ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年トシ其ノ間教職ニ従事スル義務アルモノトス但卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス
第六條中「專修科」ノ上ニ「研究科」ノ三字ヲ加フ

女子高等師範學校規程改正

明治三十年十月十二日
省令第二十四號

明治二十七年文部省令第二十五號女子高等師範學校規程左ノ通改正シ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

女子高等師範學校規程

- 第一條 女子高等師範學校ノ學科ヲ分チテ文科、理科トス
- 第二條 文科ノ科目ハ、倫理、教育學、國語、漢文、外國語、歷史、地理、家事、體操トス
前項科目ノ外習字、圖畫、音樂ヲ隨意科トス
- 第三條 理科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、外國語、地學、數學、物理、化學、博物、家事、圖畫、體操トス
前項科目ノ外習字、音樂ヲ隨意科トス
- 第四條 女子高等師範學校ノ學科ハ師範學校女子部ノ課程ニ照シ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教授スルモノトス
- 第五條 修業年限ハ四箇年トス
- 第六條 第四年級生徒ハ附屬學校及幼稚園ニ於テ實地授業及保育ニ從事セシム
- 第七條 生徒在學中自己ノ便宜ニ因リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學費ヲ償還スヘシ
文部大臣ハ其ノ情狀ニ依リ前項償還スヘキ學費ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ
- 第八條 生徒在學中疾病ニ罹リ若クハ學業進マス又ハ品行修マラサルカ爲ニ成業ニ適セスト認ムルトキハ學校長ヨリ退學ヲ命スヘシ
品行修マラサルカ爲ニ退學ヲ命セラレタル者ハ支給セラレタル學費ヲ償還スヘシ
- 第九條 相當ノ學力ヲ有シ師範學校女子部及高等女學校ノ教員タラントスルノ目的ヲ以テ教育學及教授法等ヲ專修セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ設クルコトヲ得
- 第十條 師範學校女子部及高等女學校教員ノ缺乏ヲ充タス爲ニ特別ノ必要アル場合ニ於テハ專修科ヲ置クコトヲ得

專修科ノ學科目及其ノ程度並ニ修業年限、募集人員、入學者資格等ハ其ノ都度文部大臣ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム

第十一條 師範學校女子部又ハ高等女學校教員タル志望ヲ有スル者ニシテ文科又ハ理科中ノ一科目若クハ數科目ヲ撰ヒテ專修セントスル者ハ撰科生トシテ入學セシムルコトヲ得

撰科生ハ何等ノ科目ヲ撰フニ拘ラス教育學ヲ兼修スルコトヲ要ス

撰科生ノ在學期限ハ二箇年以上四箇年以下トス

尋常師範學校學科及程度、同生徒募集規則

同簡易科規程中改正、同設備規則中改正

明治三十年十二月十七日 省令第二十六號

- 一、明治二十五年文部省令第八號尋常師範學校ノ學科及其程度第六條同年文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則第一條同年文部省令第十五號尋常師範學校簡易科規程第四條中「學年ノ始終」ノ五字及明治二十六年文部省令第七號第二項ハ之ヲ削除ス
- 一、明治二十五年文部省令第十二號尋常師範學校設備規則第十三條ヲ左ノ通改ム
- 第十三條 學校ノ位置ヲ選定シ又ハ校舍ヲ建築スルニハ地方長官ニ於テ敷地建物ノ圖面坪數地質飲料水ノ定性分析表建築ノ設計及學校近傍ノ情況ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

高等師範學校規程中改正

明治三十年十二月二十二日 省令第二十七號

- 明治二十七年文部省令第十一號高等師範學校規程第十條ヲ左ノ通改正ス
- 第十條 本校ノ卒業生ニシテ尙深ク本校所設ノ科目ヲ研究セントスル者又ハ高等ナル學校ノ卒業生若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ニシテ尋常師範學校尋常中學校或ハ之ニ均キ程度ノ各種學校ノ教員タラントスルノ目的ヲ以テ教育

學及教授法ヲ研究セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ設ク

公立小學校及尋常師範學校施設ニ關スル件

明治三十年十二月十七日 訓令 第十十二號 北海道廳 府縣

方今小學教育ノ普及ト師範教育ノ擴張トヲ計圖スルノ際小學校ニ於テ男兒ト女兒トハ務メテ學級ヲ別チ教室ヲ異ニシ尙便宜學校ヲ別ニシ各其性質慣習ト生活ノ必要トニ應ジ最モ適切ナル方法ヲ以テ之ヲ教育センコトヲ要ス此ノ如キハ管ニ男兒教育ノ實相ヲ益々發揮スルニ必要ナルノミナラス又女兒教育ヲ益々女兒ニ適切ナラシムルニ依リ自ラ女兒就學ノ數ヲ増スコトヲ得師範教育ニ在リテモ亦管理訓育ノ方法等益々女兒ニ適切ナラシムルヲ要ス故ニ公立小學校及尋常師範學校ノ施設ニ關シテ左ノ要項ニ依リ計畫スル所アルヘシ

- 一、市町村村學校組合又ハ其區ニ於テ二箇以上ノ尋常小學校若クハ高等小學校又ハ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ併置スル小學校ヲ設置スル場合ニ於テ通學ニ妨ケナク且女兒ノ員數一學校ヲ構成スルニ足ルヘシト認ムルトキハ女兒ノ爲ニ學校ヲ別ニスル事
- 一、二箇以上ノ尋常師範學校ヲ設置スル場合ニ於テ女生徒ノ員數一學校ヲ構成スルニ足ルヘシト認ムルトキハ男女ニ依リテ學校ヲ別ニスル事

女兒ニ須要ナル高等普通教育ヲ施ス爲ニ高等女學校設置ノ計畫ヲ怠ラサルヘキハ是亦緊要トスル所ナリ而シテ女子尋常師範學校ヲ設置スル場合ニ於テハ土地ノ情況ニ依リ便宜高等女學校ヲ之ニ併設スルモ妨ケナシ

尋常師範學校官制中改正

明治三十一年二月二十一日 勅令 第三十一號

明治二十四年勅令第二百十七號尋常師範學校官制第二條但書中「教諭ノ中一人」ヲ「教諭三名以内」ニ改ム

府縣立師範學校長任命及俸給令中改正

明治三十一年六月二十七日 勅令 第三百三十一號

明治二十四年勅令第七十二號府縣立師範學校長任命及俸給令中左ノ通改正ス
第二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ特ニ功勞アリ五箇年以上一級俸ヲ受クル者ハ年俸二千圓マテ増俸スルコトヲ得
別表ヲ左ノ通改ム

一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級
千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓

女子高等師範學校規程中改正

明治三十一年一月四日 省令 第一號

明治三十年文部省令第二十四號女子高等師範學校規程第九條第一項及第十一條第二項ヲ改正シ第十二條ヲ追加スルコト左ノ如シ

第九條 女子高等師範學校ノ卒業生ニシテ尙深ク本校所設ノ科目ヲ研究セントスル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ師範學校女子部高等女學校若クハ之ニ均キ程度ノ各種學校ノ教員タラントスルノ目的ヲ以テ教育學教授法等ヲ研究セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ設ク

第十一條 第二項「教育學」ノ上ニ「倫理」ノ二字ヲ加フ

第十二條 二箇年以上ノ課程ヲ卒リタル本科生ニハ學業ノ成績ニ依リ所設ノ科目中其數ヲ限リ修メシムルコトヲ得

尋常師範學校卒業生服務規則中改正

明治三十一年二月五日 省令 第四號

明治二十五年文部省令第十一號尋常師範學校卒業生服務規則第一條ノ服務年限ハ私費卒業生ニ關シテハ男子卒業生ハ三箇年、女子卒業生及簡易科卒業生ハ二箇年トス又同條第一項但書、第二項及第二條ハ私費卒業生ニ適用セス

尋常師範學校設備規則中改正

明治三十一年二月五日
省令第五號

明治二十五年文部省令第十二號尋常師範學校設備規則第五條第二項ノ末ニ「但女生徒ニ就テハ自修室寢室ヲ區別セサルコトヲ得」ノ二十三字ヲ加フ

尋常師範學校生徒募集規則中改正

明治三十一年三月二十八日
省令第十號

明治二十五年文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則第二條第三款中「十七年」ヲ「十六年」ニ改ム

高等師範學校規程中改正

明治三十一年四月二日
省令第十一號

明治二十七年文部省令第十一號高等師範學校規程中第二條第三條ヲ改正スルコト左ノ如シ

第二條 文科ヲ分チテ教育學部國語漢文部英語部地理歴史部トス但英語部ハ當分之ヲ缺ク

教育學部ノ科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、英語、哲學、經濟學、法學、獨語、體操トス

國語漢文部ノ科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、英語、歴史、哲學、言語學、體操トス

英語部ノ科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、英語、歴史、地理、哲學、言語學、體操トス

地理歴史部ノ科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、英語、歴史、地理、哲學、體操トス

國語漢文地理歴史部ニハ隨意科目トシテ獨語ヲ課ス

第三條 理科ヲ分チテ理化數學部博物學部トス

理化數學部ノ科目ハ倫理、教育學、國語、英語、數學、物理、化學、地學、手工、體操トス

博物學部ノ科目ハ倫理、教育學、國語、英語、化學、數學、地學、植物、動物、物理、生理、農學、圖畫、體操トス

理化數學部博物學部ニ隨意科目トシテ獨語ヲ課ス

明治二十二年十二月文部省令第十二號廢止

明治三十一年八月十一日
省令第十六號

明治二十二年十二月文部省令第十二號ハ自今廢止ス

說明

教員生徒ノ集會言論其他取締ニ關シ從來本省ノ發シタル省令諸達訓令中爾後法律ノ制定ニ依リテ其用ヲ見サルニ至レルモノアリ或ハ時弊ヲ矯正セシカ爲ニ發シタルモノハ時勢ノ推移ト共ニ今ハ其必要ヲ認メサルモノアリ間又多少ノ必要ヲ認ムルモノナキニアラスト雖モ多クハ特ニ本省ノ訓令ヲ俟タス當然地方長官學校長教員ノ責務ニシテ其ノ分内ニ屬スト思考スルカ故ニ總テ之ヲ廢止セリ凡ソ學校長教員タル者ハ其重大ナル職務ト高尚ナル地位トヲ顧念シ生徒ノ黨陶ニ專心ナルヘキハ勿論明リニ上司ニ反抗シ公衆ヲ挑發シ其本務ヲ忘レテ政爭ニ狂奔スル等ノ舉動アルヘカラサルハ言ハスシテ明ナリ又學校生徒タル者師ヲ尊ヒ長ヲ敬フノ第一義ヲ忘却シ徒黨シテ學校長教員ニ對シ強迫ノ舉動ヲ爲スカ如キハ畢竟訓育ノ實未タ完カラサルニ起因ス地方長官タル者須ラク學校長教員ヲ督勵シテ其實効ヲ責ムヘク尙ホ不順ナル者アラハ校規ニ照ラシテ處分セシメハ足レリ之ヲ要スルニ從來ノ省令諸達訓令ヲ廢止スルハ地方長官學校長教員ノ地位責任ヲ重視シ特ニ之ヲ存スルノ要ナキヲ認メタルニ依ル

師範學校職員俸給ノ件改正

明治三十一年八月十三日
省令第十七號

明治二十五年文部省令第六號師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸額ヲ改正スルコト左ノ如シ但明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

師範學校教諭助教諭及訓導及書記ノ俸額

第一條 師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸給ハ左表ニ依リ支給スヘシ但奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル教諭ニシテ一級俸ヲ受ケテニ功勞アル者ハ該表ノ範圍ニ拘ラス漸次百五拾圓マテ増俸スルコトヲ得
第二條 師範學校教諭「及助教諭」明治三十二年三月二十二日改メ「助教諭及專科正教員タル訓導」ノ俸給ハ其授業ノ時間及學科ノ輕重難易等ニ依リ左表ニ掲クル俸給等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

職名	月		等 級						
	一 級	二 級	三 級	四 級	五 級	六 級	七 級		
教 諭	百圓	九十圓 八十圓	七十五圓 七十圓	六十五圓 六十圓	五十五圓 五十圓	四十五圓 四十圓	三十五圓 三十圓		
助 教 諭	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓				
訓 導	五十圓	四十五圓 四十圓	三十五圓 三十圓	二十五圓 二十圓	十五圓 十圓				
書 記	四十圓	三十五圓 三十圓	二十六圓 二十三圓	二十四圓 十七圓	十四圓 十二圓				

師範學校附屬小學校規程中 同生徒募集規則中

同卒業生服務規則中 同職員ノ人員中改正

明治三十一年八月二十五日
省令第十八號

一、(略)

二、(略)

一、明治二十四年文部省令第二十六號師範學校附屬小學校規程第一條乃至第三條中「文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ」トアルヲ「文部大臣ニ開申スヘシ」ト改ム

一、明治二十五年文部省令第十號師範學校生徒募集規則第四條ヲ削除ス

一、明治二十五年文部省令第十一號師範學校卒業生服務規則第二條中「ニシテ第一種ノ生徒タリシ者ハ其薦學セラレタル郡市内東京市京都市大阪市ニ於テハ其區内又ハ其道府縣内郡市區内ニ適當ノ位地ナキトキニ限ル」ニ於テ第二種ノ生徒タリシ者「トアルヲ削除ス但本項ハ本令發布以後ニ於テ師範學校ニ入學スル者ニ限り適用ス

一、明治二十五年文部省令第十一號師範學校卒業生服務規則第三條及第五條ヲ削除ス

一、(略)

一、(略)

一、明治三十年文部省令第十一號高等師範學校卒業生服務規則及第五條ヲ削除ス

一、明治三十年文部省令第十二號女子高等師範學校卒業生服務規則第二條及第四條ヲ削除ス

一、明治三十年文部省令第十九號師範學校教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員第八條ヲ削除ス

師範學校等教員免許規則中改正

明治三十一年十月十五日
省令第二十一號

明治二十九年文部省令第十二號師範學校尋常中學校高等女學校教員免許規則中左ノ通改正ス
第二條第二項

試験ヲ分チテ豫備試験、本試験ノ二種トシ豫備試験ハ願書經由ノ地方廳ニ於テ之ヲ行ヒ本試験ハ文部省ニ於テ之ヲ行フ但東京府廳ヲ經テ出願シタル者ノ豫備試験ハ文部省ニ於テ之ヲ行フ、又豫備試験ニ合格シタル者ニアラサレハ本試験ヲ受クルコトヲ得ス尤モ學科ノ種類ニ依リ又ハ學科目ヲ限リテ試験ヲ施行スル場合ニアリテハ豫備試験ヲ省クコトアルヘシ

第二條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ但本項ハ本令發布以後ニ施行スル豫備試験ニ關シ適用ス
豫備試験合格ノ効力ハ三年間トス

第六條 檢定ヲ出願スル者ハ年齢男子ハ二十年以上女子ハ十八年以上身體健全品行方正ニシテ左ノ諸項ノ一ニ該當セサルモノタルヘシ

- 一、重罪ヲ犯シタル者但國事犯ニシテ復權シタル者ハ此限ニアラス
 - 二、定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
 - 三、破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 第七條第二

二、明治三十一年勅令第二號ニ依リ囑託セラレタル學校醫ノ身體檢查書(三式)但學校醫ノ設置ナキ地ニアリテハ明治三十一年文部省令第七號第一條若クハ第二條ニ該當スル資格アル醫師ノ檢查書ヲ以テスルモ妨ケナシ又實地身體ノ檢查ヲ必要ト認メタル者ニ就キテハ試験ノ際檢定委員之ヲ施行ス

第九條中師範學校女子部及高等女學校教員檢査學科目ノ内各「理科」ヲ削リ「物理」「化學」「植物」「生理」「鑛物」ニ改ム
第十條第一項一中「帝國大學理科大學元簡易講習科卒業生」ノ次ニ「帝國大學農科大學實科卒業生」ヲ加ヘ「元東京音樂學

校卒業生」ノ次ニ「高等商業學校附屬外國語學校卒業生」「學習院高等學科大學科卒業生」ヲ加フ
第十五條中「受クル者」ノ四字ヲ「受ケントスル」者ニ改ム

高等師範學校附屬音樂學校等改稱ノ件 明治三十二年四月五日 勅令第百十六號

朕高等師範學校附屬音樂學校及高等商業學校附屬外國語學校改稱ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
高等師範學校附屬音樂學校ヲ東京音樂學校ト改稱シ高等商業學校附屬外國語學校ヲ東京外國語學校ト改稱ス

直轄諸學校官制中改正 明治三十二年四月五日 勅令第百十七號

朕文部省直轄諸學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
文部省直轄諸學校官制中左ノ通改正ス

- 第七條中「校長ハ」ノ下「奏任」ヲ「勅任又ハ奏任」ニ改ム
- 第八條中「教授ハ」ノ下「奏任」ヲ「勅任又ハ奏任」ニ改ム
- 第十三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ以下順次繰下ク
- 第十四條 高等師範學校ニ助手ヲ置ク判任トス教授ノ指揮ヲ承ケ授業及實驗ノ補助ニ從事ス

女子高等師範學校規程中改正 明治三十二年二月十五日 省令第百六號

明治三十年文部省令第二十四號女子高等師範學校規程中左ノ通改正シ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
第一條中「理科」ノ下ニ「技藝科」ノ三字ヲ加フ
第三條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ第四條ヲ第五條トシ以下第十條マテ順次繰下ク
第四條 技藝科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、外國語、家事、習字、圖畫、體操トス

前項科目ノ外音楽ヲ隨意科トス

第十一條ヲ第十二條トシ同條第一項中「文科」ノ下「又ハ理科」ヲ「理科又ハ技藝科」ニ改ム
第十二條ヲ第十三條ニ改ム

師範學校職員ノ人員及同俸給ノ件中改正

明治三十二年三月二十二日
省令第十號

明治三十年文部省令第十九號師範學校教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員及明治三十一年文部省令第十七號師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸額中改正スルコト左ノ如シ

一、明治三十年文部省令第十九號師範學校教諭助教諭舍監訓導及書記ノ人員第三條中「訓導」ノ二字ヲ「本科正教員タル訓導」ノ九字ニ改メ左ノ一項ヲ追加ス

前項人員ノ外專科正教員タル訓導ヲ置クコトヲ得

一、明治三十一年文部省令第十七號師範學校教諭助教諭訓導及書記ノ俸額第二條中「及助教諭」ノ四字ヲ「助教諭及專科正教員タル訓導」ノ十三字ニ改ム

女子高等師範學校生徒募集規則中改正

明治三十二年三月二十二日
省令第十六號

明治三十年文部省令第二十二號女子高等師範學校生徒募集規則第一條中「六箇年」ヲ「四箇年」ニ改メ「官公立」ノ三字ヲ削除ス

公私立學校、外國大學校卒業生ノ教員免許ノ件

明治三十二年四月五日
省令第二十五號

公私立學校外國大學校卒業生ノ教員免許ニ關シ規定スルコト左ノ如シ

第一條 師範學校中學校高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル公私立學校ニ入り三學年以

上在學シテ卒業シタル者ハ明治二十九年文部省令第十二號師範學校中學校高等女學校教員免許規則第十條第一項第一號ニ掲グル學校ノ卒業生ト同一ノ取扱ヲ爲ス

第二條 公私立學校ニシテ其卒業生ニ關シ第一條ノ取扱ヲ受ケントスルモノハ公立學校ニアリテハ其管理者ニ於テ私立學校ニアリテハ其設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ許可ヲ受クヘシ

一、試験ヲ須ヒスシテ教員免許狀ヲ受クヘキ見込ノ學科目

二、學則

三、校地、校舍、寄宿舎、圖面

四、教科書及參考書目錄

五、教授器械及標本目錄

六、教員履歷書、受持學科及專任兼任ノ區別ヲ記シタル調書

七、一箇年ノ經費收入支出金額及其細目

前項ノ學校ハ左ノ要件ヲ具備スルモノタルヘシ

一、三箇年以上ノ學科課程ヲ具ヘ前項第一號ノ學科目ハ高等師範學校女子高等師範學校ノ當該學科目ト同等以上ノ程度ニシテ別ニ相當ノ補助科目ヲ具フルコト

二、學科ヲ教授スルニ足ルヘキ教員其他ノ設備アルコト

三、維持ノ方法確實ナルコト

第三條 第一條ノ取扱ヲ受クル學校ニ於テ卒業試験ヲ施行スルトキハ公立學校ニアリテハ其管理者ニ於テ私立學校ニアリテハ其設立者ニ於テ試験ノ期日及其生徒中師範學校中學校高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ數ヲ具シ三十日前ニ文部大臣ニ開申スヘシ

第四條 文部大臣ハ師範學校中學校高等女學校教員檢定委員又ハ其他ノ吏員ヲ派遣シテ卒業試験ニ立會ヲ爲サシム但委員又ハ吏員ハ試験問題及答案ヲ査閲シ試験場ニ參列ス

前項ノ委員又ハ其他ノ吏員ニ於テ試験問題又ハ試験ノ方法不適當ト認ムルトキハ之ヲ變更シ又ハ變更セシムルコトアルヘシ

第五條 學校長ハ卒業試験合格者ノ族籍氏名生年月及許可ヲ受ケタル學科ノ點數ヲ具シ試験後遲滯ナク文部大臣ニ開申スヘシ

第六條 卒業試験合格者中各學年ヲ通シテ總授業時數ノ四分ノ一以上授業ヲ受ケサル者ハ卒業試験ニ於テ合格スルモ第一條ノ取扱ヲ爲スノ限ニアラス

第七條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テ學制ヲ變更シ又ハ校地校舍寄宿舎ヲ變更セントスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テ第二條第一項第四號前段又ハ第六號ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其都度文部大臣ニ開申スヘシ

第九條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テ師範學校中學校高等女學校卒業生ノ入學ヲ許可セントスルトキハ願書ニ左ノ書類ヲ添付セシムルコトヲ要ス

一、履歷書

二、卒業試験點數及品行ニ關スル當該學校長ノ證明書

師範學校卒業生ニアリテハ前項各號ノ外服務義務終了ニ關スル地方長官ノ證明書ヲ添付セシムルコトヲ要ス

第十條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニ於テハ左ノ表簿ヲ備ヘ永久ニ保存スヘシ

一、其學校ニ關係アル官廳ノ令達及往復書類

二、學則

三、日課表各教員受持學科及時間表、教科書配當表

四、職員名簿及履歷書

五、生徒學籍簿

六、學年試驗問題、答案及成績表

七、職員出勤簿、生徒毎時出席簿

八、資産原簿、出納簿及經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿

九、圖書、器械、器具、藥品、標本目錄

十、生徒諸願屆

生徒學籍簿ニハ生徒ノ族籍氏名住所生年月入學及卒業ノ年月日入學前ノ學歷等ヲ記載スヘシ

第十一條 第二條第一項ノ許可ヲ受ケタル學校ニシテ此規則ニ違背シタルトキ又ハ第二條第二項ノ要件ノ一ヲ失ヒタルトキハ文部大臣ハ將來ニ向ヒテ其許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十二條 師範學校中學校高等女學校ノ卒業證書ヲ有シ更ニ外國ノ大學校ニ於テ修學シ學位ヲ受領シタル者ハ明治二十九年文部省令第十二號師範學校中學校高等女學校教員免許規則第十條第一項第一號ニ掲クル學校ノ卒業生ト同一ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

公私立學校、外國大學校卒業生ノ教員免許規程中改正

明治三十二年十一月十八日 省令第四十二號

明治三十二年文部省令第二十五號公立私立學校外國大學校卒業生ノ教員免許ニ關スル規程中改正スルコト左ノ如シ
第一條ニ左ノ但書ヲ加フ

但修業年限三箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ四學年以上トシ修業年限五箇年ノ高等女學校ノ卒業證書ヲ有スル者ノ在學スヘキ年數ハ二學年以上トス

第二條第二項ノ一中「三箇年以上ノ學科課程ヲ具ヘ」ノ十三字ヲ削ル

第十二條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第十三條 本令中師範學校ノ卒業證書トアルハ師範學校簡易科ノ卒業證書ヲ包含セス

教員免許令發布 明治三十三年三月三十日 勅令第三百三十四號

朕教員免許令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教員免許令

- 第一條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外教員免許狀ヲ授與スルハ本令ノ定ムル所ニ依ル
- 第二條 特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ニ依リ免許狀ヲ有スル者ニ非サレハ教員タルコトヲ得ス但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ教員ニ充ツルコトヲ得
- 第三條 教員免許狀ハ教員養成ノ目的ヲ以テ設置シタル官立學校ノ卒業生又ハ教員檢定ニ合格シタル者ニ文部大臣之ヲ授與ス
- 第四條 教員檢定ハ試驗檢定及無試驗檢定トシ教員檢定委員之ヲ行フ
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員檢定ヲ受クルコトヲ得ス
 - 一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
 - 二、信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタル者

- 三、破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限りノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 第六條 教員檢定ヲ出願スル者ハ手数料トシテ一學科目毎ニ金參圓ヲ納付スヘシ
- 第七條 教員檢定ニ關スル規定ハ文部大臣之ヲ定ム
- 第八條 教員免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名族籍及免許ノ學科ハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス
- 第九條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名族籍ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得
- 前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料金壹圓ヲ納付スヘシ
- 第十條 教員免許狀ヲ有スル者第五條各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ
- 第十一條 教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認ムルトキハ文部大臣ハ其ノ免許狀ヲ褫奪ス
- 第十二條 本令ニ依リ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ用ヒ之ヲ願書ニ貼付スヘシ其ノ既ニ納メタル後ハ何等ノ事情アルモ之ヲ還付セス

附 則

- 第十三條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十四條 本令施行前文部大臣ニ於テ授與シタル師範學校、中學校、高等女學校ノ教員免許狀及舊東京師範學校ニ於テ授與シタル中學校師範學科卒業證書ハ本令ニ依リ授與シタル教員免許狀ト同一ノ效力ヲ有ス

〔其ノ後ノ改正ヲ左ニ便宜ニ括ス〕

教員免許令中改正 大正五年三月十六日 勅令第二十二號

朕教員免許令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教員免許令中左ノ通改正ス

第五條中第一號但書及第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號トス

第六條中「參閱」ヲ「五圖」ニ改ム

附 則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

教員免許令中改正 昭和二年十二月十四日 勅令第三百五十五號

朕教員免許令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

教員免許令中左ノ通改正ス

第六條中「金五圓」ヲ「金七圓」ニ改ム

附 則

本令ハ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

小 學 校 令 (抄 錄)

明治三十三年八月二十日 勅令第三百四十四號

第六章 職 員

第三十九條 小學校ノ教科ヲ教授スル者ヲ本科正教員トシ其ノ教科目中國畫、唱歌、體操、裁縫、英語、農業、商業又手工ノ一科目若ハ數科目ヲ限リ教授スル者ヲ專科正教員トス
本科正教員ヲ補助スル者ヲ准教員トス

第四十條 小學校教員タルヘキ者ハ免許狀ヲ受クヘシ

免許狀ハ普通免許狀及府縣免許狀ノ二種トス

普通免許狀ハ文部大臣之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス府縣免許狀ハ府縣知事之ヲ授與シ其ノ府縣限り有效トス

第四十一條 府縣免許狀ヲ受クルニハ師範學校若ハ文部大臣ノ指定シタル學校ヲ卒業シ又ハ小學校教員ノ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

前項ノ檢定ヲ施行スルカ爲府縣ニ小學校教員檢定委員會ヲ置ク

免許狀及小學校教員檢定委員會ノ組織權限其ノ他檢定ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十二條 特別ノ事情アルトキハ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ小學校准教員ニ代用スルコトヲ得

代用教員ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十三條 市町村立小學校長ハ其ノ學校ノ本科正教員ヲシテ之ヲ兼ネシムヘシ

第四十四條 市立小學校長及教員ノ任用ハ市長ノ申請ニ依リ市町村立小學校長及教員ノ任用ハ郡長ノ申請ニ依リ府縣知事之ヲ行フ

市町村立小學校長及教員ノ解職ハ府縣知事之ヲ行フ

第四十五條 市町村立小學校教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與並其ノ支給方法ハ文部大臣ニ於テ定ムル準則ニ基キ府縣知事之ヲ定ム

第四十六條 小學校長及教員ノ進退、職務及服務ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第四十七條 小學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第四十八條 市町村立小學校長及教員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠タリルトキ又ハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚辱スルノ所爲アリタルトキハ府縣知事ニ於テ懲戒處分ヲ行フ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス

私立小學校長及教員ニシテ前項ニ準スヘキ所爲アリタルトキハ府縣知事ハ其ノ業務ヲ停止ス

第四十九條 小學校教員免許狀ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當シタルトキハ免許狀ハ其ノ效力ヲ失フ

- 一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- 二、信用若ハ風俗ヲ害スルノ罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレタルトキ
- 三、破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタルトキ

小學校教員免許狀ヲ有スル者不正ノ所爲其ノ他教員タルヘキ體面ヲ汚辱スルノ所爲アリテ其ノ情狀重シト認メタルトキハ文部大臣又ハ府縣知事ニ於テ其ノ免許狀ヲ褫奪ス

第五十條 府縣知事ニ於テ行ヒタル免職若ハ業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ニ不服アル者ハ文部大臣ニ訴願スルコトヲ得

〔以後ノ改正ヲ左ニ便宜一括ス〕

明治四十四年七月二十九日
勅令第二百十六號

第三十九條 第一項中「英語」ヲ削ル

大正二年七月十五日
勅令第二百五十八號

第四十條第二項ヲ左ノ如ク改メ同條第三項及第四項ヲ削ル

免許狀ハ府縣知事之ヲ授與シ全國ニ通シテ有效トス

第四十一條「府縣免許狀」ヲ「免許狀」ニ改ム

第四十九條第一項中第二號ヲ削リ第三號ヲ第二號トス

大正八年二月六日
勅令第十號

第三十九條中第一項ヲ左ノ如ク改ム

小學校ノ教科ヲ教授スル者ヲ本科正教員トシ其ノ教科目中唱歌、體操、裁縫並第二十條第二項及第三項ノ教科目ニシテ文部大臣ノ定ムル一科目又ハ數科目ヲ限リ教授スル者ヲ專科正教員トス

大正十五年四月二十一日
勅令第七十三號

第三十九條中「唱歌、體操、裁縫並第二十條第二項及第三項」ヲ「修身、國語、算術、國史、地理、理科以外」ニ改ム

第四十九條中「若ハ家資分散」ヲ削ル

大正十五年六月三十日
勅令二百四十二號

第四十四條第一項中「町村小學校長及教員ノ任用ハ郡長ノ申請ニ依リ」ヲ削リ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム
町村立小學校長及教員ノ任用並市町村立小學校長及教員ノ解職ハ府縣知事之ヲ行フ

小學校令施行規則(抄録)

明治三十三年八月二十一日
文部省令第十四號

第四章 教員檢定及免許狀

第一節 教員ノ檢定

第九十八條 小學校教員檢定委員會ハ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一、會長

一、常任委員

一、臨時委員

第九十九條 會長ハ府縣視學官ヲ以テ之ニ充ツ

常任委員及臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス

臨時委員ハ試験施行ノ際之ヲ命ス

第百條 會長ハ會務ヲ整理シ檢定ノ成績ヲ府縣知事ニ報告ス

會長事故アルトキハ府縣知事ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第百一條 常任委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ教員檢定ニ關スル事ヲ掌ル

臨時委員ハ會長ノ指揮ヲ承ケ試験檢定ニ關スル事ヲ掌ル

第百二條 小學校教員檢定委員會ニ書記ヲ置キ府縣判任官ヲ以テ之ニ充ツ

書記ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第百三條 會長、常任委員、臨時委員及書記ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

第百四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ教員ノ檢定ヲ受クルコトヲ得ス

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニアラス

二、信用若ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ、又ハ監視ニ付セラレタル者

三、破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

四、免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ三箇年ヲ經過セサル者

第百五條 教員ノ檢定ハ分テ無試験檢定及試験檢定トス

第百六條 試験檢定ハ毎年少クトモ一回之ヲ行ヒ無試験檢定ハ隨時之ヲ行フ

第百七條 無試験檢定ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ第百八條乃至第百十二條ノ規定ニ對照シテ之ヲ行フ

一、師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀ヲ有スル者

二、他ノ府縣ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ヲ有スル者

三、文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者

四、中學校又ハ明治三十二年文部省令第三十四號ニ依リ文部大臣ニ於テ中學校ト同等以上ト認メタル學校ヲ卒業シタル者

五、高等女學校ヲ卒業シタル者

六、其ノ他府縣知事ニ於テ特ニ適任ト認メタル者

第百八條 小學校本科正教員ノ試験科目及其ノ程度ハ男子ニ在リテハ師範學校男生徒、女子ニ在リテハ師範學校女生徒

ニ課スル學科程度ニ準ス但シ圖畫、音樂、手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ關キ女子ノ爲ニハ體操

ヲ關クコトヲ得

本條ニ小學校本科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ本科正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第百九條 小學校准教員ノ試験科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ裁縫ハ女子ニ限ル體操ハ女子ノ小學校本科正教員ニ準シ

其ノ程度ヲ斟酌スヘシ

修身 道德ノ要旨

教育 教授法ノ大要

國語 普通文及小學校教科用讀本ノ講讀並ニ作文、習字

算術 整數、分數及小數ノ加減乘除、比例、百分算

歴史 日本歴史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ大要

圖畫 自在畫及簡易ナル幾何畫

唱歌 單音唱歌

體操 普通體操及兵式體操ノ初歩

裁縫 通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

圖畫 唱歌ノ一科目若ハニ科目ハ之ヲ關キ女子ノ爲ニハ尙體操ヲ關クコトヲ得

本條ニ小學校准教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ准教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第一百十條 小學校專科正教員ノ試験科目ハ圖畫、音樂、體操、裁縫、手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ數科目トス

其ノ程度ハ師範學校生徒ニ課スル各科目ノ程度ニ準ス

前項ニ規定シタル科目ノ試験ハ受験科目ノ教授法ヲ附帶シテ之ヲ行フ

小學校專科正教員ノ試験ハ小學校教員檢定委員會ニ於テ修身、國語、算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有スト認メタル者ニア

ラサレハ之ヲ行ハス

本條ニ小學校專科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ專科正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第一百十一條 尋常小學校本科正教員ノ試験科目及其ノ程度ハ師範學校簡易科ノ學科程度ニ準ス但シ漢文、圖畫、音樂ノ

一科目若ハ數科目ヲ關キ數學ハ算術、歴史ハ日本歴史ニ限ルコトヲ得又女子ノ爲ニハ尙體操ヲ關クコトヲ得

女子ノ爲ニハ裁縫ヲ加フルコトヲ得其ノ程度ハ通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方トス

第一百十二條 尋常小學校准教員ノ試験科目及其ノ程度ハ左ノ如シ

修身 道德ノ要旨

教育 教授法ノ大要

國語 小學校教科用讀本ノ講讀竝ニ作文、習字

算術 整數、分數及小數ノ加減乗除、單比例

歴史、地理 日本歴史及日本地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ初歩

圖畫 簡易ナル自在畫

唱歌 單音唱歌

體操 普通體操

理科、圖畫、唱歌ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ關キ女子ノ爲ニハ尙體操ヲ關クコトヲ得

第一百三十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ試験檢定ヲ行フトキハ小學校教員檢定委員會ニ於テ第百八條乃至百十二

條ノ規定ニ對照シテ某科目ニ關シ同等以上ノ學力アリト認メタル者ニ對シテハ其ノ科目ノ試験ヲ關クコトヲ得

一、師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀ヲ有スル者

二、他ノ府縣ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ヲ有スル者

三、文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者

四、小學校教員免許狀又ハ小學師範學科卒業證書ヲ有シ其ノ有効期間滿チタル者

五、小學校教員講習科ヲ卒リタル者

六、中學校又ハ明治三十二年文部省令第三十四號ニ依リ文部大臣ニ於テ中學校ト同等以上ト認メタル學校ヲ卒業シタル者

七、高等女學校ヲ卒業シタル者

第一百四十四條 試験檢定ヲ受ケタル者ニシテ其ノ試験ニ合格セサルモ某科目ニ關シ成績佳良ナルトキハ府縣知事ハ其ノ科

目ノ成績ニ關シ證明書ヲ授與スルコトヲ得

前項ノ證明書ヲ受ケタル者ニシテ三箇年以内ニ更ニ試験檢定ヲ出願スルトキハ其ノ證明書ニ記載シタル科目ノ試験ヲ

關ク

第百十五條 府縣知事ハ檢定手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第二節 教員ノ免許狀

第百十六條 府縣知事又ハ文部省直轄學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ就キ普通免許狀ノ授與ヲ文部大臣ニ申請スルコトヲ得

- 一、小學校正教員府縣免許狀ヲ有シ十箇年以上市町村立小學校ノ正教員ノ職ニ在リ成績佳良ナル者
- 二、高等師範學校又ハ女子高等師範學校ヲ卒業シ三箇年以上市町村立小學校正教員ノ職ニ在ル者
- 三、文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シ三箇年以上市町村立小學校正教員ノ職ニ在ル者

第百十七條 師範學校長ハ師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シ小學校教員府縣免許狀ノ授與ヲ府縣知事ニ申請スヘシ

第百十八條 府縣知事ニ於テ第百十七條第六號ニ該當スル者ニ小學校正教員免許狀ヲ授與セントスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第百十九條 府縣知事ハ小學校教員免許狀登錄簿ヲ作り免許狀ヲ授與シタル者ノ氏名其ノ他必要ナル事項ヲ記入スヘシ

第百二十條 普通免許狀又ハ府縣免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損失シタルトキハ其ノ書換若ハ再渡ヲ文部大臣又ハ府縣知事ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料トシテ普通免許狀ニ就キテハ金壹圓、府縣免許狀ニ就キテ府縣知事ノ定メタル金額ヲ納ムヘシ

普通免許狀ノ書換若ハ再渡ニ關スル手数料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第百二十一條 普通免許狀又ハ府縣免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名及免許狀ノ種類ハ文部大臣又ハ府縣知事之ヲ公告ス

第五章 職 員

第一節 學校長及教員ノ進退

第百二十二條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ休職ヲ命スルコトヲ得

一、傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタルニ因リ職務ヲ行フニ妨アルトキ

二、學校編制ノ變更又ハ訴願ノ裁決ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

三、教員養成ヲ目的トスル官立、府縣立學校ニ入學スルトキ

四、刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

第百二十三條 市町村立小學校正教員ニシテ陸海軍現役ニ服シ又ハ戰時事變ニ際シ召集セラレタル者ハ當然休職者トス但シ陸軍六週間現役ニ服スル者ハ此ノ限ニアラス

第百二十四條 休職ノ期間ハ第百二十二條第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第四號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ同條第三號及第百二十三條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月トス

第百二十五條 休職者ハ職務ニ從事セサル外總テ在職者ト異ナルコトナシ但シ別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニアラス

第百二十六條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ府縣知事ハ之ニ退職ヲ命スルコトヲ得

一、不具、癡疾ニ因リ又ハ身體若ハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二、傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ其ノ職ニ堪ヘサルニ因リ又ハ自己ノ便宜ニ因リ退職ヲ出願シタルトキ

三、休職者復職シタル爲其ノ代員ヲ要セサルトキ

第百二十七條 第百二十二條又ハ第百二十六條ノ事由ニ因ラスシテ休職又ハ退職ヲ命スル必要アリト認メタルトキハ府縣知事ハ文部大臣ノ指揮ヲ受ケ特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得但シ休職ノ場合ニ於テハ豫メ期間ヲ定メテ具申スルコトヲ要ス

第百二十八條 市町村立小學校正教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當然退職者トス

一、當該學校ノ廢セラレタルトキ

二、休職期間滿チタルトキ

第二百二十九條 市町村立小學校教員ニシテ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケ又ハ其ノ免許狀ニシテ效力ヲ失ヒタルトキハ當然其ノ職ヲ失フ

第三百十條 市町村立小學校准教員ノ進退ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

第三百十一條 第二百二十二條第一號、第二百二十六條第一號及第二號前段ノ事由ニ因リ處分セントスルトキハ府縣知事ハ其ノ府縣恩給顧問醫ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第三百十二條 私立小學校長及教員ノ採用解職ハ設立者ニ於テ遲滯ナク府縣知事ニ届出ツヘシ

第二節 學校長及教員ノ職務及服務

第三百十三條 學校長及教育ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ヲ奉體シ法律命令ニ從ヒ誠實ニ其ノ職務ニ服スヘシ

第三百十四條 學校長ハ校務ヲ整理シ所屬職員ヲ統督ス

第三百十五條 正教員ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ且之ニ屬スル事務ヲ掌ル

第三百十六條 准教員ハ本科正教員ノ職務ヲ助ク

第三百十七條 市町村立小學校長及教員ハ當該學校所在ノ市町村ニ居住スヘシ但シ監督官廳ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ擅ニ其ノ職務ヲ離レ又ハ職務上居住スヘキ地ヲ離ル、コトヲ得ス

第三百十八條 學校長及教員ハ營利ヲ目的トスル會社ノ業務執行社員、取締役、監查役ト爲リ又ハ給料ヲ受ケテ他ノ事務ヲ行フコトヲ得ス但シ府縣知事ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

學校長及教員ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルニアラサレハ營利ヲ目的トスル業務ヲ爲スコトヲ得ス

第三節 懲戒處分、業務停止及免許狀褫奪

第三百十九條 市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行ハントスルトキハ府縣知事ハ期間ヲ定メテ本人ヨリ手續書ヲ徵スルコトヲ要ス但シ之ヲ徵スルコト能ハサル事由アルトキハ此ノ限ニアラス

第四百十條 懲戒處分ヲ行フヘキ事件刑事裁判所ニ繫屬スル間ハ同一事件ニ關シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得ス

第四百十一條 市町村立小學校長及教員ニ對シ懲戒處分ヲ行フトキハ府縣知事ハ本人ニ處分書ヲ交付スヘシ

第四百十二條 市町村立小學校長及教員ノ減俸ハ一箇月以上一箇年以下減俸ノ處分ヲ受ケタル當時ノ俸給月額ノ三分ノ一以下ヲ減給ス

第四百十三條 市町村立小學校教員ニシテ免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ二箇年ヲ經ルニアラサレハ教員ノ職ニ就クコトヲ得ス

第四百十四條 第三百十九條乃至第四百十一條ノ規定ハ業務停止及免許狀褫奪ノ處分ニ關シ之ヲ準用ス

第四百十五條 私立小學校長及教員ノ業務停止ハ一箇月以上二箇年以下トス

第四百十六條 府縣知事ニ於テ學校長又ハ教員ニ對シ免職、業務停止又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ行ヒタルトキハ其ノ氏名職名及事由ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

第四百十七條 府縣知事ハ免職又ハ業務停止ノ處分ヲ受ケタル學校長及教員ニシテ改悛ノ情顯著ナリト認メタル者ニハ

第四百十三條ノ期間内又ハ業務停止ノ期間内ト雖モ文部大臣ノ認可ヲ受ケ教員ノ職ニ就クコトヲ得シメ又ハ業務停止ヲ解クコトヲ得

第四節 俸給、旅費及諸給與準則

第四百十八條 教員ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ土地ノ情況ニ依リ本科正教員及准教員ノ俸給額ハ明治三十年勅令第二號第六條ノ金額マテニ減額スルコトヲ得

職名	本科正		專科正		准教員	
	上	下	上	下	上	下
一級	七十五圓	六十五圓	四十圓	三十五圓	二十四圓	十八圓
二級	六十圓	五十五圓	三十圓	二十七圓	十六圓	十四圓
三級	五十圓	四十五圓	二十四圓	二十二圓	十三圓	十二圓
四級	四十圓	三十五圓	二十圓	十八圓	十一圓	十圓
五級	三十圓	二十七圓	十六圓	十四圓	九圓	八圓
六級	二十四圓	二十二圓	十三圓	十二圓	七圓	六圓
七級	二十圓	十八圓	十一圓	十圓		
八級	十六圓	十四圓	九圓	八圓		
九級	十三圓	十二圓				
十級	十一圓	十圓				

第四百九條 本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ漸次百圓マテ増スコトヲ得

第五百十條 專科正教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級相當ノ俸給額ヲ減スルコトヲ得

第五百十一條 專科正教員ニシテ他ノ小學校ノ專科正教員ヲ兼スル者ニハ關係學校ノ經費ヨリ其ノ俸給ヲ分割シテ給スルコトヲ得

第五百十二條 教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトヲ得ス

第五百十三條 休職者ニハ俸給ヲ給セス但シ府縣知事ニ於テ市町村、町村學校組合又ハ區ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ一部若ハ全部ヲ給スルコトヲ得

第五百十四條 教員ニシテ在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ前條ノ規定ヲ準用ス

第五百十五條 教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍軍人俸給令ニ依リ俸給ヲ取クル者ニハ其ノ間俸給ヲ給セス但シ其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第五百十六條 教員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ俸給ハ日割ヲ以テ給スヘシ

一、懲戒ニ因リ免職ニ處セラレタルトキ

二、免許狀褫奪又ハ免許狀ノ失效ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第五百十七條 教員死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ラス在職最終ノ俸給月額三箇月分ヲ其ノ遺族ニ給スヘシ

第五百十八條 正教員ノ旅費額ハ判任文官ノ例ニ準シ之ヲ定メ准教員ノ旅費額ハ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第五百十九條 教員ニシテ一週三十時ヲ超エ教授ヲ擔任スル者ニハ手當ヲ給スヘシ

第六十條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ勤勞アル者ニハ慰勞金ヲ給スルコトヲ得

第六十一條 教員ニシテ宿直スル者ニハ賄料ヲ給スヘシ

第六十二條 學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲傷痍ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ給スヘシ

第六十三條 教員ニハ土地ノ情況ニ依リ住宅料ヲ給スヘシ

第六十四條 第五百十九條及第六十條ニ依リ給スル金額ハ府縣知事ニ於テ管理者ノ意見ヲ聞キテ之ヲ決定シ第六一條第六十三條ニ依リ給スル金額ハ管理者ニ於テ之ヲ決定スヘシ

第六十五條 本節ニ規定アルモノヲ除ク外俸給及旅費ノ支給方法ハ判任官ノ例ニ準シ地方ノ情況ヲ量リ之ヲ定ムヘシ

第六十六條 第四百十八條ニ掲クル表ニ依リ難キ事情アルトキハ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十七條 本節ニ學校長、教員トアルハ市町村立小學校ノ學校長、教員ヲ謂フ

第五節 代用教員

第六十八條 代用教員ノ進退ハ市立小學校ニ在リテハ市長、町村立小學校ニ在リテハ郡長之ヲ行フ

第六十九條 市町村立小學校代用教員職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リタルトキハ職務ノ内外ヲ問ハス體面ヲ汚

辱スルノ行爲アルトキハ懲戒處分ヲ行フヘシ其ノ處分ハ譴責、減俸及免職トス
懲戒處分ハ市立小學校ニ在リテハ市長、町村立小學校ニ在リテハ郡長之ヲ行フ

第七十條 代用教員ノ採用、解職及懲戒處分ハ郡市長又ハ設立者ニ於テ遲滞ナク府縣知事ニ報告スヘシ

第七十一條 小學校令第四十七條ノ規定竝ニ本令第五章第二節ノ規定中准教員ニ關スルモノハ代用教員ニ準用ス

第七十二條 府縣知事ニ於テ代用教員ヲ不適當ト認メタルトキハ之ヲ解職セシムルコトヲ得

第七十三條 市町村立小學校代用教員ノ俸給、旅費其ノ他諸給與ニ關スル規程ハ府縣知事之ヲ定ム

以後ノ改正ヲ便宜一括ス

(故ニ「明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則中」
左ノ通改正ス」ナル一句ハ以下ノ各省令ニ互リテ省略ス)

明治三十六年三月三十一日
文部省令第十一號

第九條第一項但シノ下「手工、農業、商業ノ一科目若ハ數科目ハ男子ニ限り」ヲ加フ
同條同項第十一號ノ次ニ左ノ三號ヲ加フ

手工 手工ノ大要

農業 農業ノ大要

商業 商業ノ大要

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

圖畫、唱歌、手工、農業、商業ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ闕キ女子ノ爲ニハ尙體操ヲ闕クコトヲ得

明治三十八年五月一日
文部省令第七號

第九十九條第一項中「府縣視學官」ヲ「第二部長タル府縣事務官」ニ改ム

明治四十一年五月四日
文部省令第十八號

第五十四條 教員ニシテ在職ノ儘小學校教員講習科ニ入學スル者ニハ俸給ノ一部若ハ全部ヲ給ス但シ其ノ額ハ府縣知
事ニ於テ市町村、町村學校組合又ハ區ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

明治四十年三月二十五日
文部省令第六號

第八條 第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但シ手工、農業、商業、英語ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ闕クコトヲ得

第九條第一項及第二項ヲ左ノ如ク改ム

小學校教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ農業、商業及體操中ノ兵式體操ハ男子ニ限り裁縫ハ女子ニ限ル
修身 道德ノ要旨

教育 教授法ノ大要

國語 普通文及小學校教科用讀本ノ講讀竝ニ作文、習字

算術 整數、分數、小數、諸等數、歩合算、比例、求積

歷史 日本歷史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ大要

圖畫 自在畫及簡易ナル幾何畫

音樂 唱歌、樂器使用法

體操 普通體操及兵式體操

裁縫 通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

手工 手工ノ大要

農業 農業ノ大要

商業 商業ノ大要

圖畫 音樂、手工、農業、商業ノ一科目若ハ數科目ハ之ヲ關クコトヲ得
第一百十條第二項「試驗ノ」下ニ「教育ノ大要及」ヲ加フ

第一百十一條 尋常小學校本科正教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ體操中ノ兵式體操ハ男子ニ限り裁縫ハ女子ニ
限ル

修身 道德ノ要旨

教育 教育、教授法及學校管理法ノ大要

國語 普通文及小學校科目讀本ノ講讀竝ニ作文、習字

算術 整數、分數、小數、諸等數、步合算、比例、求積

歴史 日本歴史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ大要

圖畫 自在畫

音樂 唱歌、樂器使用法

體操 普通體操及兵式體操

裁縫 通常ノ衣類ノ裁チ方、縫ヒ方、繕ヒ方

音樂ハ之ヲ關クコトヲ得

第一百十二條 尋常小學校准教員ノ試驗科目及其ノ程度ハ左ノ如シ但シ體操中ノ兵式體操ハ男子ニ限ル
修身 道德ノ要旨

教育 教育法ノ大要

國語 小學校教科用讀本ノ講讀竝ニ作文、習字

算術 整數、分數、小數、諸等數、步合算、比例

歴史 日本歴史ノ大要

地理 日本地理及外國地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ初步

圖畫 簡易ナル自在畫

唱歌 單音唱歌

體操 普通體操及兵式體操

圖畫 唱歌ノ一科目若ハ二科目ハ之ヲ關クコトヲ得

第一百十三條第二號中「他ノ府縣ニ於テ授與シタル」ヲ削ル

第一百十四條第二號中「三箇年以内ニ」ヲ削ル

第一百十六條 府縣知事又ハ高等師範學校長、女子高等師範學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當シ其ノ成績佳良ナル者ニ就キ普
通免許狀ノ授與ヲ文部大臣ニ申請スルコトヲ得

一、小學校正教員府縣免許狀ヲ有シ十箇年以上市町村立小學校、高等師範學校、女子高等師範學校、師範學校ノ訓導
ノ職ニ在ル者

二、高等師範學校又ハ女子高等師範學校ヲ卒業シ三箇年以上市町村立小學校、高等師範學校、女子高等師範學校、師
範學校ノ訓導ノ職ニ在ル者

三、文部省直轄學校ニ於テ某科目ニ關シ特ニ教員ノ職ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シ三箇年以上市町村立小學校、高等

師範學校、女子高等師範學校、師範學校ノ訓導ノ職ニ在ル者
 第五百五十九條中「三十時」ヲ「三十二時」ニ改ム

明治十四年四月一日
 文部省令第十五號

第四百四十八條 教員ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ土地ノ情況ニ依リ當分ノ内明治三十年勅令第二號第六條ノ金額マテニ減スルコトヲ得

職名	一級		二級		三級		四級		五級		六級		七級		八級		九級		十級	
	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上
本科	九十五圓	七十圓	六十圓	五十圓	四十圓	三十圓	二十四圓	二十圓	十六圓	十四圓	十二圓	十圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓
正教員	八十圓	六十五圓	五十五圓	四十五圓	三十五圓	二十七圓	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	十圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓
專科	五十圓	四十圓	三十圓	二十四圓	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	十圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓
正教員	四十五圓	三十五圓	二十七圓	二十二圓	十八圓	十四圓	十二圓	十圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓
准教員	二十五圓	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	十圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓
准教員	二十二圓	十八圓	十四圓	十二圓	十圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓	八圓	九圓

第四百四十九條中「百圓」ヲ「百二十圓」ニ改ム

第四百五條中「及試験檢定トス」ヲ「及試験檢定トシ學力、性及身體ニ就キ之ヲ行フ」ニ改ム
 第四百十條第一項及第二項ヲ左ノ三項ニ改ム

小學校專科正教員ノ試験科目ハ圖畫、音樂、體操、裁縫、手工、農業、商業ノ一科目若ハ數科目トス但シ商業ハ之ヲ商業、英語ニ分ツコトヲ得

前項試験科目ノ程度ハ師範學校生徒ニ課スル各科目ノ程度ニ準ス第一項ニ規定シタル各科目ノ試験ハ教育ノ大要及受
 驗科目ノ教授法ヲ附帶セシメ之ヲ行フ

第六十八條 市町村立小學校代用教員ノ採用、解職及懲戒處分ハ市町村立小學校准教員ノ例ニ依ル

第六十九條 削除

第七十條 私立小學校代用教員採用解職ニ關シテハ第三百三十二條ノ規定ヲ準用ス

第七十二條中「代用教員」ヲ「私立小學校代用教員」ニ改ム

明治四十五年一月三十一日
 文部省令 第三號

第五十八條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ正教員ニシテ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル學校長ヲ兼務スル者ノ旅費額、奏任文官ノ例ニ準シ之ヲ定ムヘシ

大正二年七月十六日
 文部省令第二十號

第九十九條 第一項ヲ左ノ如ク改ム會長ハ道廳府縣內務部長ヲ以テ之ニ充ツ

第二百二條第一項中「府縣判任官」ヲ「道廳府縣判任官」ニ改ム

第二百四條第一號ヲ左ノ如ク改メ第二號ヲ削ル

一、禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第七七條 第一項第二號削除

第九十九條第一項但書ヲ「但シ女子ニ在リテハ體操ハ女子ノ小學校本科正教員ニ準シ其ノ程度ヲ斟酌スヘシ」ニ第一項ノ科
 目中「體操 普通體操及兵式體操」ヲ「體操 體操及教練」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ科目中農業及商業ハ男子ニ限り裁縫ハ女子ニ限ル

第百一十一條第一項但書ヲ「但シ女子ニ在リテハ體操ハ女子ノ小學校本科正教員ニ準シ其ノ程度ヲ斟酌スヘシ」ニ第一項ノ科目中「體操、體操及教練」ニ改メ第一項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ科目中裁縫ハ女子ニ限ル

第百一十二條第一項但書ヲ「但シ女子ニ在リテハ體操ハ第百一十一條第一項但書ニ準シ其ノ程度ヲ斟酌スヘシ」ニ第一項ノ科目中「體操、普通體操及兵式體操」ヲ「體操、體操及教練」ニ改ム

第十六條 削除

第百十七條中「府縣免許狀」ヲ「免許狀」ニ改ム

第百二十條 免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シタルトキハ其ノ書換若ハ再渡ヲ府縣知事ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ免許狀ノ書換若ハ再渡ヲ出願スル者ハ手数料トシテ府縣知事ノ定メタル金額ヲ納ムヘシ

第百二十一條 免許狀ヲ受ケタル者ノ氏名及免許狀ノ種類ハ府縣知事之ヲ公告ス

第百二十二條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四、名譽職タル町村長及助役ニ當選シタルトキ

五、私立小學校ノ教員又ハ外國ニ於テ本邦人ヲ教育スル爲ニ設置シタル學校ノ教員トナルトキ

六、刑事事件ニ關シ告訴若ハ告發セラレタルトキ

第百二十四條 休職ノ期間ハ第百二十二條第二號第二號第四號及第五號ノ場合ニ在リテハ一箇年トシ同條第六號ノ場合ニ在リテハ其ノ事件ノ裁判所ニ繫屬中トシ同條第三號及第百二十三條ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙三箇月トス但シ第百二十二條第五號後段ノ場合ニ在リテハ府縣知事ハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得

大正三年一月八日
文部省令第一號

第百五十五條中「海軍軍人俸給令」ヲ「海軍給與令」ニ改ム

第百五十七條中ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ遺族及其ノ順位ニ關シテハ判任官俸給令第十三條第二項及第三項ノ規定ヲ準用ス

大正三年十月五日
文部省令第三十號

小學校令施行規則中左ノ通改正ス

第百五十三條 休職者ニハ其ノ休職中俸給ノ三分ノ一ヲ給ス但シ市町村、市町村學校組合、町村學校組合又ハ其ノ區ニ

於テ特別ノ事情アル場合若ハ第百二十二條第三號乃至第五號ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ給セサルコトヲ得

大正七年三月十九日
文部省令第四號

第百四十八條 教員ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

職名	一級		二級		三級		四級		五級		六級		七級		八級		九級		十級		十一級		十二級		
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	
本科	百五圓	九十四圓	八十圓	七十五圓	七十圓	六十五圓	六十圓	五十五圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓
正教員	六十圓	五十五圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓
專科	六十圓	五十五圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓
正教員	六十圓	五十五圓	五十圓	四十五圓	四十圓	三十五圓	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓
准教員	三十圓	二十五圓	二十圓	十五圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓

第百四十九條中「百二十圓」ヲ「百三十圓」ニ改ム

第五十條 教員ノ俸給ハ當分ノ内等級相當ノ額ヲ減シテ之ヲ支給スルコトヲ得

大正八年三月二十九日
文部省令第六號

第七條第一項第一號中「高等女學校教員免許狀」ノ下ニ「若ハ高等學校高等科教員免許狀」ヲ加ヘ第二號ヲ「一 高等學校高等科又ハ大學豫科ヲ卒ヘタル者」トス

第九條中「教授法ノ大要」ヲ「教育、教授法ノ大要」ニ「體操及教練」ヲ「體操、教練及遊戲」ニ改ム

第十條 小學校專科正教員ノ試驗科目ハ音樂、體操、裁縫、手工、農業、商業、家事、圖畫、外國語ノ一科目若ハ數科目トス

府縣知事ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ前項試驗科目ノ外必要ナル科目ニ付試驗ヲ行フコトヲ得

試驗科目ノ程度ハ師範學校生徒ニ科スル各科目ノ程度ニ準ス但シ前項ノ試驗科目ニ在リテハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ府縣知事ノ定ムル所ニ依ル

各科目ノ試驗ハ教育ノ大要及受験科目ノ教授法ヲ附帶セシメ之ヲ行フ

小學校專科正教員ノ試驗ハ小學校教員檢定委員會ニ於テ修身、國語、算術ニ關シ普通ノ學力ヲ有スト認メタル者ニアラサレハ之ヲ行ハス本條ニ小學校專科正教員トアルハ尋常小學校及高等小學校ニ於テ專科正教員タルコトヲ得ヘキ者ヲ謂フ

第十一條中「體操及教練」ヲ「體操、教練及遊戲」ニ改ム

第十二條中「教授法ノ大要」ヲ「教育、教授法ノ大要」ニ「體操及教授」ヲ「體操、教練及遊戲」ニ改ム

第十三條第一號中「高等女學校教員免許狀」ノ下ニ「若ハ高等學校高等科教員免許狀」ヲ加フ

第三十七條中「市町村」ニトアルヲ「市町村、市町村學校組合、町村學校組合ノ地域内」ニ改ム
第五十三條中「區」ヲ「學區」ニ改ム

第五十四條中「町村學校組合又ハ區」ヲ「市町村學校組合、町村學校組合又ハ學區」ニ改ム

大正九年八月二十日
文部省令第十九號

第四十八條 教員ノ月俸額ハ左表ニ依リ之ヲ定ムヘシ

職名	本科正教員		專科正教員		准教員	
	上	下	上	下	上	下
一級	百八十四圓	百六十四圓	百二十四圓	百十四圓	六十圓	五十五圓
二級	百四十五圓	百三十四圓	百圓	九十圓	五十圓	四十五圓
三級	百二十圓	百十圓	八十圓	七十五圓	四十圓	三十五圓
四級	百圓	九十圓	七十圓	六十五圓	三十三圓	三十圓
五級	八十五圓	八十圓	六十圓	五十五圓		
六級	七十五圓	七十圓	五十圓	四十五圓		
七級	六十五圓	六十圓	四十圓	三十五圓		
八級	五十五圓	五十圓				
九級	四十五圓	四十圓				

第四十九條 一級上俸ヲ受ケ特ニ功勞アル者ニハ本科正教員ニ在リテハ二百四十圓マテ專科正教員ニ在リテハ百六十圓マテ漸次増給スルコトヲ得

大正十年八月五日
文部省令第三十六號

第七條中第五號ヲ左ノ如ク改ム

五、公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ノ卒業者、專門學校入學者檢定規程第三條ノ試驗檢定ニ合格シタル者及同規程第八條第一號ニ依リ專門學校入學ニ關シ指定セラレタル者

第十八條 削除

第二百二十二條ニ左ノ一號ヲ加フ

七、一年現役兵トシテ服役シタル後陸軍補充令第三十七條ニ依リ勤務演習ニ召集セラレタルトキ
第二百二十三條中「但シ」ノ下ニ「徴兵令第十四條ノ規定ニ依リ一年現役兵トシテ服役スル者又ハ」ヲ加フ
第二百二十四條中「三箇月」トアルヲ「三箇月、第百二十二條第七號ノ場合ニ在リテハ其ノ事故止ミタル後尙一箇月」ニ改ム
第二百五十三條ノ二、市町村立小學校正教員ニシテ徴兵令第十四條ノ規定ニ依リ一年現役兵トシテ服役スル者ハ其ノ服役
中俸給ノ十分ノ二ヲ減ス

大正十三年八月八日
省令第十六號

第二百五十七條中「三箇月分」ヲ「四箇月分」ニ改ム

大正十五年四月二十二日
文部省令第十八號

第二百四條中第三號ヲ左ノ如ク改ム

三、破産者

第二百七條中「専門學校入學者檢定規程第三條ノ試験檢定ニ合格シタル者及同規程第八條第一號ニ依リ専門學校入學ニ關
シ指定セラレタル者」ヲ「専門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者及一般ノ専門學校入學ニ關シ無試験檢
定ヲ受クル資格ヲ有スル者」ニ、「高等女學校ヲ卒業シ修業年限一箇年以上ノ補習科」ヲ「高等女學校ノ高等科、專攻科若
ハ修業年限一年以上ノ補習科」ニ改ム

第二百九條中「求積」ノ下ニ「代數及幾何ノ初步」ヲ加フ「日本歴史」ヲ「國史」ニ、「及遊戯」ヲ「遊戯及競技」ニ改メ「農業及商
業ハ男子ニ限り」ヲ削ル

第二百十條中「農業」ノ下ニ「工業」ヲ加フ

第二百十一條中「日本歴史」ヲ「國史」ニ、「及遊戯」ヲ、「遊戯及競技」ニ改メ第三項ヲ削ル

第二百十二條中「日本歴史」ヲ「國史」ニ、「及遊戯」ヲ、「遊戯及競技」ニ改ム
第二百十三條中第六號及第七號ヲ左ノ如ク改ム

六、中學校又ハ高等女學校ヲ卒業シタル者

七、公立私立學校認定ニ關スル規則ニ依リ認定セラレタル學校ヲ卒業シタル者、専門學校入學者檢定規程ニ依リ試験
檢定ニ合格シタル者及一般ノ専門學校入學ニ關シ無試験檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

大正十五年六月三十日
文部省令第二十七號

第二百三十七條中「監督官廳」ノ認可ヲ受ケタルトキ」ヲ「學校長ニ在リテハ府縣知事、其ノ他ノ者ニ在リテハ學校長ノ認可
ヲ受ケタルトキ」ニ改ム

昭和二年十二月二十九日
文部省令第三十二號

第五十九條中「道廳」ヲ削ル

第二百二條中「道廳」ヲ削ル

第一百十條第三項中「各科目ノ程度」ヲ「各科目ノ程度（工業ニ在リテハ師範學校專攻科生徒ニ課スル手工ノ程度）」ニ改ム
第二百二十二條 第七號ヲ削ル

第二百二十三條但書ヲ左ノ通り改ム

但シ兵役法第十條ノ規定ニ依リ短期現役兵トシテ服役スル者ハ此ヲ限ニアラス

第三百三十一條 削除

第二百五十一條中「專科正教員」ニシテ他ノ小學校ノ專科正教員」ヲ「第三十七ニノ規定ニ依リ他ノ小學校教員」ニ改ム
第二百五十三條ノ二中「徴兵令第十四條ノ規定ニ依ル一年現役」ヲ「兵役法第十條ノ規定ニ依ル短期現役」ニ改ム

昭和三年七月二十日
文部省令第十號

第二百五十三條ノ二中「在營中」ヲ「服役中」ニ改ム

昭和六年六月十七日
文部省令第十七號

第四百四十八條中ノ表ヲ左ノ如ク改ム

職名	一級		二級		三級		四級		五級		六級		七級		八級		九級		
	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	
本科正教員	百六十五圓	百三十五圓	百十五圓	百五圓	九十五圓	八十五圓	七十五圓	六十五圓	五十五圓	四十五圓	三十五圓	二十五圓	十五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓
專科正教員	百十五圓	九十五圓	八十五圓	七十五圓	六十五圓	五十五圓	四十五圓	三十五圓	二十五圓	十五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓	五圓
准教員	六十圓	五十圓	四十圓	三十三圓	三十圓	三十圓	三十圓	三十圓	三十圓	三十圓	三十圓	三十圓	三十圓	三十圓	三十圓	三十圓	三十圓	三十圓	三十圓

第四百四十九條中「二百四十圓」ヲ「二百十五圓」ニ、「百六十圓」ヲ「百四十五圓」ニ改ム

附 則

本令ハ昭和六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ従前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ニ付テハ左ノ各號ニ依リ月俸額ヲ定ムヘシ

一、従前ノ規定ニ依リ左表上欄ノ俸給ヲ受クル者ハ各其ノ相當下欄ノ俸給月額又ハ之ニ相當スル級俸ヲ受ク

従前ノ俸給(月額)	改正俸給(月額)
二百四十圓以下ニシテ百八十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百八十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百六十五圓ヲ加ヘタル額但シ二百十六圓ヲ超ユルモノト得ス
百八十圓	百六十五圓
百八十圓未滿ニシテ百六十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百六十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百四十八圓ヲ加ヘタル額但シ百六十五圓ヲ超ユルモノト得ス
百六十圓	百四十八圓
百六十圓未滿ニシテ百四十五圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百四十五圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百三十六圓ヲ加ヘタル額但シ百四十八圓ヲ超ユルモノト得ス
百四十五圓	百三十六圓
百四十五圓未滿ニシテ百三十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百三十圓トノ差額ニ百二十二圓ヲ加ヘタル額但シ百三十六圓ヲ超ユルモノト得ス
百三十圓	百二十二圓
百三十圓未滿ニシテ百二十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百二十圓トノ差額ニ百十四圓ヲ加ヘタル額但シ百二十二圓ヲ超ユルモノト得ス
百二十圓	百十四圓
百二十圓未滿ニシテ百十圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百十圓トノ差額ニ百五圓ヲ加ヘタル額但シ百十四圓ヲ超ユルモノト得ス
百十圓	百五圓
百十圓未滿ニシテ百圓ヲ超ユルモノ	現ニ受クル額ト百圓トノ差額ニ九十七圓ヲ加ヘタル額但シ百五圓ヲ超ユルモノト得ス
百圓以下ニシテ九十五圓ヲ超ユルモノ	九十七圓

二、前號ノ規定ニ依リ計算スル俸給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

三、本令施行ノ際現ニ従前ノ規定ニ依リ月額九十圓ノ俸給ヲ受クル專科正教員ハ定額ノ改正ニ拘ラス従前ノ俸給ヲ受ク

昭和八年十月十八日
文部省令第十七號

第四百四十八條中ノ表ヲ左ノ如ク改ム

職名	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級	十四級
本科正教員	一六五圓	一四五圓	一三五圓	一二五圓	一一五圓	一〇五圓	九五圓	八五圓	七五圓	六五圓	五五圓	四五圓	四五圓	四〇圓
專科正教員	一一五圓	一〇五圓	九五圓	八五圓	七五圓	六五圓	五五圓	五〇圓	四五圓	四〇圓	三五圓			
准教員	六五圓	五五圓	五〇圓	四五圓	四〇圓	三五圓	三〇圓							

第四百四十九條「中一級上俸」ヲ「一級俸」ニ改ム

附 則

本令ハ昭和八年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ従前ノ規定ニ依リ俸給ヲ受クル者ニ付テハ左ノ各號ニ依リ月俸額ヲ定ムヘシ

一、現ニ受クル俸給額カ本令ニ依ル級俸ニ相當スルトキハ其ノ級俸ヲ受ク

二、現ニ受クル俸給額カ本令ニ依ル級俸ニ相當スルモノナキトキハ其ノ金額ノ俸給ヲ受ク

高等師範學校規程中改正

明治三十三年一月二十日
省令第一號

明治二十七年文部省令第十一號高等師範學校規程ヲ左ノ通改正シ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス但本令施行ノ際第三學年以上ノ生徒ハ従前ノ規程ニ依ラシム

第一條中文理科科ヲ「豫科本科研究科」ニ改メ左ノ第二項ヲ加フ

本科ヲ分チテ四學部トス

第二條 豫科ノ科目ハ倫理、國語、漢文、英語、論理學、數學、音樂、體操トス

第三條 本科第一部ノ科目ハ倫理、教育學、心理學、國語、漢文、英語、獨語（又ハ佛語）、歴史、哲學、言語學、生物學、生理學、體操トス、但隨意科目トシテ法制經濟、音樂ノ一科目若クハ二科目ヲ加フルコトヲ得又國語、漢文ヲ課スル生徒ニハ外國語ノ全部ヲ外國語ヲ課スル生徒ニハ國語、漢文ノ全部ヲ課セス

本科第二部ノ科目ハ倫理、教育學、心理學、哲學、地理、歴史、法制、經濟、英語、生物學、體操トス但隨意科目トシテ國語、漢文、獨語、音樂ノ一科目若クハ數科目ヲ加フルコトヲ得

本科第三部ノ科目ハ倫理、教育學、心理學、數學、物理學、化學、哲學、英語、圖畫、手工、體操トス但隨意科目トシテ獨語、生物學、化學、哲學、英語、圖畫、手工、體操トス但隨意科目トシテ獨語、生物學、音樂ノ一科目若クハ數科目ヲ加フルコトヲ得

本科第四部ノ科目ハ倫理、教育學、心理學、植物學、動物學、生理學、鑛物學、地學、農學、哲學、英語、圖畫、體操トス但隨意科目トシテ化學、獨語、音樂ノ一科目若クハ數科目ヲ加フルコトヲ得

第三條ノ一 研究科ノ科目ハ倫理學、教育學、教育制度、行政法、社會學、美學、哲學、實驗心理學、學校衛生、專科教育 兒童研究 教育演習トス研究科ニ於テハ五科目以上ヲ選修セシメ卒業論文ヲ提出セシム但教育演習ハ之ヲ缺クコトヲ得ス

第五條 修業年限ハ豫科一箇年本科三箇年研究科一箇年トス

第六條中「第四年」ヲ「第三年」ニ改ム

第七條 削除

第八條中「本入學」ヲ削リ第二項ヲ削除ス

第九條中「第一級第二級」ヲ「豫科」ニ改ム

第十條 研究科ニ入學スヘキ者ハ本科卒業生ニ就キ學校長ニ於テ選擇シ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ命ス但私費ヲ以テ入

學セント欲スル者ハ本文ノ者ニアラサルモ入學ヲ許可スルコトアルヘシ
第十一條 削除

第十二條中「中學校」ノ下「高等女學校」ヲ加フ

第十三條中「中學校」ノ下「高等女學校」ヲ加ヘ「文科又ハ理科」ヲ「本科」ニ改ム

高等師範學校生徒募集規則中改正

明治三十三年一月二十日
省令第二二號

明治三十年文部省令第十號高等師範學校生徒募集規則第一條及第二條中ノ「本科生」ヲ「豫科生」ニ改メ第四條ヲ削除シ
第五條中「研究生」ノ上ニ「私費」ヲ加フ

女子高等師範學校生徒募集規則中改正

明治三十三年三月二十九日
省令第六六號

明治三十年文部省令第二十二號女子高等師範學校生徒募集規則中第四條ヲ削除シ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

女子ノ師範學校、高等女學校ニ於ケル成績考査及

體操科課業ノ件

明治三十三年
訓令第六號

北海道廳 府縣

女子ノ師範學校及高等女學校ニ在學スル年紀ハ心身ノ發育上最モ注意ヲ要スル時期ナリ故ニ右等ノ學校ニ在リテハ女生徒學業ノ成績ハ平素ニ於テ便宜之ヲ調査セシムルコト、シ時期ヲ定メテ一時ニ全學科目ノ試験ヲ行フコト勿カラシムヘシ又月經ノ間ハ其ノ生徒ニ限リ體操科ヲ課セシメサルヲ要ス

高等師範學校規程中改正

明治三十四年三月三十日
省令第七七號

明治二十七年文部省令第十一號（註高等師範學校規程）第十四條ヲ左ノ通改正シ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第十四條 撰科生徒ノ在學期限ハ二箇年以上三箇年以下トス

師範學校本科生徒病類別患者表報告方

明治三十四年十二月四日
訓令第三三號

北海道廳 府縣

師範學校本科生徒病類別患者表左記様式ニ從ヒ毎年四月三十日限文部大臣ニ報告スヘシ
本令ノ調査ハ明治三十五年四月一日ヨリ施行スヘシ

様式（略）

様式說明（略）

直轄諸學校官制中改正（抄）

明治三十五年三月二十八日
勅令第九十八號

朕文部省直轄諸學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校官制中左ノ通改正ス

第一條 文部省直轄諸學校ハ左ノ如シ

東京高等師範學校

廣島高等師範學校

女子高等師範學校

（後略）

第二條中「小學校」ヲ置キ「ノ下」東京高等師範學校ニ「ヲ加フ

附 則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臨時教員養成所官制ヲ定ム

明治三十五年三月二十八日
勅令 第百二十八號

朕臨時教員養成所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時教員養成所官制

- 第一條 臨時教員養成所ハ師範學校中學校及高等女學校ノ教員タルヘキ者ヲ養成スル所トス
- 第二條 臨時教員養成所ハ文部大臣ノ指定スル帝國大學及直轄諸學校内ニ之ヲ置ク
- 第三條 臨時教員養成所ハ當該帝國大學總長及直轄諸學校長ヲシテ之ヲ管理セシム
- 第四條 臨時教員養成所ニ教授及書記ヲ置ク
- 教授ハ奏任トシテ各所ヲ通シ專任九人ヲ以テ定員トス生徒ノ教授ヲ掌ル
- 書記ハ判任トシ各所ヲ通シ專任五人ヲ以テ定員トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 臨時教員養成所管理者ハ講師ヲ囑託シ授業ヲ擔任セシムルコトヲ得
- 第五條 臨時教員養成所ノ名稱ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臨時教員養成所教授ノ官等俸給ニ關スル件

明治三十五年三月二十八日
敕令 第百二十八號

朕臨時教員養成所教授ノ官等俸給ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時教員養成所教授ノ官等俸給ニ關シテハ文部省直轄諸學校高等官官等俸給令中教授ノ例ニ依ル

附 則

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臨時教員養成所規程ヲ定ム

明治三十五年三月二十九日
省令 第百八十八號

臨時教員養成所規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

臨時教員養成所規程

- 第一條 臨時教員養成所ニハ國語漢文科、英語科、數學科、博物科、物理化學科ノ一學科若ハ數學科ヲ置ク
- 第二條 前條各學科ノ修業年限ハ二箇年トス
- 第三條 國語漢文科ノ學科目ハ倫理、教育、國語、漢文、英語、歷史トス
- 第四條 英語科ノ學科目ハ倫理、教育、英語、國語及漢文トス
- 第五條 數學科ノ學科目ハ倫理、教育、數學、英語、物理、簿記トス
- 第六條 博物科ノ學科目ハ倫理、教育、動物、生理、植物、礦物、英語、地文、地質、人類、天文トス
- 第七條 物理化學科ノ學科目ハ倫理、教育、物理、化學、英語、數學トス
- 第八條 各學科ノ各學年ニ於ケル每週教授時數ハ第一號表乃至第五號表ニ依ルヘシ
- 第九條 特別ノ事情アルトキハ管理者ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學科目ヲ加除シ教授時數ヲ増減スルコトヲ得
- 第十條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル學年ハ分テ三學期トシ第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日マテトシ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日マテトシ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日マテトス
- 休業日ニ關スル規定ハ管理者之ヲ定ムヘシ
- 第十一條 入學試験ハ中學校卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フ但シ中學校及師範學校ノ卒業者ニ限り時宜ニ因リ試験ヲ行ハサルコトヲ得
- 第十二條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ但シ管理者ノ見込ニ因リ某學科目ノ試験ヲ行ハサルコトヲ得

第十三條 管理者ハ全學科ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ
 管理者ハ前項ノ卒業者ニ對シ教員免許狀ノ授與ヲ文部大臣ニ申請スヘシ
 第十四條 管理者ハ成業ノ見込ナシト認メタル者及品行不良ナル者ニハ退學ヲ命スヘシ
 第十五條 生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ退學スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ管理者ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス
 第十六條 管理者ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得
 第十七條 臨時教員養成所ニ於テハ授業料ヲ徵收セス
 第十八條 臨時教員養成所ニ於テハ入學試驗料ヲ徵收スルコトヲ得

(第一號表)
國語漢文科

學科目	第一學年		第二學期		第三學期	
	倫理	教育	國語	漢文	英語	歷史
計	二	九	一〇	三	二八	三〇

(第二號表)
英語科

學科目	第一學年		第二學期		第三學期	
	倫理	教育	英語	國語及漢文	計	計
計	一	二	二二	四	二九	三二

(第三號表)
數學科

學科目	第一學年		第二學期		第三學期	
	倫理	教育	數學	英語	計	計
計	一	二	一七	三	二九	三二

	簿記	物理
計		
備考 實驗一回凡二時トス		
二八	二	三
實驗一回		實驗一回
二八	一	三
同上		同上
三〇		三

二四二

(第四號表)
博物科

	倫理	教育	動物	生理	植物	礦物	英語	地文	地質
學科目									
備考 實驗一回凡二時トス									
第一學年	一	一	二	二	二	三	三	二	
第一學期	一	一	二						
第二學期									
第二學期			二	同上	同上	同上	同上		
第三學期	一	一	二						
第三學期			二	同上	同上	同上	同上		
第三學期	一	一	二						
第三學期			二						
第三學期									
第三學期	一	一	二						

人類	天文
計	實驗四回
備考 實驗一回凡二時トス 第五號表	
一六	
同上	
一四	
同上	
一六	
同上	
一四	

(第五號表)
物理化學科

	倫理	教育	物理	化學	英語	數學	計
學科目							
備考 實驗一回凡二時トス 第五號表							
第一學年	一	二	五	五	三	五	實驗四回
第二學期	一	四	七	七	三	三	同上
第三學期	一	八	六	五	三	三	同上
第三學期	一	八	六	五	三	三	同上
第三學期	一	八	六	五	三	三	同上
第三學期	一	八	六	五	三	三	同上
第三學期	一	八	六	五	三	三	同上
第三學期	一	八	六	五	三	三	同上

(参照)
○臨時教員養成所位置名稱及學科

二四三

名	稱	學科	沿革	革	開始期日
第一臨時教員養成所(廢止)	(東京高等師範學校內)		昭和八年告示第七十七號ヲ以テ同年三月三十一日限り廢止		
第二臨時教員養成所(廢止)	(東京高等師範學校內)		昭和八年告示第七十七號ヲ以テ同年三月三十一日限り廢止		
第三臨時教員養成所(廢止)	(奈良女子高等師範學校內)		昭和七年告示第八十一號ヲ以テ同年三月三十一日限り廢止		
第四臨時教員養成所(廢止)	(東京音樂學校內)		昭和七年告示第八十一號ヲ以テ同年三月三十一日限り廢止		
第五臨時教員養成所(廢止)	(大阪外國語學校內)		昭和六年告示第四百四號ヲ以テ同年三月三十一日限り廢止		
第六臨時教員養成所	(東京女子高等師範學校內)	家事裁縫科	明治三十九年告示第八十三號ヲ以テ第六臨時教員養成所設置		大正七年四月ヨリ開始
第七臨時教員養成所(廢止)	(京都帝國大學內)	體操家事科	明治四十二年告示第四十號ヲ以テ英語科廢止家事科ヲ家事裁縫科體操家事科ト改正		大正十年四月ヨリ開始
第八臨時教員養成所(廢止)	(九州帝國大學內)	理科家事科	大正十年告示第四百四十二號ヲ以テ理科家事科設置		大正十一年四月ヨリ開始
		國語漢文科	大正十一年告示第三百四十五號ヲ以テ國語漢文科及理科設置		大正十四年四月ヨリ開始
		歷史地理科	大正十四年告示第四百四號ヲ以テ歷史地理科設置		

第九臨時教員養成所(廢止)	(東北帝國大學內)		昭和七年告示第八十一號ヲ以テ同年三月三十一日限り廢止		
第十臨時教員養成所(廢止)	(第四高等學校內)		昭和六年告示第四百四號ヲ以テ同年三月三十一日限り廢止		
第十一臨時教員養成所(廢止)	(濱松高等工業學校內)		昭和六年告示第四百四號ヲ以テ同年三月三十一日限り廢止		
第十二臨時教員養成所(廢止)	(東京外國語學校內)		昭和六年告示第四百四號ヲ以テ同年三月三十一日限り廢止		
第十三臨時教員養成所(廢止)	(第五高等學校內)		昭和七年告示第八十一號ヲ以テ同年三月三十一日限り廢止		
第十四臨時教員養成所(廢止)	(小樽高等商業學校內)		昭和五年告示第九十一號ヲ以テ同年三月三十一日限り廢止		
第十五臨時教員養成所(廢止)	(佐賀高等學校內)		昭和六年告示第四百四號ヲ以テ同年三月三十一日限り廢止		
第十六臨時教員養成所(廢止)	(北海道帝國大學內)		昭和七年告示第八十一號ヲ以テ同年三月三十一日限り廢止		

高等師範學校、女子高等師範學校及師範學校入學志望者中入學禁止スベキ者(註身體缺陷)
 明治三十五年二月二十四日 省令 第五號

高等師範學校、女子高等師範學校及師範學校ニ於テハ其ノ入學志望者ニシテ左ノ各項ノ一ニ該當スルモノヲ入學セシムヘカラス

一、明治三十三年文部省令第四號學生生徒身體檢查規程第五條第一項第七號ノ體格薄弱ニ屬スル者
 註 明治三十三年文部省令第四號第五條第一項第七號ハ「體格ハ強健、中等、薄弱ノ三等ニ區別スヘシ」ト定ム但シ右ノ

省令ハ大正九年文部省令第十六號ヲ以テ廢止ス

- 二、精神機能ニ障害アル者
- 三、傳染性眼疾ヲ患フル者又ハ眼鏡ヲ以テ補正スルコト能ハサル近視亂視弱視等ヲ有スル者
- 四、聽官又ハ言語ノ障害著シキ者
- 五、肺結核其ノ他結核ノ諸兆アル者
- 六、心臟瓣膜病ヲ患フル者
- 七、惡性腫瘍、腎臟炎、糖尿病、重症貧血ヲ患フル者
- 八、修學上ニ妨アル疾病ニ罹リ急治ノ見込ナキ者若ハ他ニ感染ノ虞アル疾病ヲ患フル者

附 則

本令ハ明治三十五年三月一日ヨリ施行ス

東京高等師範學校規程中改正

明治三十五年八月二十六日
省令 第十三號

明治二十七年文部省令第十一號東京高等師範學校規程中左ノ通改正ス

第三條ノ二 研究科ノ科目ハ本科各部ニ置ク所ノ科目トス

第五條 修業年限ハ豫科一箇年本科三箇年研究科一箇年乃至二箇年トス

東京高等師範學校生徒募集規則中改正

明治三十五年十二月二十三日
省令 第十七號

明治三十年文部省令第十號高等師範學校生徒募集規則中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ二項ヲ加フ

高等師範學校校長ハ必要ト認メタルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定シタルモノ、外薦舉ニ關スル條件ヲ定ムルコトヲ得

第一項ニ掲ケタル師範學校及中學校ノ生徒ニシテ當該學校長ニ於テ本條ノ募集ニ依リ入學スヘキ者ノ入學期以前ニ卒業スヘシト認メタル者ハ當該學校ノ卒業生ニ準スルコトヲ得

師範學校本科生徒病類別患者表中改正

明治三十五年
訓令 第四號

師範學校本科生徒病類別患者表様式説明中改正

(略)

直轄諸學校官制中改正

明治三十六年十二月四日
勅令 第二百三十號

朕文部省直轄諸學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校官制中左ノ通改正ス

第十條中「高等師範學校及」ヲ削リ「舍監」ヲ「生徒監」ニ改ム

臨時教員養成所官制中改正

明治三十六年十二月四日
勅令 第二百三十二號

朕臨時教員養成所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時教員養成所官制中左ノ通改正ス

第四條中「五人」ヲ「四人」ニ改ム

高等師範學校規程中改正

明治三十六年一月九日
省令第一號

明治二十七年文部省令第十一號高等師範學校規程中左ノ通改正ス

第一條第二項ヲ左ノ如ク改ム

本科ハ分テ國語漢文部、英語部、地理歴史部、數物化學部及博物學部トス

第二條ヲ左ノ如ク改ム

豫科ノ科目ハ倫理、國語、漢文、英語、數學、論理、圖畫、音樂、體操トス但一部ノ生徒ニハ圖畫、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ課セサルコトヲ得

第三條ヲ左ノ如ク改ム

本科國語漢文部ノ科目ハ倫理、心理學及教育學、國語、漢文、英語、歴史、哲學、言語學、體操トス但隨意科目トシテ獨語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フルコトヲ得

本科英語部ノ科目ハ倫理、心理學及教育學、英語、國語及漢文、歴史、哲學、言語學、體操トス但隨意科目トシテ獨語又ハ佛語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フルコトヲ得

本科地理歴史部ノ科目ハ倫理、心理學及教育學、地理、歴史、法制經濟、國語及漢文、英語、體操トス但隨意科目トシテ獨語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フルコトヲ得

本科數物化學部ノ科目ハ倫理、心理學及教育學、數學、物理學、化學、天文氣象、英語、圖畫及手工、體操トス但隨意科目トシテ獨語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フルコトヲ得

本科博物學部ノ科目ハ倫理、心理學及教育學、植物學、動物學、生理學及衛生、礦物學及地質學、農學、英語、圖畫、體操トス但隨意科目トシテ獨語、音樂ノ一科目若ハ二科目ヲ加フルコトヲ得

附 則

本令ハ明治三十六年四月一日ヨリ施行ス

本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ニ就キテハ學校長ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ從前ノ規定ヲ斟酌シ特別ノ學科課程ヲ定ムルコトヲ得

師範學校設備規則中改正

明治三十六年三月五日
省令第三號

明治二十五年文部省令第十二號師範學校設備規則中第十三條ヲ左ノ通改正ス

第十三條 學校ノ位置ヲ選定セントスルトキハ地方長官ニ於テ校地ノ區域、面積、地質、竝ニ附近ノ情況ヲ記載シタル

圖面及飲料水ノ定性分析表ヲ具シテ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但校地外ニ體操場ヲ設ケントスル場合ニ於テハ其ノ區域、面積、附近ノ情況竝ニ校地トノ距離ヲ具スルヲ要ス

校舍及寄宿舎ノ建設又ハ變更ハ圖面ヲ具シテ文部大臣ニ開申スヘシ

高等師範學校規程中改正

明治三十六年四月九日
省令第二十號

明治二十七年文部省令第十一號高等師範學校規程中左ノ通改正ス

第十條中「本科卒業生」ヲ「本科及專修科ノ卒業生」ニ改ム

女子高等師範學校規程中改正

明治三十六年十月十二日
省令第三十二號

明治三十年文部省令第二十四號女子高等師範學校規程中左ノ通改正ス

第二條 文科ノ科目ハ倫理、教育學、國語、漢文、外國語、歴史、地理、音樂、體操トス

第三條 理科ノ科目ハ倫理、教育學、外國語、數學、物理、化學、博物、音樂、體操トス

第四條 技藝科ノ科目ハ倫理、教育學、外國語、物理及化學、家事、裁縫及手藝、圖畫及圖案、音樂、體操トス
第四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條ノ二 前三條ノ科目中音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトヲ得

第六條 文科、理科、技藝科ノ修業年限ハ各四箇年トス
第十條 女子高等師範學校ノ卒業生又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ニシテ第二條乃至第四條ニ規定シタル科目中ノ一科目又ハ數科目ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ研究科ヲ置ク

研究科ノ修業年限ハ一箇年乃至二箇年トス
第十二條第三項ヲ左ノ如ク改ム

選科生ノ在學期間ハ四箇年トス但シ特別ノ事情アル者ニ就キテハ學校長ニ於テ本文ノ期間ヲ伸縮スルコトヲ得
附 則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

本令施行ノ際現ニ女子高等師範學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ科目ニ就キテハ學校長ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ新舊規定ヲ斟酌シテ之ヲ定ムルコトヲ得

高等師範學校卒業生服務規則中改正

明治三十六年十一月十四日
省令第三十五號

明治三十年文部省令第十一號高等師範學校卒業生服務規則中左ノ通改正ス

第一條ヲ左ノ如ク改ム

高等師範學校本科卒業生ニシテ所定學資ノ全部支給ヲ受ケタル者ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ七箇年一部支給ヲ受ケタル者ハ五箇年自費生ハ三箇年トシ其ノ間教育ニ關スル職務ニ従事スル義務ヲ有スルモノトス但全部支給ヲ受

ケタル者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年間一部支給ヲ受ケタル者ハ二箇年間ハ文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス

第二條中「七箇年」ヲ「五箇年」ニ「三箇年」ヲ「二箇年」ニ改ム

附 則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

女子高等師範學校卒業生服務規則中改正

明治三十六年十一月十四日
省令第三十六號

明治三十年文部省令第十二號女子高等師範學校卒業生服務規則中左ノ通改正ス

第一條第一項ヲ左ノ通改ム

女子高等師範學校本科卒業生ニシテ所定學資ノ全部支給ヲ受ケタル者ノ服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年一部支給ヲ受ケタル者ハ三箇年自費生ハ二箇年トシ其ノ間教育ニ關スル職務ニ従事スル義務ヲ有スルモノトス但學資ノ支給ヲ受ケタル者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年間文部省ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務アルモノトス

附 則

本令ハ明治三十七年四月一日ヨリ施行ス

師範學校設備規則中改正

明治三十七年二月二十二日
省令第二十二號

明治二十五年文部省令第十二號師範學校設備規則中左ノ通改正ス

第一條ヲ左ノ如ク改ム

第一條 師範學校ニ於テハ校地、校舍、寄宿舎、體操場及校具ヲ備フヘシ

第二條ヲ左ノ如ク改ム

第二條 校地、校舍、體操場及校具ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス

校地ハ道德上竝ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

校舍ハ教授上、管理上竝ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス

第三條乃至第九條ヲ削除ス

東京高等師範學校附屬小學校第二部若ハ第三部ニ於テ

二部教授施行方 明治三十七年一月二十六日
文部省訓令

東京高等師範學校

小學校令施行規則第三十四條規定ノ二部教授ニ關スル學理及實際ヲ攻究シ併テ生徒ヲシテ實地授業ヲ練習セシムルノ目的ヲ以テ明治三十七年四月ヨリ其ノ校附屬小學校第二部若ハ第三部ニ於テ其ノ兒童ノ全部ヲ前後二部ニ分チテ教授スヘシ

(参照)

小學校令施行規則

第三十四條 土地ノ情況ニ依リ小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全部若ハ一部ノ兒童ヲ前後二部ニ分チテ教授スルコトヲ得

女子高等師範學校附屬小學校第二部若ハ第三部ニ

於テ二部教授施行方 明治三十七年一月二十六日
文部省訓令號外

女子高等師範學校

小學校令施行規則第三十四條規定ノ二部教授ニ關スル學理及實際ヲ攻究シ併テ生徒ヲシテ實地授業ヲ練習セシムルノ目

的ヲ以テ明治三十七年四月ヨリ其ノ學校附屬小學校第二部若ハ第三部ニ於テ其ノ兒童ノ一部ヲ前後二部ニ分チテ教授スヘシ

東京高等師範學校附屬各學校ニ於テ管理、教授及訓練ノ方法

二部ニ研究實驗セル結果申報方 明治三十七年十月二十六日
文部省訓令

東京高等師範學校

其ノ校附屬各學校ニ於テ管理、教授及訓練ノ方法ニ關シ研究實驗セル結果ハ時々本省ニ申報スヘシ

女子高等師範學校附屬各學校ニ於テ管理、教授及訓練ノ方法

二部ニ研究實驗セル結果申報方 明治三十七年十月二十六日
文部省訓令

女子高等師範學校

其ノ校附屬各學校ニ於テ管理、教授及訓練ノ方法ニ關シ研究實驗セル結果ハ時々本省ニ申報スヘシ

女子高等師範學校卒業生服務規則中改正

明治三十八年四月八日
省令第五號

明治三十年文部省令第十二號女子高等師範學校卒業生服務規則中左ノ通改正ス

第六條第一項中「自費ヲ以テ」ヲ削ル

臨時教員養成所官制中改正

明治三十九年三月二十九日
勅令第四十二號

朕臨時教員養成所官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

臨時教員養成所官制中左ノ通改正ス

第四條中「九人」ヲ「六人」ニ「四人」ヲ「三人」ニ改ム

附 則

本令ハ明治三十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臨時教員養成所規程中改正

明治三十九年四月二日
省令第三號

明治三十五年文部省令第八號臨時教員養成所規程中左ノ通改正ス

第九條 「認可ヲ受ケ」ノ下「修業年限ヲ延長シ」ヲ加フ

第十一條中「中學校卒業」ヲ「男子ニ在リテハ中學校卒業、女子ニ在リテハ修業年限四箇年ノ高等女學校卒業」ニ改ム

第十八條ノ次ニ左ノ三條ヲ加フ

第十九條 特別ノ必要アリト認メタルトキハ生徒ニ學資ヲ補給スルコトアルヘシ

第二十條 前條ニ依リ學資ノ補給ヲ受ケタル者ハ卒業ノ日ヨリ學資ノ補給ヲ受ケタル年間ト同一期間文部大臣ノ指定ニ

從ヒ教職ニ従事スヘキ義務アルモノトス但シ特別ノ事情アル者ハ其ノ免除又ハ猶豫ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

第二十一條 左ノ各號ニ該當スル者ハ在學中補給シタル學資ヲ償還セシム但シ文部大臣ハ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一、第十四條ニ依リ退學ヲ命セラレタル者

二、第十五條但書ニ依リ退學シタル者

三、前條ノ義務ヲ盡サ、ル者

四、服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者

附 則

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

直轄諸學校官制中改正

明治四十年六月二十八日
勅令第二百四十六號

朕文部省直轄諸學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

文部省直轄諸學校官制中左ノ通改正ス

第六條中「教授」ノ次ニ「生徒監」ヲ加フ

第八條 教授ハ勅任又ハ奏任トシ助教授ハ判任トス生徒ノ教育ヲ掌ル

第九條 生徒監ハ奏任教官ノ中ヨリ文部大臣之ヲ補ス

生徒監ハ校長ノ指揮ヲ承ケ専ラ生徒ノ訓育ヲ掌ル

「第九條」ヲ「第十條」ニ改メ第十條ヲ削ル

第十一條中「第五條及第九條」ヲ「第六條」ニ改ム

第十二條 教諭ハ奏任トシ助教諭ハ判任トス附屬中學校及附屬高等女學校生徒ノ教育ヲ掌リ兼テ師範生徒ノ實地授業ヲ

監督ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

府縣立師範學校長任命及俸給令中改正

明治四十年六月二十八日
勅令第二百四十九號

朕府縣立師範學校長任命及俸給令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

府縣立師範學校長任命及俸給令中左ノ通改正ス

「任命及」ヲ「官等」ニ改ム

第一條中「奏任トス」ヲ「奏任トシ其ノ官等ハ高等官五等以下八等以上トス但シ特ニ功勞アリ五年以上高等官五等ニ在ル者ハ之ヲ高等官四等ニ陞叙スルコトヲ得」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

師範學校規程制定

明治四十年四月十七日
文部省令第十二號

師範學校規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

師範學校規程

第一章 生徒教養ノ要旨

第二章 豫備科及本科

第一節 學科及其ノ程度

第二節 教授日數及式日

第三節 編 制

第四節 教科用圖書

第五節 入學、退學及懲戒

第六節 學 資

第七節 卒業後ノ服務

第三章 講 習 科

第四章 附屬小學校及附屬幼稚園

第五章 設 備

第六章 設置及廢止

第七章 補 則

第八章 附 則

師範學校規程

第一章 生徒教養ノ要旨

第一條 師範學校ニ於テハ師範教育令ノ旨趣ニ基キ特ニ左ノ事項ニ注意シテ其ノ生徒ヲ教養スヘシ

一、忠君愛國ノ志氣ニ富ムハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素忠孝ノ大義ヲ明ニシ國民タルノ志操ヲ振起セシメンコトヲ要ス

二、精神ヲ鍛鍊シ德操ヲ磨勵スルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素意ヲ此ニ用ヒシメンコトヲ要ス

三、規律ヲ守リ秩序ヲ保チ師表タルヘキ威儀ヲ具フルハ教員タル者ニ在リテハ殊ニ重要トス故ニ生徒ヲシテ平素長上ノ命令訓誨ニ服從シ起居言動ヲ正シクセシメンコトヲ要ス

四、教授ハ教員タルヘキ者ニ適切ニシテ小學校令及小學校令施行規則ノ旨趣ニ副ハンコトヲ旨トスヘシ

五、教授ハ常ニ其ノ方法ニ注意シ生徒ヲシテ業ヲ受クル際教授ノ方法ヲ會得セシメンコトヲ務ムヘシ

六、學習ノ方法ハ偏ニ教授ノミニ憑ラシムヘキモノニアラス故ニ生徒ヲシテ常ニ自ラ學識ヲ進メ技藝ヲ研クノ習慣ヲ養ハシメンコトヲ務ムヘシ

第二章 豫備科及本科

第一節 學科及其ノ程度

第二條 本科ヲ分チテ第一部及第二部トス但シ第二部ハ土地ノ情況ニ依リテ設ケサルコトヲ得

第三條 豫備科ハ本科第一部ニ入學セントスル者ニ必要ナル教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第四條 豫備科ノ修業年限ハ一箇年トス

本科第一部ノ修業年限ハ四箇年トス

本科第二部ノ修業年限ハ男生徒ニ就キテハ一箇年、女生徒ニ就キテハ二箇年又ハ一箇年トス

第五條 豫備科ノ學科目ハ修身、國語及漢文、數學、習字、圖畫、音樂、體操トシ女生徒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ

第六條 本科第一部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、英語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、習字、圖畫、手工、音樂、體操トス但シ英語ハ隨意科目トス

前項學科目ノ外農業、商業ノ一科目又ハ二科目ヲ加フ其ノ二科目ヲ加ヘタル場合ニ於テハ生徒ニハ一科目ヲ學習セシムヘシ

第七條 本科第一部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、家事、裁縫、習字、圖畫、手工、音樂、體操トス

前項學科目ノ外隨意科目トシテ英語ヲ加フルコトヲ得

第八條 修身ハ教育ニ關スル勸語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ實踐躬行ヲ勸奨シ師表タルノ威儀ヲ具ヘシメ且小學校ニ於ケル修身ノ教授ニ必要ナル知識ヲ授ケ其ノ教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ又作法ヲ授ケ進ミテハ稍々秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル責務ヲ知ラシメ倫理學ノ一斑及教授ヲ授クヘシ

前項ノ外女生徒ニ就キテハ現行法制上ノ事項ノ大要ヲ授クヘシ

第九條 教育ハ教育ニ關スル一般ノ知識ヲ得シメ特ニ小學校教育ノ旨趣方法ヲ詳ニシ教育ノ技能ヲ習得セシメ兼テ教育者タルノ精神ヲ養フヲ以テ要旨トス

教育ハ心理及論理ノ大要ヨリ始メ教育ノ理論、教授法及保育法ノ概説、近世教育史ノ大要、教育制度、學校管理法、學校衛生ヲ授ケ又教育實習ヲ課スヘシ

前項ノ外女生徒ニ就キテハ便宜保育實習ヲ課スヘシ

第十條 國語及漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表出スルノ能ヲ得シメ小學校ニ於ケル國語教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ文學上ノ趣味ヲ養ヒ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ國文ニ及ホシ又言語ノ使用ニ練熟セシメ實用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要ヲ授ケ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第十一條 英語ハ普通ノ英語ヲ了解スルノ能ヲ得シメ知識ノ増進ニ資シ兼テ小學校ニ於ケル英語教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

英語ハ發音、綴字、讀方、解釋、書取、會話、作文、習字及文法ノ大要ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第十二條 歴史ハ歴史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、邦國盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニシ且小學校ニ於ケル日本歴史教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

歴史ハ日本歴史及外國歴史トシ日本歴史ニ於テハ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事蹟ヲ授ケ外國歴史ニ於テハ世界大勢ノ變遷ニ關スル事蹟ヲ主トシ著名ナル諸國ノ興亡、人文ノ發達及我國文化ニ關係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシメ且教授法ヲ授クヘシ

第十三條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及外國ノ國勢ヲ知ラシメ且小學校ニ於ケル地理教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ世界地理ノ概略及日本地理並ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ又地文ノ一斑及人文地理ノ概説ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第十四條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ且小學校ニ於ケル算術教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ生活上必要ナル知識ヲ與ヘ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス

數學ハ算術、代數及幾何ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

前項ノ外男生徒ニ就キテハ簿記ノ大要ヲ授クヘシ

第十五條 博物ハ天然物ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ且小學校ニ於ケル理科教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

博物ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ知識、標本ノ採集調製法並ニ人體ノ構造、生理及衛生ノ大要ヲ授ケ又小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ且教授法ヲ授クヘシ

第十六條 物理及化學ハ自然ノ現象ニ關スル知識ヲ與ヘ其ノ法則並ニ人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ且小學校ニ於ケル理科教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

物理及化學ハ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル智識ヲ授ケ又小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ且教授法ヲ授クヘシ

第十七條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民ノ生活上必要ナル智識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス
法制及經濟ハ帝國憲法ノ大要及日常生活ニ適切ナル法制上及經濟上ノ事項ヲ授クヘシ

第十八條 家事ハ家事整理ニ必要ナル知識ヲ得シメ兼テ勤勉、節儉、秩序、周密、清潔ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、養老、育兒、看病、家計簿記其ノ他一家ノ整理經濟等ニ關スル事項ヲ授クヘシ

第十九條 裁縫ハ裁縫ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル裁縫ノ方法ヲ會得セシメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方及繕ヒ方等ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十條 習字ハ文字ヲ端正且敏速ニ書寫スルノ能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル國語書キ方教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス
習字ハ姿勢及執筆ヲ正シ運筆ノ方法ヲ授ケ楷書、行書ヲ主トシ草書及假名ニ及ホシ兼テ細字ノ速寫及黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サシメ且教授法ヲ授クヘシ

第二十一條 圖畫ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル圖畫教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ寫生畫ヲ主トシ臨畫及考案畫ヲ加ヘ授ケ黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サシメ又幾何畫ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十二條 手工ハ物體ニ關スル觀念ヲ正確ナラシメ簡易ナル物品ヲ製作スルノ技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル手工教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ工作ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
手工ハ天然物ノ模造、日用器具ノ製作等諸種ノ細工ヲ授ケ又材料ノ性質、工具ノ保存法等ヲ知ラシメ且教授法ヲ授クヘシ

第二十三條 音樂ハ音樂ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル唱歌教授ノ方法ヲ會得セシメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ特性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

音樂ハ單音唱歌、複音唱歌及樂器使用法ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

第二十四條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ姿勢ヲ端正ニシ身體ヲ強健ニシ且其ノ動作ヲ機敏耐久ナラシメ又精神ヲ快活剛毅ナラシメ且小學校ニ於ケル體操ノ教授ニ必要ナル知識技能ヲ得シメ其ノ教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ男生徒ニ就キテハ普通體操、遊戲、兵式體操トシ且教授法ヲ授ケ女生徒ニ就キテハ普通體操、遊戲トシ且教授法ヲ授クヘシ

第二十五條 農業ハ農業ニ關スル知識技能ヲ得シメ且小學校ニ於ケル農業教授ノ方法ヲ會得セシメ兼テ農業ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
農業ハ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、森林、養蠶、養畜、農産製造、農業經濟等ニ關スル事項ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

土地ノ情況ニ依リ水産ニ關スル事項ヲ加ヘ授クヘシ

第二十六條 商業ハ商業ニ關スル知識ヲ得シメ且小學校ニ於ケル商業教授ノ方法ヲ會得セシムルヲ以テ要旨トス

商業ハ商事要項、商業簿記、商業算術、商業地理及其ノ地方ニ於ケル重要ナル商品ノ大要ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ
第二十七條 豫備科及本科第一部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ甲號表、女生徒ニ就キテハ乙號表ニ依ルヘシ但シ必要アルトキハ學校長ハ每週教授時數ノ總計及各學科目ノ一學年間ニ於ケル教授時數ノ總計ヲ増減セサル範圍内ニ於テ之ヲ變更スルコトヲ得

甲 號 表

學科目	學科及學年		豫備科	本科			
	身	修		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
國語及漢文			一〇	六	四	三	二
教 育			二	二	二	四	教育實習 九三一二

乙 號 表

學科目	學科及學年		豫備科	本科			
	身	修		第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
英 語				三	三	三	二
歷 史				二	二	二	
地 理				二	二	一	
數 學			六	四	三	三	二
博 物				三	二	一	
物 理 及 化 學					二	二	四
法 制 及 經 濟					一	三	二
習 字			三	二		一	
圖 畫			二	三		一	
手 工				三		三	
音 樂			二	二		二	一
體 操			六	五	二	五	三
農 業 又 ハ 商 業				二	五	二	
計			三一	三四	三四	三四	三四

英	體	音	手	圖	習	裁	家	物	博	數	地	歷	國	教
語	操	樂	工	畫	字	縫	事	理	物	學	理	史	語	育
計														
三一	四	二		二	三	四				五			九	
三一													六	
(三四)	(三)	三	二	三	二	四		二	三	二	二	二	二	二
三一													四	二
(三四)	(三)	三	二	三	一	四		二	二	三	二	二	二	四
三一													三	四
(三四)	(三)	三	二	三	一	四	二	二	一	二	一	二	二	三
三一														四
(三四)	(三)	三	二	三	一	四	二	二	一	二	一	二	二	三
三一														四
(三四)	(二)	二	一	二		三	二	四		二			二	三
計														九
(三四)	(二)	二	一	二		三	二	四		二			二	三

第二十八條 本科第二部ノ男生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、圖畫、手工、音樂、體操トス

法制及經濟ハ中學校ニ於テ學習シタル生徒ニハ之ヲ缺クコトヲ得

第二十九條 本科第二部ノ女生徒ニ課スヘキ學科目ハ修身、教育、國語及漢文、數學、博物、物理及化學、裁縫、圖畫、手工、音樂、體操トス但シ修業年限ヲ二箇年ト爲シタル場合ニ於テハ歴史、地理ヲ加フ又隨意科目トシテ英語ヲ加フルコトヲ得

第三十條 修身ハ第八條ニ準シ道德ノ要領ヲ教示シ又小學校ニ於ケル修身ノ教授ニ必要ナル知識竝ニ作法ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ

前項ノ外女生徒ニ就キテハ現行法制上ノ事項ノ大要ヲ授クヘシ

第三十一條 教育ハ第九條ニ準シ且修業年限一箇年ノ學科ヲ修ムル生徒ニ就キテハ歴史、地理ノ教授法ヲ授クヘシ

第三十二條 國語及漢文ハ第十條ニ準シ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ又言語ノ使用ニ練熟セシメ實用簡易ナル文ヲ作ラシメ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第三十三條 歴史、地理ハ第十二條及第十三條ニ準シ既得ノ知識ヲ補習セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第三十四條 數學ハ第十四條ニ準シ算術ヲ授ケ且教授法ヲ授クヘシ前項ノ外男生徒ニ就キテハ簿記ノ大要ヲ授ケ女生徒ニ就キテハ便宜代數、幾何ヲ授クヘシ

第三十五條 博物ハ第十五條ニ準シ主トシテ小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ標本ノ採集調製法ヲ授ケ又既得ノ知識ヲ補習セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第三十六條 物理及化學ハ第十六條ニ準シ主トシテ小學校ニ於ケル教授ニ必要ナル實驗ヲ課シ又既得ノ知識ヲ補習セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第三十七條 裁縫ハ第十九條ニ準シ既得ノ知識技能ヲ補習セシメ且教授法ヲ授クヘシ

第三十八條 圖畫ハ第二十一條ニ準シ既得ノ知識技能ヲ補習セシメ又黑板上ニ於ケル練習ヲ爲サシメ且教授法ヲ授クヘシ

第三十九條 英語、法制及經濟、手工、音樂、體操ハ第十一條、第十七條、第二十二條乃至第二十四條ニ準シ之ヲ授ク
ヘシ

第四十條 本科第二部ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ男生徒ニ就キテハ甲號表、女生徒ニ就キテハ修業年限ニ依リ
乙號表又ハ丙號表ニ依ルヘシ但シ學校長ハ第二十七條但書ニ準シ之ヲ變更スルコトヲ得

甲 號 表

學科目	學年
修 身	第一學年
教 育	第一學年
國 語 及 漢 文	第一學年
數 學	第一學年
博 物 學	第一學年
物 理 及 化 學	第一學年
法 制 及 經 濟	第一學年
圖 畫	第一學年
手 工	第一學年
音 樂	第一學年
體 操	第一學年
英 語	第一學年
英 語	第二學年
體 操	第二學年
音 樂	第二學年
手 工	第二學年
圖 畫	第二學年
博 物 學	第二學年
物 理 及 化 學	第二學年
法 制 及 經 濟	第二學年
國 語 及 漢 文	第二學年
數 學	第二學年
博 物 學	第二學年
物 理 及 化 學	第二學年
法 制 及 經 濟	第二學年
圖 畫	第二學年
手 工	第二學年
音 樂	第二學年
體 操	第二學年
英 語	第二學年
計	三四

乙 號 表

學科目	學年
修 身	第一學年
教 育	第一學年
國 語 及 漢 文	第一學年
數 學	第一學年
博 物 學	第一學年
物 理 及 化 學	第一學年
裁 縫	第一學年
圖 畫	第一學年
手 工	第一學年
音 樂	第一學年
體 操	第一學年
英 語	第一學年
英 語	第二學年
體 操	第二學年
音 樂	第二學年
手 工	第二學年
圖 畫	第二學年
博 物 學	第二學年
物 理 及 化 學	第二學年
裁 縫	第二學年
圖 畫	第二學年
手 工	第二學年
音 樂	第二學年
體 操	第二學年
英 語	第二學年
計	三四

丙 號 表

學 科 目	學 年	計	
		三 一 (三 四)	三 一 (三 四)
修 身	第 一 學 年	二	
教 育			
國 語 及 漢 文		六 七	一 三
數 學		三	三
博 物 學		三	
物 理 及 化 學		三	
裁 縫		二	
圖 畫		二	
手 工		三	
音 樂		二	
體 操		三	
計		三 四	三 四

第二節 教授日數及式日

第四十一條 教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此

ノ限リニアラス試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第四十二條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキハ其ノ他非常變災アルトキハ地方長官ニ於テ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ

第四十三條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三節 編 制

第四十四條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ

一學級ノ生徒數ハ凡四十人以下トス

第四十五條 修身、裁縫、音樂、體操ハ學級ノ異ル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

英語、法制及經濟、農業、商業ハ學級ノ異ル生徒ヲ合シテ前條第二項ノ制限ヲ超エサル場合ニ限り同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第四十六條 教員ノ數ハ四學級ノ學校ニ於テハ十一人以上トシ四學級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但女生徒ノミヲ置キタル學校ニ於テハ本文ニ依ル員數ヨリ一人ヲ減ス

農業、商業ノ二科目ヲ加フル學校ニ於テハ本科第一部男生徒ノ學級數十二以下ナルトキハ教員一人、十三以上ナルトキハ同二人ノ割合ヲ以テ前項ノ員數ヲ増スヘシ

第四節 教科用圖書

第四十七條 豫備科及本科ノ教科用圖書ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル必要アリト認メタルキハ地方長官ハ其ノ意見ヲ文部大臣ニ申出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ地方長官ハ學校長ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス

第五節 入學、退學及懲戒

第四十八條 豫備科及本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全、品行方正ニシテ第四十九條乃至第五十一條ノ學力ヲ有

スル者タルヘシ

二七〇

第四十九條 豫備科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十四年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第五十條 本科第一部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ豫備科ヲ修了シタル者又ハ修業年限三箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者若ハ年齢十五年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第五十一條 本科第二部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ男生徒ニ就キテハ中學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十七年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者、女生徒ニ就キテハ修業年限ヲ二箇年ト爲シタル場合ニ於テハ修業年限四箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十六年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者、修業年限ヲ一箇年ト爲シタル場合ニ於テハ修業年限五箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十七年以上ニシテ之ト同等ノ學力及年齢當該學級ニ相當スル者ヲ以テ補缺スルコトヲ得

第五十二條 生徒ニ缺員アルトキハ身體健全、品行方正ニシテ學力及年齢當該學級ニ相當スル者ヲ以テ補缺スルコトヲ得

第五十三條 入學志願者ノ檢定ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第五十四條 必要アリト認メタルトキハ地方長官ハ豫備科ヲ修了シタル者以外ノ入學者ニ對シ四箇月以内ノ期間ニ於テ假入學ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第五十五條 學校長ハ本科ヲ卒業シタル者ニ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十六條 學校長ニ於テ學力劣等若ハ身體虛弱ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者又ハ性質不良ニシテ教員タルニ不適當ト認メタル者ニハ退學ヲ命スヘシ

第五十七條 生徒ハ自己ノ便宜ニ因リ退學スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル事由ニ因リ學校長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニアラス

第五十八條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第六節 學 費

第五十九條 公費生ノ員數、之ニ支給スヘキ學費及其ノ支給方法ハ地方長官之ヲ定ム

私費生ヲ置カントスルトキハ地方長官ハ其ノ員數ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六十條 懲戒ニ因リ放校ニ處セラレタル者及自己ノ便宜ニ因リ退學シタル者ニ對シテハ地方長官ハ公費生ニ就キテハ授業費及其ノ在學中支給シタル學費私費生ニ就キテハ授業費ヲ償還セシムヘシ但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得

前項授業費ノ金額ハ年額三拾圓以下ニ於テ地方長官之ヲ定ムヘシ

第七節 卒業後ノ服務

第六十一條 本科卒業者ハ左ノ各號ノ一ニ規定セル期間其ノ道府縣ニ於テ小學校教員ノ職ニ從事スル義務ヲ有ス但シ次條ノ義務ヲ終リタル者ハ學事ニ關スル他ノ公職ニ從事シ尙特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ他ノ道府縣、臺灣又ハ樺太ニ於テ就職スルコトヲ得

一、第一部公費男子卒業生ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ七箇年

二、第一部公費女子卒業生ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ五箇年

三、第一部私費卒業生ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年

四、第二部卒業生ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年

第六十二條 本科公費卒業生ハ左ノ各號ノ一ニ規定セル期間其ノ道府縣ニ於テ地方長官ノ指定スル小學校教員ノ職ニ從事スル義務ヲ有ス

一、第一部男子卒業生ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ三箇年

二、第一部女子卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年

三、第二部卒業者ニ在リテハ卒業證書受得ノ日ヨリ二箇年

第六十三條 學資ノ支給額ニ差等ヲ設ケタル場合ニ於テ本科第一部公費卒業者ニシテ最多額ノ支給ヲ受ケサル者ニ就キテハ第六十一條ノ期間ヲ男子五箇年、女子三箇年トス

第六十四條 特別ノ事情アルトキハ前三條ノ期間内ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケ本邦兒童ノ爲外國ニ於テ小學校令ノ旨趣ニ準シテ設立セル公立又ハ之ニ準スヘキ學校ノ教員ノ職ニ從事スルコトヲ得

前項ノ服務ハ第六十一條及第六十二條ノ服務ト同視ス

第六十五條 服務期間内ニ於テ教員養成ヲ目的トスル官立學校ニ入學セントスル者アルトキハ地方長官ハ之ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ學校ニ入學シタル場合ニ於テハ在學中第六十一條及第六十二條ノ義務ノ履行ヲ猶豫ス其ノ卒業シタル場合ニ於テ當該學校ニ關スル法令ノ規定ニ依リ卒業後服務義務ヲ有スルトキハ第六十一條及第六十二條ノ義務ハ之ヲ免除ス

第六十六條 本科卒業者ニシテ第六十一條及第六十二條ノ義務ヲ盡クスコト能ハサル事由ヲ生シタル者又ハ外國政府ノ

招聘ニ應ジ教員ノ職ニ從事セントスル者アルトキハ地方長官ハ必要ト認ムル期間内ノ義務ヲ免除スルコトヲ得

第六十七條 本科卒業者ニシテ服務期間内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アルトキハ地方長官ハ公費卒業者ニ就キテ

ハ授業費及其ノ在學中支給シタル學資、私費卒業者ニ就キテハ授業費ヲ償還セシムヘシ但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトヲ得

一、正當ノ事由ナクシテ第六十一條及第六十二條ノ義務ヲ盡ササルトキ

二、懲戒免職ニ處セラレタルトキ

三、小學校令ノ規定ニ依リ免許狀其ノ效力ヲ失ヒ又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ

四、前條前段ノ事由ニ因リ第六十一條及第六十二條ノ義務ヲ免除セラレタルトキ

第六十八條 前條授業費ノ金額ハ年額三拾圓以下ニ於テ地方長官之ヲ定ムヘシ

第三章 講習科

第六十九條 小學校教員講習科ハ小學校教員免許狀ヲ有スル者ニ必要ナル講習ヲ爲スモノトス

特別ノ必要アルトキハ尋常小學校教員タラントスル者ニ必要ナル講習ヲ爲ス爲小學校教員講習科ヲ設ケルコトヲ得

第七十條 尋常小學校准教員タラントスル者ノ爲設ケル講習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全、品行方正ニシテ

修業年限二箇年ノ高等小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者トシ其ノ講習期間ハ一箇年以上トス

尋常小學校本科正教員タラントスル者ノ爲設ケル講習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全ニシテ尋常小學校准教員免許狀ヲ有スル者又ハ身體健全、品行方正ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者トシ其ノ講習期間ハ二箇年以上トス

第七十一條 幼稚園保姆講習科ハ保姆タラントスル者又ハ保姆タルヘキ資格ヲ有スル者ニ必要ナル講習ヲ爲スモノトス

第七十二條 講習期間一箇年以上ノ講習科ヲ置キタルトキハ一學級毎ニ一人以上ノ割合ヲ以テ第四十六條ノ教員定數ヲ

増スヘシ

第七十三條 講習科ニ關シ必要ナル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第四章 附屬小學校及附屬幼稚園

第七十四條 師範學校ニハ附屬小學校ヲ設ケヘシ

女生徒ヲ置キタル師範學校ニハ成ルヘク附屬幼稚園ヲ設ケ

特別ノ事情アルトキハ地方長官ハ期間ヲ定メテ文部大臣ノ許可ヲ受ケ市町村立小學校ヲ以テ附屬小學校ニ代用シ又ハ市町村立若ハ私立ノ幼稚園ヲ以テ附屬幼稚園ニ代用スルコトヲ得

第七十五條 附屬小學校及附屬幼稚園ニハ小學校令第一條乃至第三條、第十八條乃至第二十七條、第三十七條、第三十

八條、第四十七條、小學校令施行規則第一條乃至第二十八條、第三十條乃至第三十三條、第三十五條第一項及第四項、第三十七條、第三十八條、第四十二條乃至第五十三條、第五十六條、第九十五條乃至第一百二條、第二百六條、第二百七條ヲ準用ス但シ小學校令第二十三條、第二十七條第三項、小學校令施行規則第十八條ノ二、第十九條、第三十一條第四項、第四十四條、第四十六條ニ關シテハ地方長官ニ於テ之ヲ專行スヘシ

第七十六條 附屬小學校ニ於テハ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ併置スヘシ

第七十七條 附屬小學校ニ於テハ單級尋常小學校ノ例ニ準シテ編制シタル學級、數學年ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級及一學年ノ兒童ヲ以テ編制シタル學級ヲ設クヘシ但シ女生徒ノミヲ置キタル師範學校ニ於テハ單級尋常小學校ノ例ニ準シテ編制シタル學級ヲ設ケサルコトヲ得

第七十八條 附屬小學校ニ於テハ二部教授ヲ行フヘシ但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ此ノ限ニアラス

第七十九條 附屬小學校ノ教員ハ小學校ノ正教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第八十條 附屬小學校ノ授業料及附屬幼稚園ノ保育料ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第五章 設 備

第八十一條 師範學校ニ於テハ校地、校舍、寄宿舎、體操場及校具ヲ備フヘシ

前項ノ外農業ヲ加ヘタル學校ニ於テハ農業實習地ヲ備フヘシ

第八十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ道德上並ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

第八十三條 校舍ハ教授上、管理上並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナルヘシ

第八十四條 體操場ハ屋内體操場及屋外體操場トス

第八十五條 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿等トス

第八十六條 土地ノ情況ニ依リ學校長、舍監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第八十七條 校舍、寄宿舎及屋内體操場ヲ設ケ又ハ之ヲ變更シタルトキハ圖面ヲ添ヘ文部大臣ニ届出ツヘシ

第六章 設置及廢止

第八十八條 師範學校ノ設置及廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八十九條 前條ニ依リ設置ノ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具申スヘシ

- 一、名 稱
- 二、位 置
- 三、學 科
- 四、生徒及兒童ノ定員、附屬幼稚園ヲ設クルトキハ幼兒ノ定員
- 五、學級ノ編制、附屬幼稚園ヲ設クルトキハ組ノ編制
- 六、開校年月
- 七、經 費

前項第一號、第二號、第六號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ、第三號乃至第五號ノ變更ハ文部大臣ニ届出ツヘシ

前二項ノ位置ニ關シテハ校地ノ面積、地質、屋外體操場ノ區域、面積並ニ附近ノ狀況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添附スヘシ

第七章 補 則

第九十條 地方長官ハ師範學校ノ學則ヲ定メ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

學則中ニ規定スヘキ事項左ノ如シ

- 一、學年、學期及休業日ニ關スル事項
- 二、學科課程及教授時數ニ關スル事項

- 三、生徒ノ學業成績調査ニ關スル事項
- 四、生徒ノ入學、退學及懲戒ニ關スル事項
- 五、學費及授業費ニ關スル事項
- 六、寄宿舎ニ關スル事項
- 七、生徒ノ取締ニ關スル事項
- 八、講習科ニ關スル事項
- 九、附屬小學校及附屬幼稚園ニ關スル事項
- 十、其ノ他必要ナル事項

第八章 附 則

- 第九十一條 本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ施行ス
- 第九十二條 従前ノ規定ニ依ル本科ハ本令施行ノ日ヨリ當然本科第一部ニ變更セラレタルモノト看做ス
- 第九十三條 本令施行ノ際現ニ豫備科及本科ニ在學スル女生徒ノ修業年限ハ乃従前ノ規定ニ依ル但シ本令ノ規定ニ依ルコトヲ妨ケス
- 第九十四條 第六條及第二十八條ノ學科目中法制及經濟ハ當分之ヲ缺クコトヲ得
- 第九十五條 本令施行ノ際現ニ豫備科及本科ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ従前ノ規定ヲ斟酌シ又ハ之ニ依ルコトヲ得
- 第九十六條 本令施行ノ際現ニ簡易科ニ在學スル生徒ニ就キテハ其ノ卒業ニ至ルマテ仍従前ノ規定ニ依ル

- 第九十七條 簡易科卒業生ノ服務義務ニ關シテハ第二章第七節ノ規定ヲ準用ス但シ其ノ服務期間ハ仍従前ノ規定ニ依ル
- 第九十八條 本令施行前師範學校ヲ卒業シタル者ニ對シテハ授業費償還ニ關スル規定ヲ適用セス
- 第九十九條 明治二十四年文部省令第二十六號、明治二十五年文部省令第八號、同第十號乃至第十二號、同第十五號、明治二十六年文部省令第十四號、明治三十年文部省令第十九號、同第二十一號及明治三十一年文部省令第四號ハ之ヲ廢止ス

師範學校規程制定ノ要旨及施行上注意

明治四十年四月十七日 文部省訓令第六號

北海道 廳 府縣

近年我邦教育ノ進歩ニ伴ヒ師範學校ノ現行規定中改正ノ必要ヲ感スルモノ尠カラズ殊ニ今同義務教育ノ年限延長セラレタルニ際シ適良ナル教員ノ養成ヲ要スルコト益々切ナルニ至レリ是レ師範學校ニ關スル從來單行ノ諸規程ヲ總括シテ新ニ師範學校規程ヲ制定スル所以ナリ今左ニ其ノ改正ノ要旨ト施行上注意スヘキ事項ノ一斑トヲ舉示スル所アルヘシ

師範學校ノ學科ニ就キテハ本科ヲ第一部及第二部ニ分チ從來ノ簡易科ハ之ヲ廢止スルコトトセリ而シテ第一部ニ於テハ女生徒ノ修業年限ヲ男生徒ト同シク四箇年トシ又豫備科ノ修業年限ヲ一箇年ト定メタリ蓋シ從來本科卒業生ニ與ヘタル小學校教員ノ資格ハ男女ニヨリテ差異ナキニ拘ハラズ其ノ修業年限ヲ異ニセルハ女子教育ノ發達尙幼稚ナリシ時代ニ於テ定ニ已ムコトヲ得サルニ出テタルモノナリト雖今ヤ其ノ進歩發達著シク且教職ノ女子ニ待ツモノ漸ク切ナラントスルノ形勢ニ徴シ優良ナル女教員養成ノ必要ヲ認メタルヲ以テ本規程ニ於テハ男女共ニ其ノ修業年限ヲ同一ナラシメタリ

又第二部ニ於テハ主トシテ中學校又ハ高等女學校ノ卒業生ヲ入學セシメ之ニ一箇年若ハ二箇年必要ナル教育ヲ施シ以テ第一部ニ於ケルト同等ノ成績ヲ舉ケシメンコトヲ期セリ從來此等ノ學校卒業生ニシテ小學校教員タル者尠カラズト雖教授訓練ニ關スル知識技能未タ十分ナラサルモノアリ近年地方ニヨリテハ短期ノ講習科ヲ設クルモノナキニアラス而モ

其ノ期間、學科目、教授時數ノ如キ正教員養成ノ機關トシテハ頗ル不完全タルヲ免レス是レ今回一定ノ課程ノ下ニ新ニ
 第二部ヲ設ケ正教員養成ノ途ヲ開キタル所以ナリ然レトモ正教員ノ不足ハ一朝一夕ニ之ヲ補充シ得ヘキニアラサルカ故
 ニ第二部ヲ設置スルカ爲ニ第一部ノ縮少ヲ計ルカ如キハ本規程ヲ設ケタル旨趣ニ副ハサルモノトス而シテ若シ第二部ニ
 於テ毎年一學級ヲ編制スルニ足ルヘキ生徒數ヲ得難キトキハ男女生徒ノ各學級ヲ隔年交互ニ設ケ又ハ講習科ト交互ニ之
 ヲ設クル等便宜ノ方法ニヨリ苟モ中學校又ハ高等女學校ノ卒業生ニシテ小學校教員トラントスル者ハ成ルヘク遺漏ナク
 之ヲ收容シテ以テ第二部ヲ設クヘキナリ

高等小學校卒業生ヲシテ直ニ師範學校ニ進入スルコトヲ得シムルハ學校ノ系統上適當ノコトナルノミナラス一面ニハ優
 秀ナル生徒ヲ得ンカ爲ニ最有效ノ方法タリ是レ今回本科第一部ノ入學資格者中ニ修業年限三箇年ノ高等小學校卒業生ヲ
 加ヘ又豫備科ノ修業年限、學科程度等ヲ一定シテ高等小學校第二學年修了者トノ連絡ヲ計リタル所以ナリ而シテ修業年
 限三箇年ノ高等小學校ハ當分其ノ數尙多カラサルヘキヲ以テ地方長官ハ成ルヘク豫備科ノ施設ヲ企圖センコトヲ望ム
 小學校教員講習科ハ現ニ小學校教員タル資格ヲ有スル者ニ必要ナル補習ヲ爲サシムルヲ以テ本體トシ特別ノ必要アルト
 キハ尋常小學校教員養成ノ爲ニ之ヲ設クルヲ得ルコトトシ且其ノ講習期間ニ關スル制限ヲ定メタリ今ヤ小學校令ノ改正
 ニヨリ從來尋常小學校教員ノ資格ヲ有スル者ト雖將來ノ尋常小學校教員トシテハ學力ノ不足ヲ免カレサルニ至ルヘキカ
 故ニ此等教員ノ爲特ニ講習科ヲ設ケ學力ノ補習ヲ計ルコトハ今日ノ最急務トスル所ナリ

學科目ニ就キテハ社會ノ趨勢ト從來ノ經驗トニ徴シテ本科第一部ノ男生徒ニ對シ新ニ法制及經濟ヲ加ヘ又男女生徒ヲ間
 ハス手工ヲ必修セシムルコトトナシ英語ハ男生徒ニ對シテハ必設科目トシ女生徒ニ對シテハ之ヲ加設スルコトヲ得シメ
 共ニ隨意科目トナセリ而シテ法制及經濟ハ當分ノ内之ヲ缺クコトヲ得シメ尙其ノ實施ニ就キテハ準備ヲ要スルモノアリ
 他日更ニ訓示スル所アラントス又英語ハ元來學習ニ困難ナル學科目ナルヲ以テ學力ニ餘裕アル者又ハ語學ノ材幹アル者
 ノ之ヲ修ムルハ固ヨリ妨ナシト雖徒ニ世ノ流行ニ倣ヒテ之ヲ學習スルカ如キハ深ク戒ムヘキコトニシテ學校職員ヲシテ

指導其ノ方ヲ誤ラシメサラントヲ要ス

本科第二部ハ高等普通教育ヲ終レル者ニ對シテ短期ノ師範教育ヲ施シ以テ教員タルニ適セシメントスルモノナレハ此ノ
 旨趣ニ基キ其ノ學科目及程度ヲ配當規定セリ故ニ之ヲ授クルニハ主トシテ既得ノ知識技能ニ基キテ之ヲ統合補習セシメ
 殊ニ小學校ニ於ケル教職ニ關シ必要ナル事項ヲ習得セシムルコトニ注意セサルヘカラサルナリ

師範學校ニ於テハ生徒ニ學資ヲ支給スルハ其ノ本則トスル所ナレトモ地方ニヨリ入學志願者ノ多少、生活程度ノ高低等
 固ヨリ同一ナラサルカ故ニ全國劃一ノ制ニ依ルコトヲ要セサルノミナラス現今ノ狀況ニ就キテ之ヲ考フルトキハ學資ノ
 金額ニ差等ヲ設ケテ必要ニ應シ適度ニ之ヲ支給シ而シテ其ノ節約シ得タル所ハ以テ女生徒ノ修業年限延長等ニ要スヘキ
 經費ヲ補ヒ又ハ生徒ノ員數ヲ増加スル等他ノ需要ニ充テンカ爲學資ノ種類金額ハ之ヲ地方長官ノ適當ナル措置ニ一任セ
 リ又從來ノ經驗ニ徴スルニ卒業生ノ服務年限ハ長キニ失スルノ嫌ナキニアラサルヲ以テ本規程ニ於テハ其ノ年限ヲ減縮
 シタリ

附屬小學校及附屬幼稚園ニ就キテハ特別ノ事情アルトキハ市町村立小學校及幼稚園又ハ私立ノ幼稚園ヲ以テ代用スルコ
 トヲ許セリ是レ將來師範學校ノ増設又ハ生徒ノ増加ニ伴ヒ附屬小學校又ハ附屬幼稚園ヲ設置シ若ハ之ヲ擴張スルノ必要
 アルニ際シ土地ノ情況地方經濟ノ緩急ニヨリ便宜ノ施設ヲ爲スコトヲ得シメ教育及保育ノ實習上支障ナカラシメンカ爲
 ナリ又附屬小學校ニ於テハ規程ニ示セル學級ノ外成ルヘク盲人、啞人又ハ心身ノ發育不完全ナル兒童ヲ教育センカ爲特
 別學級ヲ設ケ之カ教育ノ方法ヲ攻究センコトヲ希望ス蓋シ此ノ如キ施設ハ從來未タ多ク見サリシ所ナリト雖教育ノ進歩
 ト文化ノ發展トニ伴ヒ將來ニ於テハ其ノ必要アルヲ認ムルヲ以テナリ

要スルニ今回改正ノ要旨ハ小學教育ノ發達ニ伴ヒ其ノ源泉タル師範教育ノ内容ヲ改善シ一層優良ナル小學校長及教員ヲ
 得兼テ其ノ不足ヲ補充スルニ足ルヘキ人員ヲ養成セシメントスルニ外ナラス而シテ諸般ノ施設ニ關シ教育上障害ナキ範
 圍内ニ於テ節約利用ノ方法ヲ講シ以テ多數ノ生徒ヲ養成センコト最希望ニ堪ヘサルナリ即チ土地ノ情況ニ應シ私費生及

女生徒ノ員數ヲ適度ニ増加スルコト教育ニ妨ケナキ限ニ於テ校舍ノ利用度數ヲ増加シ教員勤務ノ繁閑ヲ考ヘ便宜晝夜二部ノ教授ヲ獎勵スルコト又ハ生徒收容上ノ必要ニヨリテハ一部ノ生徒ヲ外宿セシムル途ヲ講スル等ノ如キ孰モ此ノ目的ヲ達スルニ於テ便宜ノ方法ヲラスンハアラス而シテ制度ノ改善ハ未タ必スシモ直ニ教育ノ改善ヲ意味セス地方長官ハ宜シク學校職員ヲ督勵シ以テ本規程改正ノ旨趣ヲ貫徹セシメンコトヲ期スヘシ

明治二十年訓令第四號外三訓令廢止

明治四十年四月十八日
文部省訓令第七號

北海道廳 府縣

明治二十年文部省訓令第四號、明治二十二年文部省訓令第四號、明治二十四年文部省訓令第七號、明治二十五年文部省訓令第六號、明治四十一年三月三十一日限り之ヲ廢止ス

廣島高等師範學校ニ於テ管理、教授及訓練ノ方法ニ關シ研究
實驗セル結果申報方

明治四十年十二月九日
文部省訓令

廣島高等師範學校

其ノ校附屬各學校ニ於テ管理、教授及訓練ノ方法ニ關シ研究實驗セル結果ハ時々本省ニ申報スヘシ

直轄諸學校官制中改正

明治四十一年三月三十日
勅令第六十八號

朕文部省直轄諸學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
文部省直轄諸學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「女子高等師範學校」ヲ「東京女子高等師範學校」ニ改メ同校ノ次ニ「奈良女子高等師範學校」ヲ加ヘ「札幌農學校」ヲ削リ「盛岡高等農林學校」ノ次ニ「鹿兒島高等農林學校」ヲ、「長崎高等商業學校」ノ次ニ「山口高等商業學校」ヲ加ヘ「第七高等學校造士館」ノ次「山口高等商業學校」ヲ削リ「第八高等學校」ヲ加フ
第十八條ノ二 削除

附 則

本令ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

女子高等師範學校規程中改正

明治四十一年三月十三日
文部省令第五號

明治三十年文部省令第二十四號女子高等師範學校規程中左ノ通改正ス
第二條中「地理」ノ次ニ「習字」ヲ加フ
第四條中「裁縫及手藝」ヲ「裁縫、手藝」ニ改ム

高等師範學校規程中改正

明治四十一年十月三十一日
文部省令第三十號

明治二十七年文部省令第十一號高等師範學校規程中左ノ通改正ス
第十二條第二項削除

臨時教員養成所規程中改正

明治四十一年十二月二十八日
文部省令第三十三號

明治三十五年文部省令第八號臨時教員養成所規程中左ノ通改正ス
第一條中「物理化學科」ノ下ニ「家事科」ヲ加フ

第二條中「二箇年」ノ下ニ「乃至三箇年」ヲ加フ

第七條ノ二 家事科ノ學科目ハ修身、教育、家事、裁縫、國語、物理及化學、體操トシ隨意科目トシテ手藝及圖畫ヲ加フ

第八條 各學科ノ修業年限及各學科目ノ每週教授時數ハ管理者之ヲ定メ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 特別ノ事情アルトキハ管理者ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學科目ヲ加除スルコトヲ得

第一號表乃至第五號表ヲ削除ス

師範學校官制中改正

明治四十二年十二月九日
勅令第三百三十二號

師範學校官制中左ノ通改正ス

第一條中「訓導」ノ次ニ「保母但シ附屬幼稚園ヲ置キタル場合ニ限ル」ヲ加フ

第二條及第九條中「訓導」ノ下ニ「保母」ヲ加フ

第七條ノ二 保母ハ附屬幼稚園幼兒ノ保育ヲ掌ル

第十條ニ左ノ一項ヲ加フ

附屬幼稚園ヲ置キタル場合ニ於テハ附屬小學校主事ヲシテ兼ネテ其ノ國務ヲ管掌セシム

女子高等師範學校生徒募集規則中改正

明治四十二年二月三日
文部省令第三號

明治三十年文部省令第二十二號女子高等師範學校生徒募集規則中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ二項ヲ加フ

女子高等師範學校長ハ必要ト認メタルトキハ文部大臣ノ許可ヲ受ケ前項ニ規定シタルモノノ外薦舉ニ關スル條件ヲ定ムルコトヲ得

ムルコトヲ得

第一項ニ掲ケタル師範學校及高等女學校ノ生徒ニシテ當該學校長ニ於テ本條ノ募集ニ依リ入學スヘキ者ノ入學期以前ニ卒業スヘシト認メタル者ハ當該學校ノ卒業生ニ準スルコトヲ得

師範學校規程中改正

明治四十二年二月十八日
文部省令第六號

明治四十年文部省令第十二號師範學校規程中左ノ通改正ス

第五十四條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ子ニシテ第四十八條ノ資格ヲ具ヘ入學セムトスルトキハ學校長ハ他ノ志願者ニ先チテ之ヲ許可スルコトヲ得但シ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法第五條第三號又ハ府縣立師範學校

長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第七條第二號ニ該當スル者ノ子又ハ法定ノ推定家督相續人ニ非サル養子ハ此ノ限ニアラス

一、二十箇年以上市町村立小學校又ハ府縣立師範學校訓導ノ職ニ在リタル者ニシテ退隱料ヲ受ケルノ權利ヲ有スル者

二、市町村立小學校教員又ハ府縣立師範學校訓導ノ職ニ在リタル者ニシテ市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法

第三條又ハ府縣立師範學校長俸給竝公立學校職員退隱料及遺族扶助料法第四條ニ依リ退隱料ヲ受クルノ權利ヲ有スル者

三、十五箇年以上市町村立小學校又ハ府縣立師範學校訓導ノ職ニ在ル者

第五十九條ノ二 地方長官ハ第五十四條ノ二ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ子ニシテ入學セル者ニ對シテハ之ニ支給スヘキ學費ノ額ヲ増加シ又ハ他ノ生徒ニ先チテ公費生トナスコトヲ得

第五十四條ノ二但シ書ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

女子高等師範學校規程中改正

明治四十二年三月四日
文部省令第七號

明治三十年文部省令第二十四號女子高等師範學校規程中左ノ通改正ス

第一條 東京女子高等師範學校ノ學科ヲ分チテ文科、理科、技藝科トス

文科ノ學科目ハ修身、教育學、國語、漢文、外國語、歷史、地理、音樂、體操トス
理科ノ學科目ハ修身、教育學、外國語、數學、物理、化學、博物、音樂、體操トス

技藝科ノ學科目ハ修身、教育學、外國語、物理及化學、家事、裁縫及手藝、圖畫及圖案、音樂、體操トス

第二條 奈良女子高等師範學校ノ學科ヲ分チテ豫科、本科トシ更ニ本科ヲ分チテ國語漢文部、地理歴史部、數物化學部、博物家事部トス

豫科ノ學科目ハ修身、國語、漢文、外國語、數學、習字、圖畫、音樂、裁縫、體操トス

本科國語漢文科ノ學科目ハ修身、教育學、國語、漢文、外國語、歷史、習字、音樂、體操トス

本科地理歴史部ノ學科目ハ修身、教育學、地理、歴史、國語及漢文、外國語、法制經濟、音樂、體操トス

本科數物化學部ノ學科目ハ修身、教育學、數學、物理、化學、外國語、手工、音樂、體操トス

本科博物家事部ノ學科目ハ修身、教育學、植物、動物、生物及衛生、礦物及地質、家事、外國語、音樂、體操トス

前各部ノ外本科各部ニ圖畫、音樂、裁縫、手藝、體操及園藝ヲ加ヘ生徒ノ所長ニ從ヒ其ノ一科目ヲ選修セシム但シ當

分ノ内本文ノ一科目又ハ數科目ヲ缺キ又ハ生徒ノ所長及學業成績ノ情況ニ依リ之ヲ課セサルコトアルヘシ

第三條 前二條ノ學科目中音樂ハ學習困難ナリト認メタル生徒ニハ之ヲ課セサルコトヲ得

第四條 女子高等師範學校ノ學科ハ師範學校女子部ノ課程ニ照シ更ニ一層精深ナル程度ニ於テ教授スルモノトス

第四條ノ二 削除

第五條 東京女子高等師範學校ニ於ケル文科、理科、技藝科ノ修業年期ハ各四箇年トス
第六條 奈良女子高等師範學校ニ於ケル修業年期ハ豫科四箇月本科三箇年八箇月トス
第十條 第一項中「第二條乃至第四條」ヲ「第一條及第二條ニ」改ム
第十二條 第一項中「文科、理科又ハ技藝科」ヲ「東京女子高等師範學校文科、理科、技藝科又ハ奈良女子高等師範學校本科各部」ニ改メ第二項中「倫理」ヲ「修身」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

師範學校規程中改正

明治四十二年九月二十一日
文部省令第二十一號

明治四十年文部省令第十二號師範學校規程中左ノ通改正ス

第五十一條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ當分ノ内修業年限ヲ一箇年ト爲シタル場合ニ於テ修業年限四箇年ノ高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ年齢十六年以上ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者ヲ入學セシムルコトヲ得

高等師範學校卒業生服務規則中改正

明治四十二年十二月二十日
文部省令第二十五號

明治三十年文部省令第十一號高等師範學校卒業生服務規則ヲ改正スルコト左ノ如シ

高等師範學校卒業生服務規則

第一條 高等師範學校卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間引續キ教育ニ關スル職務ニ從事スル義務ヲ有ス

一、本科卒業生中甲種ノ學費支給ヲ受ケタル者ハ七箇年

- 一、本科卒業業者中乙種ノ學費支給ヲ受ケタル者ハ五箇年
- 三、本科私費卒業業者ハ三箇年
- 四、専修科卒業業者中學費ノ支給ヲ受ケタル者ハ五箇年
- 五、専修科私費卒業業者ハ二箇年

第二條 高等師範學校卒業業者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間文部大臣ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務ヲ有ス

- 一、本科卒業業者中甲種ノ學費支給ヲ受ケタル者ハ三箇年
- 二、本科卒業業者中乙種ノ學費支給ヲ受ケタル者ハ二箇年
- 三、本科私費卒業業者ハ一箇年

四、専修科卒業業者中學費ノ支給ヲ受ケタル者ハ二箇年

五、専修科私費卒業業者ハ一箇年

第三條 高等師範學校卒業業者ニシテ特別ノ事情ニ依リ第一條ノ義務ヲ履行スルコト能ハサル者ハ其ノ理由ヲ具シ高等師範學校長又ハ地方長官ヲ經テ義務ノ猶豫又ハ免除ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得

前項ニ依リ出願シタル者アルトキハ高等師範學校長又ハ地方長官ハ事實ヲ審査シ意見ヲ付シテ願書ヲ進達スヘシ

第四條 高等師範學校卒業業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アリタルトキハ文部大臣ノ指揮ニ依リ學費ノ支給ヲ受ケタル者ニ在リテハ授業費及在學中支給セラレタル學費、私費卒業業者ニ在リテハ授業費ヲ償還セシム但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一、第一條ノ義務ヲ履行セサル者

二、服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者

前項授業費ノ金額ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ

第五條 高等師範學校卒業業者ニシテ服務年限中研究科又ハ帝國大學分科大學等ニ入學セムトスル者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ

第六條 高等師範學校卒業業者ニシテ第三條ニ依リ其ノ義務ヲ猶豫セラレタルトキ又ハ前條ニ依リ研究科又ハ帝國大學分科大學等ニ入學シタルトキハ其ノ猶豫又ハ在學ノ期間ハ服務年數ニ算入セス

附 則

本令ハ明治四十三年三月一日ヨリ施行ス

本令施行以前ニ入學シタル者ノ服務年限ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

高等師範學校規程中改正

明治四十二年十二月二十日
文部省令第二十六號

明治二十七年文部省令第十一號高等師範學校規程中左ノ通改正ス

第八條 生徒在學中懲戒ニ依リ退學ヲ命セラレタル者及自己ノ便宜ニ依リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學費及授業費ヲ償還スヘシ

文部大臣ハ其ノ情狀ニ依リ前項償還スヘキ學費及授業費ノ全部若ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

女子高等師範學校卒業生服務規則中改正

明治四十二年十二月二十日
文部省令第二十七號

明治三十年文部省令第十二號女子高等師範學校卒業生服務規則ヲ改正スルコト左ノ如シ

女子高等師範學校卒業生服務規則

第一條 女子高等師範學校卒業業者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間引續キ教育ニ關スル職務ニ從事スル義務ヲ有ス

一、本科卒業業者中甲種ノ學費支給ヲ受ケタル者ハ五箇年

二、本科卒業業者中乙種ノ學費支給ヲ受ケタル者ハ四箇年

三、本科私費卒業者ハ三箇年

四、専修科卒業者中學資ノ支給ヲ受ケタル者（修業年限三箇年ノ者ハ二箇年
修業年限二箇年ノ者ハ一箇年）

五、専修科私費卒業者（修業年限三箇年ノ者ハ二箇年
修業年限二箇年ノ者ハ一箇年）

第二條 女子高等師範學校卒業者ハ卒業證書受得ノ日ヨリ左ノ期間文部大臣ノ指定ニ從ヒ奉職スル義務ヲ有ス

一、本科卒業者中甲種ノ學資支給ヲ受ケタル者ハ三箇年

二、本科卒業者中乙種ノ學資支給ヲ受ケタル者ハ二箇年

三、本科私費卒業者ハ一箇年

四、専修科卒業者中學資ノ支給ヲ受ケタル者（修業年限三箇年ノ者ハ二箇年
修業年限二箇年ノ者ハ一箇年）

五、専修科私費卒業者ハ一箇年

第三條 女子高等師範學校卒業者ニシテ特別ノ事情ニ依リ第一條ノ義務ヲ履行スルコト能ハサル者ハ其ノ理由ヲ具シ女子高等師範學校長又ハ地方長官ヲ經テ義務ノ猶豫又ハ免除ヲ文部大臣ニ出願スルコトヲ得
前項ニ依リ出願シタル者アリタルトキハ女子高等師範學校長又ハ地方長官ハ事實ヲ審査シ意見ヲ付シテ願書ヲ進達スヘシ

第四條 女子高等師範學校卒業者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者アリタルトキハ文部大臣ノ指揮ニ依リ學資支給ヲ受ケタル者ニ在リテハ授業費及在學中支給セラレタル學費、私費卒業者ニ在リテハ授業費ノ償還セシム但シ情狀ニ依リ其ノ全部又ハ一部ノ償還ヲ免除スルコトアルヘシ

一、第一條ノ義務ヲ履行セサル者

二、服務年限中懲戒免職又ハ免許狀褫奪ノ處分ヲ受ケタル者

前項授業費ノ金額ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ

第五條 女子高等師範學校卒業者ニシテ服務年限中研究科等ニ入學セムトスル者アルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ

第六條 女子高等師範學校卒業者ニシテ第三條ニ依リ其ノ義務ヲ猶豫セラレタルトキ又ハ前條ニ依リ研究科等ニ入學シタルトキハ其ノ猶豫又ハ在學ノ期間ハ服務年數ニ算入セス

附 則

本令ハ明治四十三年三月一日ヨリ施行ス

本令施行以前ニ入學シタル者ノ服務年限ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

女子高等師範學校規程中改正

明治四十二年十二月二十日
文部省令第二十八號

明治三十年文部省令第二十四號女子高等師範學校規程中左ノ通改正ス

第八條 生徒在學中懲戒ニ依リ退學ヲ命セラレタル者及自己ノ便宜ニ依リ退學ヲ願フ者ハ支給セラレタル學資及授業費ヲ償還スヘシ

文部大臣ハ其ノ情狀ニ依リ前項償還スヘキ學資及授業費ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第九條第二項 削除

女子高等師範學校生徒學資支給ニ關スル事

明治四十二年十二月二十日
文部省訓令號外

東京女子高等師範學校 奈良女子高等師範學校

其ノ學校豫科本科及研究科生徒ニ支給スヘキ學資ハ甲種（月額七圓乃至十圓）及乙種（月額四圓乃至六圓）ノ二種トス但シ學力優等品行方正ニシテ他ノ模範タルヘキ生徒又ハ多年教職ニ從事シタル者ノ子ニシテ特別ノ事情アル生徒ニ對シテハ月額十五圓マテ支給スルコトヲ得

前項學費支給ノ方法及人員ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ學校長之ヲ定ムヘシ（東京女子高等師範學校ニ對シテハ豫科ノ二字ヲ除ク）

師範學校規程中改正

明治四十三年七月七日
文部省令第二十號

明治四十年文部省令第十二號師範學校規程中左ノ通改正ス

第四十六條第一項但書ヲ削ル

第六十二條ニ左ノ一項ヲ加フ

地方長官ハ本科私費卒業者ニ對シ一箇年間小學校教員就職指定ニ關スル義務ヲ附スルコトヲ得

第六十九條第二項中「尋常小學校教員」ノ下ニ「又ハ小學校裁縫科正教員」ヲ加フ

第七十條ニ左ノ一項ヲ加フ

小學校裁縫科正教員ヲラントスル者ノ爲設クル講習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ身體健全ニシテ尋常小學校教員免許
狀ヲ有スル者又ハ身體健全、品行方正ニシテ之ト同等ノ學力ヲ有スル者トシ其ノ講習期間ハ一箇年以上トス

附 則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

高等師範學校規程中改正

明治四十三年十月二十八日
文部省令第二十四號

明治二十七年文部省令第十一號高等師範學校規程中左ノ通改正ス

第二條及第三條中「倫理」ヲ「修身」ニ改ム

附 則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臨時教員養成所規程中改正

明治四十三年十月二十八日
文部省令第二十五號

明治三十五年文部省令第八號臨時教員養成所規程中左ノ通改正ス

第三條、第四條、第五條、第六條及第七條中「倫理」ヲ「修身」ニ改ム

附 則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

女子高等師範學校規程中改正

明治四十三年十一月十一日
文部省令第二十八號

明治三十年文部省令第二十四號女子高等師範學校規程中左ノ通改正ス

第一條 東京女子高等師範學校ノ學科ヲ分チテ文科、理科、技藝科トシ更ニ各科ヲ分チテ第一部、第二部トス

文科第一部ノ學科目ハ修身、教育學、國語、漢文、歷史、法制經濟、外國語、音樂、體操トス

文科第二部ノ學科目ハ修身、教育學、歷史、地理、國語及漢文、法制經濟、外國語、音樂、體操トス

理科第一部ノ學科目ハ修身、教育學、數學、物理、化學、鑛物、外國語、音樂、體操トス

理科第二部ノ學科目ハ修身、教育學、植物、動物、生理及衛生、地質及鑛物、數學、物理及化學、外國語、圖畫、音

樂、體操トス

技藝科第一部ノ學科目ハ修身、教育學、家事、生理及衛生、應用理科、裁縫、圖畫、國語、外國語、音樂、體操トス

技藝科第二部ノ學科目ハ修身、教育學、家事、生理及衛生、應用理科、圖畫、手藝及手工、國語、外國語、音樂、體

操トス但シ手藝及手工ハ生徒ヲシテ其ノ一科目ヲ選修セシム

附 則

本令ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行以前入學シタル者ノ學科ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依ル

師範學校教授要目ノ制定

明治四十三年五月三十一日
文部訓令第十三號

北海道廳 府縣

今般本省ニ於テ左ノ通師範學校教授要目ヲ編纂セリ地方長官ハ各師範學校長ヲシテ本要目ニ準據シ地方ノ情況ニ適切ナル教授細目ヲ定メシメ以テ各學科目教授ノ效果ヲ完ウシ師範教育ノ本旨ニ副ハシメンコトヲ期スヘシ
師範學校教授要目

本要目實施上ノ注意

- 修身
- 教育
- 國語及漢文
- 英語
- 歷史
- 地理
- 數學
- 博物
- 物理及化學
- 法制及經濟
- 習字
- 圖畫
- 手工
- 音樂

家事

裁縫

農業

商業

本要目實施上ノ注意

- 一、各學科目ヲ教授スルニハ其ノ固有ノ目的ヲ達スルコトニカムルト共ニ互ニ聯絡補益シテ統一ヲ保タンコトヲ要ス
- 二、本要目ニ掲ケタル事項及順序ハ斟酌ヲ加フルモ妨ナシ
- 三、教授用具ハ教授上差支ナキ限り成ルヘク日用品ヲ利用シ又ハ教員自ラ製作シテ之ニ充テンコトヲ力ムヘシ又諸學科目ニ通スル用具ハ成ルヘク之ヲ兼用スヘシ

修身

豫備科

男生徒ノ部 每週二時

教育ニ關スル勅語

勅語ノ全文ニ就キテ丁寧慎重ニ述義シ且之ヲ暗誦暗寫セシムヘシ

道德ノ要領

高等小學校第三學年用修身教科書ニ據ル

作法

女生徒ノ部 每週二時

男生徒ノ部ニ準ス

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

教育ニ關スル勅語

勅語ノ全文ニ就キテ丁寧慎重ニ述義シ且之ヲ暗誦暗寫セシムヘシ

師範學校生徒心得

師範教育ニ關スル法令・當該學校規則等ノ中生徒ノ心得ヘキ事項

道德ノ要領

皇位及皇室

皇位 皇統 皇室 敬稱

國

國家ノ成立 國體 臣民

國憲・國法

家

家 祖先 親子 夫婦 兄弟 親族 僕婢

忠孝・愛國

作法

○第二學年 每週一時

教育ニ關スル勅語

前學年ノ復習

戊申詔書

詔書ノ全文ニ就キテ丁寧慎重ニ述義シ且之ヲ暗誦暗寫セシムヘシ
道德ノ要領

社會合同生活

合同ノ精神 公務 自治 公益 秩序 風俗

誠實 勤勉 信義 恭儉 禮節 博愛

人格 自己ノ修養 職業 名譽 財產 權利、義務

國交

外國ニ對スル信義 外國人ニ對スル禮儀・交際

作法

○第三學年 每週一時

教育ニ關スル勅語

前學年ノ復習

倫理學ノ一斑

行爲・良心・至善・本務及德ノ概要

教師ノ心得

教師ノ國家社會ニ對スル責務 教師ノ德義、修養ノ方法

小學校ニ於ケル修身教授法

教授ノ要旨

教授材料ノ選擇及排列

教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

小學校修身教科書用圖書ノ研究

○第四學年 每週一時

我カ國民道德ノ特質

我カ國道德ノ由來
教育ニ關スル勅語發布ノ由來
總括

忠孝ノ一致 愛國奉公 共同生存 國家ノ獨立等
以上ノ事項ヲ授クルニハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ既授ノ知識ヲ湊合活用セシメテ其ノ意義ヲ明確ニシ以テ我
カ國民道德ノ特質ヲ悟了セシムヘシ

女生徒ノ部

○第一學年 每週二時

男生徒ノ部ニ準ス

○第二學年 每週一時

男生徒ノ部ニ準ス

○第三學年 每週一時

男生徒ノ部ニ準ス

○第四學年 每週二時

男生徒ノ部ニ準シ更ニ左ノ現行法制上ノ事項ノ大要ヲ加フ

政體

天皇、大權

臣民

帝國議會

國務大臣及樞密顧問

行政官廳

中央官廳、地方官廳

公共團體

府縣、郡、市、町村

訴訟及行政訴訟

條約附國際關係

人、法人

物、權利ノ得喪

物權・債權ノ大要

親族・相続ノ大要

罪及刑

裁判所、訴訟

商事會社、銀行

貨幣、手形、株券、證券

產業組合

貯蓄、保險

財政ノ一斑

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

教育ニ關スル勅語及戊申詔書

師範學校生徒心得

教師ノ心得

我カ國民道德ノ特質

小學校ニ於ケル修身教授法
作法

以上各項ハ本科第一部ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二箇年ノモノ

○第一學年 每週一時

教育ニ關スル勅語及戊申詔書

師範學校生徒心得

教師ノ心得

作法

以上各項ハ本科第一部ニ準ス

○第二學年 每週二時

我カ國民道德ノ特質

現行法制上ノ事項ノ大要

小學校ニ於ケル修身教授法

以上各項ハ本科第一部ニ準ス

修業年限一箇年ノモノ

○第一學年 每週二時

本科第二部男生徒ノ部ニ準シ更ニ現行法制上ノ事項ノ大要ヲ加フ

注意

一、修身ノ教授ハ努メテ實際ノ生活ニ適切ナランコトヲ要ス

二、本科第一部第一學年及第二學年ノ道德ノ要領ハ高等小學校第三學年用修身教科書ニ準據シ更ニ精深ニ教授スヘシ

三、女生徒ニ對シテハ前ニ掲ケタル道德ノ要領ヲ授クルノ外更ニ女子ニ必要ナル諸德ヲ養ハンコトニ注意スヘシ

四、作法ヲ教授スルニハ善ク其ノ精神ノ存スル所ヲ知ラシメ應用宜シキヲ得シメンコトヲ要ス但シ其ノ心得ヲ授クルニハ別ニ時間ヲ設ケス道德ノ要領ヲ授クルニ際シ便宜併セ課スルモ可ナリ

五、倫理學ノ一班ヲ教授スルニハ既ニ授ケタル事項ヲ更ニ理論的ニ調和統一シ我カ國民道德ノ精神ヲ徹底セシメ以テ實踐躬行上ノ信念ヲ確實ナラシムヘシ

六、教師ノ心得ヲ授クル際ニハ明治十四年文部省達第十九號小學校教員心得ヲ説明スヘシ

七、教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタルトキ又ハ陸海軍戰役記念日及忠良賢哲ノ記念日等ニ於テハ適宜教訓スルヲ可トス

八、現行法制上ノ事項ノ大要ヲ授クルニハ理論ニ馳セス簡易實用ヲ主トスヘシ

教育

本科第一部

男生徒ノ部

○第二學年 每週二時

心理

心的現象 心理研究ノ方法

心的現象ノ生理的基礎 意識 注意

感覺 知覺 直觀 觀念 類化 記憶 想像 概念 斷定 推理 言語 感應 情緒 情操 衝動 本能 欲望

意志 品性 個性心ノ發達

○第三學年 每週四時

論理

名辭 命題 論式 演繹法 歸納法

教育ノ理論 教授法及保育法

教育ノ意義 教育ノ效果

教育ノ目的ニ關スル概説 小學校教育ノ目的

養護ノ目的 兒童身體ノ發達 養護ノ方法

教授ノ目的 教材ノ選擇及排列 教授ノ方法

訓練ノ目的 個性ト訓練 訓練上學校ト家庭及社會トノ關係 訓練ノ方法 養護、教授訓練ノ關係

教育ノ種類及場所

保育ノ目的 保育ノ方法

○第四學年 每週十二時

近世教育史、教育制度、學校管理法、學校衛生 每週三時

教育實習 每週九時

近世教育史

近世本邦教育ノ概要

近世歐米教育ノ概要

歐米現時ノ學制及教育ノ趨勢

本邦維新以後ノ教育

教育制度、學校管理法、學校衛生

教育制度ノ概要

小學校ノ本旨及種類

小學校ノ設置

小學校ノ教科及編制

小學校ノ設備

就學

小學校ノ職員

小學校ノ費用負擔及授業料

小學校ニ類スル各種學校

幼稚園

小學校ノ管理及監督

採光、通風、暖房 清潔法

教授上ノ衛生

身體検査

學校傳染病 救急療法ノ大要

教育實習

初ハ附屬小學校ニ於ケル實際ト模範教授トヲ參觀セシメテ説明ヲ與ヘ然ル後教授草案ヲ調製シテ實地授業ニ當ラシメ指導教員ハ教授ニ當ラサル生徒ヲ率キテ之ニ立會ヒ其ノ教授ヲ監督シテ適否ヲ論評シ應用上ノ注意ヲ指示スヘシ又常ニ管理訓練ノ實際ニ當ラシメ各種ノ研究問題ヲ課スル等ノコトヲナスヘシ

女生徒ノ部

○第二學年 每週二時

男生徒ノ部ニ準ス

○第三學年 每週四時

男生徒ノ部ニ準ス

○第四學年 每週十二時

男生徒ノ部ニ準ス但シ教育實習ニ於テハ便宜保育ノ實習ヲモナサシムヘシ

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週十五時

本科第一部第二學年、第三學年及第四學年ニ準シ更ニ小學校ニ於ケル歴史地理ノ教授法ヲ加フ
女生徒ノ部

修業年限二箇年ノモノ

○第一學年 每週四時

本科第一部第二學年第三學年ニ準ス

○第二學年 每週十一時

本科第一部第四學年ニ準ス

修業年限一箇年ノモノ

○第一學年 每週十三時

本科第一部第二學年、第三學年及第四學年ニ準シ更ニ小學校ニ於ケル歴史地理ノ教授法ヲ加フ

注意

一、心理ヲ授クルニハ努メテ教育上ノ實際ニ應用シテ之ヲ説明スヘシ

二、論理ヲ授クルニハ教育上ノ應用ニ注意シ思考ノ練習ニ重キヲ置クヘシ

三、教育ノ理論ヲ授クルニハ倫理、心理、論理等ノ知識ヲ應用シテ教育ノ據ルヘキ原理ヲ明カニシ且常ニ小學校教育ノ實際ニ通シメンコトヲ努ムヘシ

四、教授法及保育法ヲ授クルニハ兒童心身ノ發育ノ理ニ基キ教育ノ理論ト實際ト生活トニ願ミテ適切ナル方法ヲ明カニスヘシ

五、近世教育史ヲ授クルニハ常ニ其ノ現時ニ及ホシタル影響ニ著眼シ殊ニ小學校ノ變遷ニ重キヲ置クヘシ又教育ノ思想制度ノ變遷及其ノ相互ノ關係ヲ知ラシメ主ナル教育家ノ學說及人物ヲ其ノ時勢ト關聯シテ授ケ更ニ其ノ教育上ニ及ホシタル影響ヲ明カニスルヲ要ス

六、教育制度、學校管理法及學校衛生ヲ授クルニハ凡テ小學校教育ノ實際ノ事項ニ就キテ其ノ理法ヲ詳ニシ現行ノ法令規則ノ要旨ヲ明カニシ之カ適用ヲ誤ラサラシメンコトヲ要ス而シテ些細ナル實際上ノ事項ニ至リテハ教育實習ノ際教導指示スヘシ

國語及漢文

國語讀本ノ文體ハ凡左ノ標準ニ適合スルモノタルヘシ

普通文、口語文、書讀文、韻文ノ四種トス

普通文ハ現代文ヲ主トシ近世文近古文ヲ交フ現代文ハ平易ニシテ作文ノ模範トスヘキモノタルヘク近世文近古文ハ成ルヘク現代文ニ近キモノタルヘシ

口語文ハ簡明ニシテ方言ヲ雜フルコトナク口語ノ標準ヲ示スニ足り話方作文ノ模範トスヘキモノタルヘシ

書讀文ハ平易ニシテ繁褥ニ失セス日用書讀文ノ模範トスヘキモノタルヘシ

韻文ハ博ク新體詩、短歌、今樣、俳句等ニ互リテ格調高雅ナルモノタルヘシ

漢文讀本ノ文體ハ散文韻文トス但シ普通ノ散文ヲ主トシ平易正雅ナル韻文ヲ加フヘシ

國語讀本ノ材料ハ凡左ノ標準ニ適合スルモノタルヘシ但シ女子ノタメニハ家政其ノ他女子ニ適切ナル事項ヲ加フヘシ
 思想健全ニシテ道義の觀念ヲ涵養スルニ足ルモノ
 文學の趣味ヲ有シ生徒ノ思想ニ適シ其ノ心情ヲ高雅ナラシムルモノ
 時勢ニ適シ國民日常ノ生活ニ裨益アリ常識ヲ養成スルニ足ルモノ
 我カ國體及民族ノ美風等ヲ記述シ國民性ヲ涵養スルニ足ルモノ
 欽仰スヘキ教育家學者其ノ他賢哲ノ傳記ニシテ修養ニ裨益アルモノ
 漢文讀本ノ材料ノ標準ハ凡國語讀本ノ材料ノ標準ニ據ルヘシ

豫備科

男生徒ノ部 每週十時

國語

講讀每週九時
作文每週一時

講讀

讀本ハ凡現代文六、口語文二、書牘文韻文二ノ比ヲ以テ組織シタルモノタルヘシ

讀方及解釋

發音ヲ正確明瞭ニシ句讀ヲ正クシ語句文章ノ意義ヲ領得セシメ文意文勢ヲ誦讀ノ上ニ表シ進ミテハ文章ノ妙所ヲ玩味セシムヘシ

話方 主トシテ讀本若ハ讀本所載ノ事項ニ就キ談話ヲ練習セシム

其ノ際發音ニ注意シ方言訛音ヲ矯正センコトニ努ムヘシ

暗誦 適當ナル文ヲ選ヒテ暗誦セシム又韻文ハ大抵暗誦セシムヘシ

書取 讀本若ハ讀本以外ノ語句文章ヲ筆記セシメ假名遣及漢字ノ字畫、用法ヲ正確ニシ且速記スルノ習慣ヲ養ハシムヘシ

ヘシ

作文

作文ノ文體ハ現代文、口語文、書牘文ノ三トス

自作文 各自ノ思想ヲ各種ノ文體ニ記述セシムヘシ

譯文 各種ノ文體ヲ交互ニ書キ改メシムヘシ

復文 說話ヲ聞カシメ各種ノ文體ニ記述セシムヘシ

女生徒ノ部 每週九時

國語 講讀每週八時
作文每週一時

講讀

男生徒ノ部ニ準ス

作文

男生徒ノ部ニ準ス

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年 每週六時

國語

講讀每週二時
作文文法 每週二時

講讀

讀本ハ凡現代文四、近世文近古文二、口語文二、書牘文韻文二ノ比ヲ以テ組織シタルモノタルヘシ

讀方及解釋 話方 暗誦 書取

豫備科ニ準ス

作文

自作文、譯文、復文

豫備科ニ準ス

文法

文語口語ノ文法ノ大略ヲ授クヘシ

漢文 每週二時

讀本ハ簡單ナル記事文敘事文及平易ナル詩歌ヲ採録セルモノタルヘシ間々簡易ナル論說文ヲ交フルモ妨ナシ
讀方ハ國語ノ法則ニ從ヒ解釋ハ普通ノ口語ヲ用ヒテ之ヲナサシムヘク且講讀ノ際漢文ト國文トノ組織ノ異同ニ注意セシ
メ熟語成句ヲ書取ラシメテ文字ノ字畫用法ヲ正確ニ會得セシムヘシ又人口ニ膾炙セル文章詩歌ハ成ルヘク之ヲ暗誦セシ
ムヘシ

○第二學年 每週四時

國語 講讀作文文法每週二時

講讀

讀本ハ凡現代文四、近世文近古文三、口語文書讀文韻文三ノ比ヲ以テ組織シタルモノタルヘシ

讀方及解釋 話方 暗誦 書取

前學年ニ準ス

作文

自作文ヲ主トスヘシ

文法

前學年ニ於テ教授シタル事項ニ就キ稍精シク之ヲ説明スヘシ

漢文 每週二時

讀本ハ前學年ノ後ヲ承ケテ程度稍進メル記事文敘事文、簡易ナル論說文及詩歌ヲ採録セルモノタルヘシ
讀方及解釋 書取 暗誦

前學年ニ準ス

時々國語ノ簡單ナル章句ヲ漢文ニ譯セシメ措辭用字ノ法ヲ會得セシムヘシ

○第三學年 每週三時

國語 講讀作文第一學期第二學期每週二時

講讀

讀本ハ前學年ニ準ス

讀方及解釋 話方 暗誦 書取

前學年ニ準ス

作文

自作文ヲ主トスヘシ

小學校ニ於ケル國語教授法 第三學期每週二時

教授ノ要旨

材料ノ選擇及排列

教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

小學校國語讀本ノ研究

漢文 每週一時

讀本ハ前學年ノ後ヲ承ケテ程度ノ更ニ進メル記事文敘事文論說文及詩歌ヲ採録セルモノタルヘシ
讀方及解釋

前學年ニ準ス

○第四學年 每週二時

講讀

讀本ハ前學年ニ準ス

讀方及解釋 話方 書取

前學年ニ準ス

作文

前學年ニ準ス

漢文 每週一時

讀本ハ前學年ニ準ス但シ我ケ國ノ徳教ニ關係アル支那ノ典籍ヲ以テ之ニ代フルモ妨ナシ

讀方及解釋

前學年ニ準ス

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

國語及漢文

講讀

讀本ハ凡現代文四、口語文二、書讀文韻文二、漢文二ノ比ヲ以テ組織シタルモノタルヘシ
作文文法

本科第一部第四學年ニ準シテ作文ヲ授ケ又文語口語ノ文法ノ大要ヲ練習セシムヘシ

小學校ニ於ケル國語教授法

本科第一部第三學年ニ準ス

教授時數ヲ配當スルニハ凡講讀一時、作文文法半時、小學校ニ於ケル國語教授法半時ノ比ヲ以テスルヲ適當トス

女生徒ノ部

修業年限二箇年ノモノ

○第一學年 每週五時

國語及漢文

講讀

讀本ハ凡現代文二、口語文二、書讀文韻文二、漢文四ノ比ヲ以テ組織シタルモノタルヘシ

作文文法

本科第一部第三學年ニ準シテ作文ヲ授ケ又口語文語ノ文法ノ大要ヲ練習セシムヘシ

小學校ニ於ケル國語教授法

本科第一部第三學年ニ準ス

教授時數ヲ配當スルニハ凡講讀三時半、作文文法一時、小學校ニ於ケル國語教授法半時ノ比ヲ以テスルヲ適當ス

○第二學年 每週三時

國語及漢文

講讀

第一學年ニ準ス

作文文法

本科第一部第四學年ニ準シテ作文ヲ授ケ又前學年ノ後ヲ承ケテ口語文語ノ文法ノ大要ヲ練習セシムヘシ
教授時數ヲ配當スルニハ講讀二時半、作文文法半時ノ比ヲ以テスルヲ適當トス

修業年限一箇年ノモノ
○第一學年 每週三時
國語及漢文

講讀

修業年限二箇年ノモノニ準ス

作文文法

修業年限二箇年ノモノニ準ス

小學校ニ於ケル國語教授法

修業年限二箇年ノモノニ準ス

教授時數ヲ配當スルニハ講讀二時、作文文法半時、小學校ニ於ケル國語教授法半時ノ比ヲ以テスルヲ適當トス

注意

- 一、作文ハ成ルヘク多ク之ヲ課スヘシ
- 二、書取ハ成ルヘク多ク之ヲ課シ殊ニ日常ノ用語ヲ十分練習セシムヘシ
- 三、漢字ヲ教授スルニ當リテハ一般普通ニ行ハルル俗字、和字、略字、省畫等ヲ避ケス實用ニ適センコトヲ主トシテ煩瑣ナル考證ニ趨ラサランコトヲ要ス
- 四、文法ハ成ルヘク讀本其他普通ノ實例ニ就キテ授ケ實用ニ遠サカラサランコトヲ要ス
- 五、適當ノ時期ニ於テ字書ノ用法ヲ授ケ其ノ使用ニ慣レシムヘシ

實 驗

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年 每週三時

發音 綴字

初ハ專ラ發音綴字ヲ授ケ後ニハ讀方ニ關聯シテ之ヲ練習セシムヘシ

讀方 話方及綴方

近易ナル文章ニ就キテ音讀譯解ヲ授ケ併セテ近易ナル話方及綴方ヲ練習セシメ兼テ便宜文法上ノ事項ヲ知ラシムヘシ

書 方
成ルヘク既修ノ語句文章ニ就キテ習字書取ヲ授ケヘシ

○第二學年 每週三時

讀方 話方及綴方

前學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授ケ又簡易ナル和文英譯ヲモ練習セシムヘシ

書 方

前學年ニ準ス

○第三學年 每週三時

讀方 話方及綴方

前學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授ケヘシ

書 方

前學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授ケヘシ

書 方

前學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ書取ノミヲ授ケヘシ

文 法

文法ノ大要ヲ授ケヘシ

小學校ニ於ケル英語教授法

教授法ノ概要及教授ニ必要ナル注意

○第四學年 每週二時

讀方 話方及綴方

前學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ之ヲ授ケ又記事文及書簡文ヲモ練習セシムヘシ

書方

前學年ニ準シ稍進ミタル程度ニ於テ書取ヲ授クヘシ

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

本科第一部

女生徒ノ部

修業年限二箇年ノモノ

○第一學年 每週三時

本科第一部第三學年ニ準ス

○第二學年 每週三時

本科第一部第四學年ニ準ス

注意

一、發音ハ特ニ教授ノ初期ニ於テ嚴ニ之ヲ正シ常ニ其ノ習熟ニ意ヲ用フヘシ

二、讀方ニ於テハ場合ニ依リ實物繪畫等ヲ用ヒ又彼我風俗習慣等ノ相違ヲ説キテ意義ノ了解ヲ助クヘシ

三、學力稍進ミタル生徒ニ對シテハ成ルヘク英語ヲ用ヒテ説明シ又時々暗誦ヲ課スヘシ

歷史

本科第一部

男生徒ノ部

日本歷史

○第一學年 每週二時

神代

神武天皇

崇神天皇、垂仁天皇

日本武尊

朝鮮、三韓、三國ノ分立、韓土ノ内附、文物ノ傳來

仁德天皇

大陸トノ交通、韓土ノ叛服

佛教ノ傳來

上世ノ政治、氏族制、蘇我、物部兩氏ノ爭亂

聖德太子、支那ヘノ使節派遣

佛教ノ興隆、美術工藝ノ進歩

蘇我氏ノ專横

大化ノ新政

韓土ノ離叛、蝦夷ノ服屬

律令ノ撰定

奈良食都、倭人及西南諸島ノ服屬

聖武天皇、奈良時代ノ佛教・文物

和氣清麻呂

平安食都、蝦夷ノ鎮定

韓土ノ變遷、渤海ノ入貢

佛教ノ新宗派

藏人所、檢非違使廳

攝政・關白

菅原道真

地方ノ情況、承平・天慶ノ亂

藤原氏家門ノ爭、朝臣ノ榮華、平安時代ノ文物

刀伊ノ入寇、前九年・後三年ノ役

後三條天皇、院政、僧兵

源平二氏ノ隆替、平氏ノ滅亡

源賴朝、鎌倉幕府、守護・地頭

承久ノ亂、北條氏ノ執權

鎌倉時代ノ佛教・文物

蒙古ト高麗、弘安ノ役

兩皇統ノ交立

北條氏ノ滅亡

建武中興

南北朝

室町幕府、足利義滿

關東管領、永享・嘉吉ノ亂

應仁ノ亂

室町時代ノ佛教・文物

足利氏ノ季世、群雄割據

明トノ交通、歐羅巴人ノ來航

織田信長

豐臣秀吉ノ海內統一

朝鮮ノ建國、豐臣秀吉ノ朝鮮征伐

○第二學年 第一學期 每週二時

德川家康、關ヶ原ノ戰、豐臣氏ノ滅亡

江戸幕府、德川家光

海外諸國トノ交通、天主教ノ禁、島原ノ亂

德川綱吉、德川吉宗

江戸時代ノ佛教・文物、西洋學術ノ傳來

國學ノ勃興、尊王論

露國人ノ來航、海防論、蝦夷地ノ開拓

北米合衆國使節ノ來朝、開港・攘夷ノ論、和親條約

假條約、安政ノ大獄

長州征伐

大政奉還

伏見・鳥羽ノ戰、明治戊辰ノ役

○第三學年 第二學期後半及第三學期 每週二時(但シ小學校日本歴史教授法トモ)

明治ノ新政

版籍奉還、廢藩置縣

歐・米文物ノ採用、社會及風俗ニ及ホシタル影響

征韓論、朝鮮トノ修好

清國トノ修好、臺灣事件

北海道ノ拓殖、千島・樺太ノ交換

地方ノ騷亂

朝鮮ノ事變、天津條約

立憲政體ノ確立

制度ノ發達、文物ノ進歩

明治二十七八年戰役

條約改正

明治三十三年清國事變、日英同盟

明治三十七八年戰役

戰後ノ經營、韓國ノ保護、世界平和ノ保障

世界ニ於ケル日本ノ地位

外國歴史

甲 支那ヲ中心トシタル東方諸國

○第二學年 第二學期第三學期 每週二時

上代ノ支那

夏、殷、周

春秋・戰國、秦ノ統一

周代ノ文物、孔子

漢ノ統一

武帝ノ業、四夷ノ服屬

前漢ノ衰亂、後漢

西域トノ交通、印度、佛教ノ東流

兩漢ノ文物

三國、晉ノ統一

胡族ノ侵入

南北朝、隋ノ統一

唐ノ創業

玄宗、安史ノ亂

唐代ノ文物・宗教、南海ノ貿易

唐ノ衰亡、五代

宋ノ統一

遼・金ノ興廢

宋代ノ文物

蒙古ノ勃興

元ノ世祖・宋ノ滅亡

東西陸上ノ交通

元ノ衰亡、諸汗國ノ盛衰、帖木兒

明ノ統一

明ノ衰運、滿洲ノ勃興

葡萄牙人ノ來航、通商及宣教

元・明ノ文化

清ノ統一

聖祖、清・露ノ交渉

邊外ノ征服

鴉片戰役

長髮賊、英・佛軍ノ侵入

露國ノ滿洲經略

露國ノ中央亞細亞經略、伊犁事件
佛國ノ印度支那經略、清・佛戰爭
清國ニ對スル諸強國ノ壓迫

乙 西洋諸國 ○第三學年第一學期及第二學期ノ前半 每週二時
太古ノ東方諸國

希臘諸國

羅馬ノ建國及勃興

基督教

日耳曼諸族ノ侵入、西羅馬帝國ノ滅亡

サラセンノ勃興、回教

フランク王國、佛蘭西・獨逸兩國ノ分立

ノルマンノ活動

西歐ノ封建

十字軍及其ノ結果

英・佛ノ交渉、百年戰役

土耳其ノ勃興、東羅馬帝國ノ滅亡

文藝ノ復興及諸發明

西班牙ト葡萄牙、地理上ノ發見

宗教改革、和蘭ノ獨立

莫臥兒帝國、葡萄牙・和蘭等ノ東洋經略

佛蘭西王ルイ十四世

英吉利ノ革命

露西亞ノペートル大帝、北方大戰役

普魯西ノフレデリック大王、奧地利王位繼承ノ役

波蘭ノ分割、西比利亞ノ拓殖

殖民地ニ於ケル英・佛人ノ衝突

北米合衆國ノ獨立

十八世紀ニ於ケル歐洲諸國ノ情勢及文物

佛蘭西革命、ナポレオン一世

神聖同盟、亞米利加諸國及希臘ノ獨立

ナポレオン三世、クリミア戰役

伊太利ノ統一

北米合衆國、南北戰爭

獨逸ノ統一

露・土戰役

歐・米強國勢力ノ擴張、強國殖民地ノ經營

十九世紀ノ文明ノ進歩

小學校ニ於ケル日本歴史教授法

○第三學年 第三學期(日本歴史ヲ終リタル後ニ授ク)

教授ノ要旨

教授材料ノ選擇及排列

教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

小學校日本歴史教科用圖書ノ研究

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

本科第一部

女生徒ノ部

修業年限二箇年ノモノ

○第一學年 每週二時

日本歴史ノ補習
小學校ニ於ケル日本歴史教授法

注意

- 一、日本歴史各事項ノ詳略ハ主トシテ小學日本歴史ニ準據シテ之ヲ定ムヘシ
- 二、日本歴史中特ニ學校所在地方ニ關係多キ事蹟ハ較詳ニ之ヲ教授スヘシ
- 三、適當ナル對照年表ヲ選ヒテ成ルヘク生徒各自ニ之ヲ備ヘシメ紀年ノ聯絡關係ヲ明カニセシムヘシ
- 四、教授ノ際ニハ成ルヘク地圖、繪畫、實物、標本等ヲ示シテ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ

地理

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

帝國ノ位置

本州

總說

位置、境域、地勢、氣候、生業、交通、人口ノ疎密、行政區畫等自然地理及人文地理ノ概要ヲ授クヘシ以下之ニ倣フ

各說

各府縣ニ就キテ位置、境域、地勢、生業、交通、都會等ノ事項ヲ授クヘシ以下之ニ倣フ

四國

總說

各說

九州及沖繩地方

總說

各說

臺灣

前例總說記載事項ノ外更ニ住民、政治、都會、沿革ヲ加フヘシ

北海道

臺灣ノ項ニ準ス

樺太

臺灣ノ項ニ準ス

日本地理總說

地勢

近海

氣候

天產物

住民

政治

神社、宗教
生業
交通

韓國地理

臺灣ノ項ニ準ス

滿洲地理

臺灣ノ項ニ準ス

○第二學年 每週二時

外國地理

亞細亞洲

總說

位置、境域、地勢、氣候、天産物、住民、生業、交通、區畫等ノ概要ヲ授クヘシ以下之ニ做フ

各說

各國又ハ各地方ニ就キテ位置、境域、地勢、氣候、生業、住民、政治、交通、都會等ノ事項ヲ授クヘシ但シ國ノ大小我カ國トノ關係ノ多少等ニ依リ教授事項ノ分量ヲ斟酌スヘシ以下之ニ做フ

清國

亞細亞露西亞

亞細亞土耳其、亞刺比亞

イラン地方

印度

印度支那

馬來諸島

大洋洲

前例總說記載事項ノ外更ニ政治、都會等ノ事項ヲ加フヘシ

歐羅巴洲

總說

各說

露西亞

スカンヂナビヤ半島

丁抹

獨逸

奧地利洪牙利

瑞西

佛蘭西

白耳義

和蘭

英吉利

イペリヤ半島

伊太利

バルカン半島

亞弗利加洲

大洋洲ノ項ニ準ス

北亞米利加洲

總說

各説

加奈陀及ニューファウンドランド

亞米利加合衆國

墨西哥

中央亞米利加

西印度諸島

南亞米利加洲

大洋洲ノ項ニ準ス

自然地理概説

宇宙、太陽系、太陽

地球及其ノ運動

月及其ノ運動

曆

陸界ノ變動及地形

海洋ノ狀態

氣界ノ狀態、天氣及氣候

地勢氣候生物相互ノ關係

○第三學年 每週一時

人文地理概説

自然ト人類トノ關係

住民及其ノ狀態

生業及重要產物ノ分布

交通

國家

世界主要諸國ノ國力比較

本邦ノ世界ニ於ケル位置

小學校ニ於ケル地理教授法

教授ノ要旨

教授材料ノ選擇及排列

教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

小學校地理教科用圖書ノ研究

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

女生徒ノ部

修業年限二箇年ノモノ

○第一學年 每週二時

日本地理・外國地理ノ補習

小學校ニ於ケル地理教授法

注意

一、學校所在府縣及之ト密接ノ關係アル地方ノ地理ハ特ニ詳細ニ教授シ他ノ地方ノ地理ヲ教授スルニ當リテモ常ニ學校所在地方ニ關係アル事項ニ注意スヘシ

自然地理ノ説明ノ如キモ成ルヘク實例ヲ其ノ地方ニ取ルヘシ

二、外國地名中普通漢字ヲ用フルモノハ便宜其ノ漢字ヲモ知ラシムヘシ

三、便宜ノ時間ニ於テ地圖ノ描寫及見取圖製作ノ實習ヲナサシムヘシ

數學

豫備科

男生徒ノ部

算術

暗算、筆算及珠算ノ練習

高等小學校第三學年ノ程度ニ準ス

女生徒ノ部 每週五時

男生徒ノ部ニ準ス

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年 每週四時

算術及代數

整數 小數 分數

負數

整數式

四則 一次方程式 約數、倍數

幾何附算術

直線

角 平行線

直線形

三角形 平行四邊形 求積

圖

弧 弦 弓形 切線

○第二學年 每週三時

算術、代數及幾何

分數式

約分 通分 四則 分數方程式

開方

開平 開立 二次方程式 無理式

比例

比 比例

比例線 相似形 求積

○第三學年 每週三時

算術、代數及幾何

三角函數

銳角ノ三角函數 直角三角形ノ解法 對數

級數

等差級數 等比級數

步合算

步合 利息

簿記

複式簿記

貸借 勘定科目 帳簿記入 結算

單式簿記

小學校ニ於ケル算術教授法

教授ノ要旨

教授材料ノ選擇及排列

教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

小學校算術教科用圖書ノ研究

○第四學年 每週二時

幾何附算術

平面

平面上直線 二面角 立體角

多面體

角錐 角錐 求積

曲面體

圓錐 圓錐 球 求積

女生徒ノ部

○第一學年 每週三時

算術及代數

整數 小數 分數

負數

整數式

四則 一次方程式 約數、倍數

分數式

約分、通分 四則 分數方程式

○第二學年 每週三時

算術、代數及幾何

開方

開平 開立 二次方程式

直線

角 平行線

直線形

三角形 平行四邊形 求積

圓

弧 弦 弓形 切線

○第三學年 每週二時

算術、代數及幾何

比例

比 比例

比例線 相似形 求積

級數

等差級數 等比級數

步合算

步合 利息

小學校ニ於ケル算術教授法

男生徒ノ部ニ準ス

○第四學年 每週二時

幾何附算術

平面

平面ト直線 二面角 立體角

多面體

角錐 角錐 求積

曲面體

圓錐 圓錐 球 求積

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

算術

暗算、筆算及珠算ノ練習

簿記

本科第一部ニ準ス

小學校ニ於ケル算術教授法

本科第一部ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二箇年ノモノ

○第一學年 每週四時

算術、代數及幾何

本科第一部第一學年及第二學年ニ準シ教授材料及其ノ程度ヲ斟酌スヘシ

○第二學年 每週三時

算術、代數及幾何

本科第一部第三學年及第四學年ニ準シ教授材料及其ノ程度ヲ斟酌スヘシ

小學校ニ於ケル算術教授法

本科第一部ニ準ス

修業年限一箇年ノモノ

○第一學年 每週三時

算術、代數及幾何

修業年限二箇年ノモノニ準シ更ニ教授材料及其ノ程度ヲ斟酌スヘシ

小學校ニ於ケル算術教授法

本科第一部ニ準ス

注意

一、算術、代數及幾何ハ相互ノ聯絡ヲ圖リ殊ニ代數及幾何ヲ授クル際算術ニ關スル事項ヲ正確ニ理解セシムヘシ

二、暗算及珠算ハ本科第一部ニ於テモ隨時之ヲ練習セシムヘシ

三、幾何ニ於ケル軌跡及作圖ハ適當ナル場合ニ於テ便宜之ヲ授クヘシ

四、法規ニ關スル事項ハ法制及經濟、商業等ノ學科目ト聯絡シテ便宜之ヲ授クヘシ

五、數學科ニ於ケル簿記ハ簡易ヲ旨トシ商業科ニ於ケル簿記ニ先チテ之ヲ授クヘシ

簿記

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年 每週三時

植物 凡八十時

植物ノ教授ハ箇々ノ植物ノ觀察實驗ニ基キ適宜左ノ事項ヲ授クヘシ
形態

植物體ノ主要ナル器官、其ノ種々ナル變形
分類

顯花植物 被子植物・裸子植物及其ノ主要ナル科ノ性質・適例
隱花植物 羊齒植物・蘚苔植物・菌藻植物ノ性質・適例

醱酵・腐敗・傳染病等ノ原因タル植物ノ大要

學校所在地方ノ普通植物ノ分類

解剖

細胞、組織、根・葉及莖ノ構造

生理

生活作用、生活要件、養分、吸收、同化、蒸散、呼吸、成長、運動、刺激感應、生殖

生態

植物生活ト外界トノ關係、其ノ形態・生理・分布上ニ於ケル影響

分布

地理的分布、生態的分布、學校所在地方ニ於ケル分布

應用

主要ナル食用・嗜好料・藥用・有毒・建築用・工業用・觀賞用植物、肥料・飼料ニ用フル植物及農林業ニ有害ナル植物

實驗及實習セシムヘキ事項ハ左ノ如シ

檢索

解剖ニ關スル實驗

生理ニ關スル實驗

採集

栽培

標本ノ調製法及保存法

説明圖及模型ノ製作

動物 凡四十時

脊椎動物

哺乳類

猴類、食肉類、齒類、長鼻類、有蹄類、鯨類、食蟲類、翼手類、貧齒類、有袋類、單孔類

鳥類

猛禽類、攀禽類、鳴禽類、鳩類、鷄類、涉禽類、游禽類、走禽類

蟲類

鱗類、龜類、蜥蜴類、蛇類

兩棲類

無尾類、有尾類

魚類

硬骨類、軟骨類、硬鱗類、肺魚類、圓口類

附

頭索類、被囊類

○第二學年 每週二時

動物 凡三十時(但シ生物通論トモ)

節足動物

昆蟲類

鞘翅類、鱗翅類、膜翅類、雙翅類、半翅類、脈翅類、直翅類

蜘蛛類

多足類

甲殼類

胸甲類、節甲類、切甲類

軟體動物

頭足類

腹足類

瓣鳃類

蠕形動物

環蟲類

圓蟲類

扁蟲類

棘皮動物

海膽類

海星類

沙嚙類

腔腸動物

珊瑚類

水母類

海綿動物

原始動物

動物ノ教授ハ分類ヲ基礎トシ各部類ニ就キ左ノ事項ヲ授クヘシ

解剖

骨骼・筋肉・内臓等ノ位置・形状・關係、他ノ動物トノ比較

生理

消化、循環、呼吸、排泄、運動、神經作用、生殖、發生、變體

習性

習性ノ中其ノ構造トノ關係ノ顯著ナルモノ、自然現象トシテ趣味アルモノ、人生ニ密接ノ關係アルモノ等

寄生、共生、害敵ニ對スル保護等

分布

動物ノ傳播、地理上ノ分布

應用

寄生蟲ニ對スル豫防、病毒媒介動物ニ對スル注意、農林水産業上ノ有益動物、有害動物相互ノ關係及其ノ利用、家畜、肥料、水産物ノ利用、食料、衣料、藥品、染料、裝飾品、賞翫用等

實驗及實習セシムヘキ事項左ノ如シ

解剖

發生其ノ他ノ實驗

採集

飼育

標本ノ調製及保存法

説明圖及模型ノ製作

生物通論

植物、動物

生活現象

器官作用、個體生活ノ根本的條件、自然淘汰及人為淘汰、適應ノ狀態、生活法ノ種類、蕃殖
進化論大意

生理 凡四十時

人體ノ構造

骨骼系

骨ノ構造・聯接・機能・發育
衛生及普通ノ疾患

筋肉系

筋肉ノ種類・構造・機能・發育
衛生及普通ノ疾患

消化系

飲食物

消化器及其ノ機能
衛生及普通ノ疾患

循環系

血液

循環器及其ノ機能
淋巴

衛生及普通ノ疾患

呼吸系

呼吸器及其ノ機能

發聲器

衛生及普通ノ疾患

排泄系

排泄器及其ノ機能、尿
衛生及普通ノ疾患

皮膚

皮膚ノ構造及其ノ機能
毛髮、爪

衛生及普通ノ疾患

神經系

腦髓・背髓・神經・五官及其ノ機能・發育
衛生及普通ノ疾患(特ニ神經衰弱及近視眼)

全身ニ關スル事項

體溫、新陳代謝、疲勞、恢復、發育、老衰

個人衛生

節制、清潔、運動、休息、睡眠、修學、執業
救急療法、疾患ニ對スル心得

酒、烟草ノ害

公衆衛生

居住地、交通、集會、職業、傳染病

鑛物 凡十時

土壤

種類、組成、性質、成因、用途等
主要ナル岩石及造岩礦物

成分、性質、成因、產狀、變化、用途、產地等並造岩礦物ノ形態火成岩及其ノ造岩礦物
花崗岩 綠岩 石英 長石附陶土 雲母 角閃石 輝石 電氣石 石英粗面岩

○第三學年 每週一時
礦物 凡三十時

火成岩及其ノ造岩礦物(續)

安山岩 熔岩 黑曜石 浮石 火山灰等 玄武岩
水成岩

砂岩 礫岩 泥岩 粘板岩 凝灰岩 硅岩 石灰岩附方解石
變成岩

片麻岩 雲母片岩 綠泥片岩 蛇紋岩
地殼構造概要

地史概要

其ノ他主要ナル礦物

性質用途ヲ説キ便宜其ノ形態・成因・產狀・產地・採掘・製煉等ヲ授クヘシ

金礦 銀礦 銅礦 鐵礦 鉛礦 亞鉛礦 あんちもにー礦 錫礦 滿俺礦 黃鐵礦 硫黃 螢石 岩鹽 石膏 磷灰
石 蛋白石 柘榴石 黃玉石 鋼玉石 金剛石 石墨 石炭 あすふあると 石油
實驗及實習セシムヘキ事項左ノ如シ

結晶 劈開 硬度 比重 條痕 吹管分析 濕式反應等
説明圖及模型ノ製作 地層面ノ測定

見取圖及野稿圖 主トシテ學校所在地方ノ礦物及岩石ニ就キ鑑識練習

小學校ニ於ケル理科教授法 (主トシテ博物ニ關スルモノ) 凡十時

教授ノ要旨

教授材料ノ選擇及排列

教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

小學校理科教科用圖書ノ研究

女生徒ノ部

○第一學年 每週二時

植物

動物

男生徒ノ部ニ準ス

○第二學年 每週二時

動物

生理

男生徒ノ部ニ準ス

○第三學年 每週一時

礦物

小學校ニ於ケル理科教授法

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週一時

小學校ニ於ケル理科其ノ他ノ教科目中ノ博物的教材

小學校ニ於ケル理科ノ植物・動物・生理及礦物ニ關スル實驗
植物檢索

學校所在地方産ノ普通ナル植物・動物・礦物及岩石ノ鑑識

植物動物及礦物ノ採集

博物標本ノ調製法及保存法

説明圖及模型ノ製作

本科第一部ニ準ス

小學校ニ於ケル理科教授法

本科第一部ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二箇年ノモノ

○第一學年 每週二時

男生徒ノ部ニ準ス

修業年限一箇年ノモノ

○第一學年 每週一時

男生徒ノ部ニ準ス

注意

一、本要目ニ掲ケタル事項ハ土地ノ狀況ト季節トニ由リ便宜斟酌スヘシ

二、博物ハ物理及化學・地理・農業ノ學科目ト聯絡シテ之ヲ受クヘシ

物理及化學

本科第一部

男生徒ノ部

○第二學年 每週二時

化學

空氣 酸素 窒素

水 水素

無水炭酸

鹽素・臭素・沃素・弗素及其ノ化合物

酸素・硫黃及其ノ化合物

窒素・磷・砒素・あんちもん及其ノ化合物

炭素・珪素・硼素及其ノ化合物

なとりうむ・かりうむ及其ノ化合物 あむもにうむ化合物

かるしうむ及其ノ化合物

あるみにうむ及其ノ化合物

錫・鉛・蒼鉛及其ノ化合物

まぐねしうむ・亞鉛及其ノ化合物

鐵・むにつける・こばると・まんがん・くろむ及其ノ化合物

銅・水銀・銀・金・白金及其ノ化合物

術語、定律、假説等ハ教授ノ際適當ナル場合ニ之ヲ説明スヘシ

實驗

教授事項中ヨリ主トシテ小學校理科教授ニ必要ナルモノヲ選擇シテ生徒各自ニ實驗ヲナサシムヘシ

○第三學年 每週三時

化學 凡四十五時

沼氣 えちりん あせちりん 石油
あるこーる えーてる あるでひど けとん

有機酸

脂肪及油

炭水化物

こーるたーる べんぜん あにりん 色素

てるべん

あるかろいど

蛋白質

術語、定律、假説等ハ教授ノ際適當ナル場合ニ之ヲ説明スヘシ

物理 凡六十五時

力學

運動 慣性 力 重力 質量 力ノ作用及反作用 力ノ釣合 仕事 えねるぎー 宇宙引力

物性

物質ノ三態 分子力 彈性 液體ノ壓力 あるきめですノ原理 大氣ノ壓力 ぼいるノ定律 表面張力

熱

溫度 膨脹 比熱 三態ノ變化 潜熱 濕度 熱ノ移動 熱ノ仕事當量

實驗

前學年ニ準ス

小學校ニ於ケル理科教授法(主トシテ物理及化學ニ關スルモノ)凡十時

教授ノ要旨

教授材料ノ選擇及排列

教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

小學校ニ於ケル理科教科用圖書ノ研究

○第四學年 每週四時

物理

音

音波 強サ 高サ 干涉 調和 音色 共鳴

光

直進 光度 反射 屈折 分散 輻射 吸收 光波

磁氣

磁石 感應 地球磁氣

電氣

二種ノ電氣 傳導 感應 空中電氣 電流 電池 電流ノ強サ 電動力 抵抗 電氣 分解 電流ト熱 電流ト磁氣

感應電流 えつくす線 放射能 電波

實驗

前學年ニ準ス

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

物理及化學

小學校理科教授ニ必要ナル物理及化學ノ知識ヲ補習シ且生徒各自ニ實驗ヲナサシムヘシ

小學校ニ於ケル理科教授法

本科第一部ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二箇年ノモノ

○第二學年 每週三時

物理及化學

小學校理科教授ニ必要ナル物理及化學ノ知識ヲ補習シ且生徒各自ニ實驗ヲナサシムヘシ

小學校ニ於ケル理科教授法

本科第一部ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二箇年ノモノ

○第一學年 每週二時

物理及化學

修業年限二箇年ノモノニ準ス

小學校ニ於ケル理科教授法

本科第一部ニ準ス

注意

一、適切ナル場合ニ簡易ナル計算問題ヲ課スヘシ

二、日常ノ生活ニ資スヘキ事項及實業上主要ナル機械器具製品ニ就キテ説明ヲ與フルコトヲ努ムヘシ

法制及經濟

本科第一部

○第四學年 每週二時

法制

政體

權利義務

天皇、大權

臣民(服從ノ義務、納稅兵役ノ義務、選舉權ノ行使ニ關スル事項等)

帝國議會、選舉

國務大臣及樞密顧問

行政官廳

內閣總理大臣、各省大臣、地方長官

統監、關東都督

公共團體

府縣、郡、市、町村

公共組合

行政

學事、軍事、社寺、警察、衛生、公用徵收、土木、勸業、交通等

訴訟及行政訴訟

條約附國際關係

人、法人附商事會社

物、權利ノ得喪

物權

所有、用役、質、抵當等

不動產登記

債權

契約

賣買、貸借、委任、運送、保險、手形等

不法行為

親族

親等、家、婚姻、親子、後見、親族會、扶養ノ義務等

相続

家督相続、遺產相続、遺言

罪及刑

裁判所、民事訴訟附家資分散及破産、刑事訴訟

親族、相続等ノ項ニ於テ適宜非訟事件手續ニ關スル事項ヲ授クヘシ

經濟

生産

生産ノ要素、分業及協力、企業、機械

交換

物價、貨幣、信用及信用證券、銀行、貿易、交通

分配

地代、貨金、利子、利潤、同盟罷工及トラスト

消費

貯蓄、保險、恐慌

生産、交換、分配、消費ノ項ニ於テ適宜産業組合、勸業銀行、農工銀行等ニ關スル事項ヲ授クヘシ

財政

國家ノ財政、自治體ノ財政

本科第一部

○第一學年 每週二時

本科第一部ニ準ス

注意

一、法制及經濟ハ理論ニ馳セス努メテ簡易實用ヲ主トスヘシ

二、法制ヲ授クルニハ成ルヘク制度ノ本旨及由來ノ大要ヲモ併セ授クヘシ

豫備科

豫備科

男生徒ノ部 每週三時

楷書

大字細字ノ練習

女生徒ノ部 每週三時

男生徒ノ部ニ準ス

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

楷書、行書

大字細字ノ練習

○第二學年 每週一時
行書、平假名

大字細字ノ練習

黑板上ノ練習

○第三學年 每週一時

草書、平假名

細字ノ練習

黑板上ノ練習

小學校ニ於ケル國語科書キ方教授法

教授ノ要旨

教授材料ノ選擇及排列

教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

小學校書キ方手本ノ研究

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

注意

一、本文ノ各體ヲ授クルニ當リテ間架結構ノ大要ヲ授クヘシ但シ專ラ實用ニ適切ナランコトヲ主トシ徒ニ繁雜ナル書論ニ涉ルコトヲ避クヘシ

二、片假名ハ楷書ト共ニ之ヲ授クヘシ

■ 書

豫備科

男生徒ノ部 每週二時

寫生畫 臨畫

幾何形體、器物、模型、植物

考案畫

主トシテ幾何的模様ヲ授クヘシ

寫生畫及臨畫ニハ簡易ナル著色ヲ施スコトヲ得

女生徒ノ部 每週二時

男生徒ノ部ニ準ス

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

寫生畫 臨畫

器物、模型、植物、動物

考案畫

幾何的模様及天然物ヨリ變成シタル模様ヲ授クヘシ

幾何畫

直線、角、圓、多角形、曲線

簡易ナル立體ノ平面圖、立面圖、側面圖、展開圖ヲ加フヘシ

黑板上ノ練習

寫生畫臨畫ニテ著色ノ練習ヲナサシメ考案畫ニテ配色ノ應用ヲ授クヘシ

○第二學年 每週一時

寫生畫 臨畫

器物、植物、動物、建築物、人物
考案畫

前學年ニ準ス

幾何學

立體ノ平面圖、立面圖、側面圖、展開圖、切斷圖、等角圖

黑板上ノ練習

色彩ハ前學年ニ準ス

○第三學年 每週二時

寫生畫

植物、動物、建築物、人物、景色

考案畫

前學年ニ準シ更ニ器物圖案ヲ投ケ便宜既習ノ模様ヲ之ニ應用セシムヘシ
幾何畫

前學年ニ準シ更ニ透視畫法ノ一斑ヲ加フヘシ

黑板上ノ練習

色彩ハ前學年ニ準ス

小學校ニ於ケル圖畫教授法

教授ノ要旨

教授材料ノ選擇及排列

教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

小學校ニ於ケル圖畫教科用圖書ノ研究

寫生畫

○第四學年 每週一時

第三學年ニ準ス

考案畫

第三學年ニ準ス

黑板上ノ練習

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週一時

寫生畫

本科第一部第三學年及第四學年ニ準ス

考案畫

本科第一部第三學年及第四學年ニ準ス

黑板上ノ練習

本科第一部第三學年及第四學年ニ準ス

小學校ニ於ケル圖畫教授法

本科第一部第三學年ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二箇年ノモノ

○第一學年 每週一時

寫生畫

本科第一部第三學年ニ準ス

考案畫

本科第一部第三學年ニ準ス

黑板上ノ練習

本科第一部第三學年ニ準ス

小學校ニ於ケル圖畫教授法

本科第一部第三學年ニ準ス

○第二學年 每週一時

寫生畫

本科第一部第四學年ニ準ス

考案畫

本科第一部第四學年ニ準ス

黑板上ノ練習

本科第一部第四學年ニ準ス

修業年限一箇年ノモノ

○第一學年 每週一時

男生徒ノ部ニ準ス

注意

一、自在畫教授ノ際ニハ成ルヘク陰影畫法及透視畫法ニ就キ簡易ニ其ノ理法ヲ説明スヘク又時々記憶畫及見取畫ノ練習ヲナサシムヘシ

二、色彩ヲ授クルニハ著色法ノ外六色及其ノ明色ト暗色トノ區別ヲ知ラシメ更ニ色ノ性質對比及調和ヲ示スヘシ

三、描寫ニハ主トシテ鉛筆及毛筆ヲ用ヒシムヘシ但シ便宜色鉛筆及ペン等ヲ使用セシムルモ可ナリ

四、生徒ヲシテ成ルヘク名作品又ハ其ノ複製品ヲ見セシメ趣味ノ涵養ニ資スヘシ

手工

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年 每週一時

竹細工

普通ノ竹細工「材料ノ性質用法及工具ノ使用法」

木工

鉋削及鋸斷練習 簡易ナル日用器具ノ製作 材料ノ性質用法及工具ノ使用法(特ニ鉋及鋸ノ構造使用法)

○第二學年 每週二時

粘土石膏細工

普通ノ粘土細工及之ヲ石膏ニ寫スコト 材料ノ性質用法及工具ノ使用法

木工

簡易ナル日用器具ノ製作(特ニ普通ノ組手指口ノ作方及釘付法)

材料ノ性質用法及工具ノ使用法

○第三學年 每週一時

小學校ニ於ケル各種ノ細工

色板排 豆細工 絲紐細工 材料ノ性質用法及工具ノ使用法

小學校ニ於ケル手工教授法

教授ノ要旨

教授材料ノ選擇及排列

教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

○第四學年 每週二時

粘土石膏細工

第二學年ニ準ス

金工

簡易ナル日用器具ノ製作(針金細工、板金細工)銅・黃銅・鐵等ノ加工法 材料ノ性質用法及工具ノ使用法

女生徒ノ部

○第一學年 每週一時

竹細工

普通ノ竹細工 材料ノ性質用法及工具ノ使用法

編物造花

普通編物ノ製作 簡易ナル造花 材料ノ性質用法及工具ノ使用法

○第二學年 每週二時

編物造花

前學年ニ準ス

粘土石膏細工

普通ノ粘土細工及之ヲ石膏ニ寫スコト 材料ノ性質用法及工具ノ使用法

小學校ニ於ケル各種ノ細工

色板排 豆細工 紙細工 絲紐細工等 材料ノ性質用法工具ノ使用法

○第三學年 每週一時

簡易ナル木金細工

簡易ナル日用器具ノ製作 材料ノ性質用法及工具ノ使用法

小學校ニ於ケル手工教授法

男生徒ノ部ニ準ス

○第四學年 每週一時

簡易ナル木金細工

前學年ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

簡易ナル竹細工・粘土石膏細工・木工・金工 小學校ニ於ケル各種ノ細工

本科第一部ニ準ス

小學校ニ於ケル手工教授法

本科第一部ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二箇年ノモノ

○第一學年 每週二時

簡易ナル竹細工・粘土石膏細工 小學校ニ於ケル各種ノ細工

本科第一部ニ準ス

編物造花

本科第一部ニ準ス

○第二學年 每週一時

簡易ナル木金細工

本科第一部ニ準ス
小學校ニ於ケル手工教授法
本科第一部ニ準ス

修業年限一箇年ノモノ

○第一學年 每週二時

簡易ナル竹細工・粘土石膏細工 編物 造花
小學校ニ於ケル各種ノ細工

本科第一部ニ準ス

小學校ニ於ケル手工教授法

本科第一部ニ準ス

注意

- 一、生徒ヲシテ成ルヘク多種ノ材料ト多樣ナル工作トニ接セシメ以テ廣ク製作ノ技能ヲ得シムヘシ
- 二、材料ノ性質用法及工具ノ使用等ニ關スル事項ハ實習ニ附帶シテ之ヲ授ケ又工具ノ使用法ヲ授クル際ニハ工具ノ手入法保存法ヲモ授クヘシ
- 三、土ノ狀況ニ依リ便宜藁細工麥稈細工等ヲ授クヘシ
- 四、圖畫科トノ聯絡ニ注意スヘシ
- 五、製作ノ際ニハ成ルヘク先ツ工作圖ヲ作ラシムヘシ
- 六、女生徒ニ在リテハ便宜幼稚園ニ於ケル手技ヲ實習セシムヘシ

音樂

豫備科

男生徒ノ部 每週二時

基本練習

發聲練習 音程練習 聽音練習 呼吸練習

歌曲

平易ナル單音唱歌

女徒ノ部 每週二時

男生徒ノ部ニ準ス

本科第一部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

樂典

譜表、音名、音部記號、音符、休止符、縱線、拍子、嬰變及本位記號、速度標語、發想記號及雜記號

基本練習

發聲練習及高程練習 又時々聽練習及呼吸練習ヲ行フヘシ

歌曲

平易ナル單音唱歌

○第二學年 每週二時

樂典

音程論及音階論(長旋法嬰變種)

基本練習

前學年ニ準ス

歌曲

單音唱歌

樂器

おるがんノ構造及各部ノ名稱・使用法・基礎的練習・簡易ナル樂曲
但シびあの若ハばいおりんノ奏法ヲ授クルコトヲ得

○第三學年 每週二時

樂典

音階論(短旋法嬰變種、雅樂旋法、俗樂旋法)

基本練習

前學年ニ準ス

歌曲

單音唱歌 二部輪唱歌及二部ノ重音唱歌

樂器

前學年ニ準シ程度稍進ミタル樂曲

小學校ニ於ケル唱歌教授法

教授ノ要旨

教授材料ノ選擇及排列

教授ノ方法

教授用具及教授上必要ナル注意

○第四學年 每週一時

樂典

移調及轉調 和聲學初步

歌曲

單音唱歌 二部三部ノ輪唱歌及二部三部ノ重音唱歌

樂器

前學年ニ準シ程度稍進ミタル樂曲

女生徒ノ部

男生徒ノ部ニ準ス

本科第二部

男生徒ノ部

○第一學年 每週二時

樂典大要 單音唱歌 樂器使用法

本科第一部第一學年第二學年ニ準ス

女生徒ノ部

修業年限二箇年ノモノ

○第一學年 每週二時

樂典大要 單音唱歌 輪唱歌 重音唱歌 樂器使用法

本科第一部第一學年第二學年及第三學年ニ準ス

○第二學年 每週一時

樂典大要 唱歌 樂器使用法 小學校ニ於ケル唱歌教授法

本科第一部第四學年ニ準ス

修業年限一箇年ノモノ

○第一學年 每週二時

修業年限二箇年ノモノノ第二學年ニ準ス

注意

一、唱歌及樂器ノ教授ニハ總テ本譜ヲ用フヘシ

二、指揮法ハ第三學年第四學年ニ於テ適宜之ヲ授クヘシ

三、歌曲ハ歌詞、曲調共ニ高尚優雅ナルモノヲ選フヘシ又小學校ニテ用ヒラルル唱歌ハ必ス練習セシムヘシ

家事

○第三學年 每週二時

家内ノ整頓

住居ノ修理保存 掃除 室内ノ設備 衣服什器ノ整頓 裝飾 戸締 火ノ用心等
衣服什器ノ整頓ニ關聯シテ其ノ選擇及保存ニ關スル事項ヲ授クヘシ
家事衛生

採光 換氣 排水 洗濯 清潔法等

飲食物ノ調理

日常食品 嗜好食品 飲料水 飲料 調理 獻立 貯藏等
調理ニ關聯シテ食器、庖厨具及燃料ニ關スル事項ヲ授クヘシ
實習

洗濯 張物 シミヌキ 掃除 磨キ物 飲食物ノ調理等

○第四學年 每週二時

育児

懷妊中ノ心得 出産、嬰兒ノ取扱方 哺乳、離乳後食物 小兒ノ衣服 小兒ノ睡眠等
養老及看病

衣食住ノ注意 起居ノ介抱

藥用 傳染病及其ノ豫防 消毒法 危篤者ノ取扱 救急法

家事經濟

家計簿記

實習

飲食物調理 救急法ノ演習等

注意

一、家事ノ教授ハ其ノ地方實際ノ事情ニ適切ナラシメンコトニ注意スヘシ

二、家事ノ教授ハ理論ニ偏スルコトナク成ルヘク實習ヲ多カラシムヘシ

三、他ノ學科ニ於テ授ケタル事項ハ努メテ之ヲ家事實際ニ應用スルノ法ヲ知ラシムヘシ

裁縫

本要目中單ニ衣類ノ名稱ノミヲ掲グルモノハ仕上ケニ至ル迄生徒ヲシテ實習セシメ「説明」ノ二字ヲ加フルモノハ必要ナル事項ノ説明ニ止メテ實地ノ仕立ヲ省クヘシ又×ノ印ヲ附スルモノハ土地ノ情況ニ依リテ之ヲ省クコトヲ得

豫備科 每週四時

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方・留メ方・繼キ方・縫ヒ合セ方 襪掛ケ方 クケ方等

本裁縫科

一ツ身單衣

四ツ身單衣

三ツ身單衣

×車裁若ハ前衿裁衿

一ツ身綿入

本科第一部

○第一學年 每週四時

基礎的技術ノ練習

運針法 絲ノ結ヒ方・留メ方・繼キ方・縫ヒ合セ方 襪掛ケ方 クケ方等

本裁男女單衣